



クイック・リファレンス・ガイド

Adaptive Server[®] Enterprise

15.7

ドキュメント ID : DC32974-01-1570-01

改訂 : 2011 年 9 月

Copyright © 2012 by Sybase, Inc. All rights reserved.

このマニュアルは Sybase ソフトウェアの付属マニュアルであり、新しいマニュアルまたはテクニカル・ノートで特に示されないかぎり、後続のリリースにも付属します。このマニュアルの内容は予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されているソフトウェアはライセンス契約に基づいて提供されるものであり、無断で使用することはできません。

このマニュアルの内容を弊社の書面による事前許可を得ずに、電子的、機械的、手作業、光学的、またはその他のいかなる手段によっても、複製、転載、翻訳することを禁じます。

Sybase の商標は、**Sybase trademarks ページ** (<http://www.sybase.com/detail?id=1011207>) で確認できます。Sybase およびこのリストに掲載されている商標は、米国法人 Sybase, Inc. の商標です。® は、米国における登録商標であることを示します。

このマニュアルに記載されている SAP、その他の SAP 製品、サービス、および関連するロゴは、ドイツおよびその他の国における SAP AG の商標または登録商標です。

Java および Java 関連の商標は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

Unicode と Unicode のロゴは、Unicode, Inc. の登録商標です。

IBM および Tivoli は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

このマニュアルに記載されている上記以外の社名および製品名は、当該各社の商標または登録商標の場合があります。

Use, duplication, or disclosure by the government is subject to the restrictions set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of DFARS 52.227-7013 for the DOD and as set forth in FAR 52.227-19(a)-(d) for civilian agencies.

Sybase, Inc., One Sybase Drive, Dublin, CA 94568.

クイック・リファレンス・ガイド

トピック名	
データ型	1
標準規格と準拠レベル	3
データ型と暗号化カラム	4
Adaptive Server のグローバル変数	5
予約語	10
関数	12
コマンド	28
対話型 dbsql コマンド	61
システム・プロシージャ	63
カタログ・ストアド・プロシージャ	91
拡張ストアド・プロシージャ	92
dbcc ストアド・プロシージャ	93
システム・テーブル	96
DBCC テーブル	102
モニタリング・テーブル	103
sybpcidb テーブル	114
ユーティリティ	115

データ型

データ型の詳細については、『リファレンス・マニュアル：ビルディング・ブロック』を参照してください。

データ型 (種類別)	同義語	範囲	記憶サイズ (バイト数)
真数値：整数 bigint		$2^{63} \sim -2^{63} - 1$ (-9,223,372,036,854,775,808 ~ +9,223,372,036,854,775,807) の間の 整数値。	8
int	integer	$2^{31} - 1$ (2,147,483,647) ~ -2^{31} (-2,147,483,648)	4
smallint		$2^{15} - 1$ (32,767) ~ -2^{15} (-32,768)	2
tinyint		0 ~ 255 (負の数は使用できない)	1

データ型

データ型 (種類別)	同義語	範囲	記憶サイズ (バイト数)
unsigned bigint		0 ~ 18,446,744,073,709,551,615 の間の 整数値	8
unsigned int		0 ~ 4,294,967,295 の間の整数値	4
unsigned smallint		0 ~ 65535 の間の整数値	2
真数値：小数			
numeric (p, s)		$10^{38} - 1 \sim -10^{38}$	2 ~ 17
decimal (p, s)	dec	$10^{38} - 1 \sim -10^{38}$	2 ~ 17
概数値			
float (precision)		マシンに依存する	default precision < 16 の場合は 4、 default precision >= 16 の場合は 8。
double precision		マシンに依存する	8
real		マシンに依存する	4
通貨			
smallmoney		-214,748.3647 ~ 214,748.3648	4
money		922,337,203,685,477.5807 ~ -922,337,203,685,477.5808	8
日付／時刻			
smalldatetime		1900 年 1 月 1 日 ~ 2079 年 6 月 6 日	4
datetime		1753 年 1 月 1 日 ~ 9999 年 12 月 31 日	8
date		0001 年 1 月 1 日 ~ 9999 年 12 月 31 日	4
time		12:00:00AM ~ 11:59:59.999PM	4
bigdatetime		0001 年 1 月 1 日 ~ 9999 年 12 月 31 日 および 12:00.000000AM ~ 11:59:59.999999 PM	8
bigtime		12:00:00.000000 AM ~ 11:59:59.999999 PM	8
文字			
char(n)	character	ページサイズ	n
varchar(n)	character varying, char varying	ページサイズ	実際のエントリの長さ
unicar	Unicode 文字	ページサイズ	$n * @@unicarsize$ ($@@unicarsize$ は 2)
univarchar	Unicode 文字 varying, char varying	ページサイズ	実際の文字数 * $@@unicarsize$
nchar(n)	national character, national char	ページサイズ	$n * @@ncharsize$
nvarchar(n)	nchar varying, national char varying, national character varying	ページサイズ	$@@ncharsize * 文字数$

データ型 (種類別)	同義語	範囲	記憶サイズ (バイト数)
text		$2^{31} - 1$ (2,147,483,647) バイト以下	初期化前は 0、初期化後は 2K の倍数
unitext		1 ~ 1,073,741,823	初期化前は 0、初期化後は 2K の倍数
バイナリ binary(n)		ページサイズ	<i>n</i>
varbinary(n)		ページサイズ	実際のエントリの長さ
image		$2^{31} - 1$ (2,147,483,647) バイト以下	初期化前は 0、初期化後は 2K の倍数
ビット bit		0 または 1	1 (1 バイトで 8 つまでの bit カラムを保持する)

標準規格と準拠レベル

以下は、Transact-SQL データ型の ANSI SQL 標準規格と準拠レベルを示しています。標準規格と規格への準拠の詳細については、『リファレンス・マニュアル：ビルディング・ブロック』を参照してください。

Transact-SQL – ANSI SQL データ型 char、varchar、smallint、int、bigint、decimal、numeric、float、real、date、time、double precision

Transact-SQL 拡張機能 – ユーザ定義データ型 binary、varbinary、bit、nchar、datetime、smalldatetime、bigdatetime、bigtime、tinyint、unsigned smallint、unsigned int、unsigned bigint、money、smallmoney、text、unitext、image、nvarchar、unichar、univarchar、sysname、longsysname、timestamp

データ型と暗号化カラム

次の表は、暗号化カラムでサポートされているデータ型と、ディスク上におけるデータ型の暗号化カラムの長さを示しています。

データ型	入力データ長	暗号化カラムのタイプ	暗号化データの最大長 (init_vector なし)	暗号化データの実際の長さ (init_vector なし)	暗号化データの最大長 (init_vector 使用)	暗号化データの実際の長さ (init_vector 使用)
date	4	varbinary	17	17	33	33
time	4	varbinary	17	17	33	33
smalldatetime	4	varbinary	17	17	33	33
bigdatetime	8	varbinary	17	17	33	33
bigtime	8	varbinary	17	17	33	33
datetime	8	varbinary	17	17	33	33
smallmoney	4	varbinary	17	17	33	33
money	8	varbinary	17	17	33	33
bit	8	varbinary	17	17	33	33
bigint	8	varbinary	17	17	33	33
unsigned bigint	8	varbinary	17	17	33	33
unichar(10)	2 (1 unichar 文字)	varbinary	33	17	49	33
unichar(10)	20 (10 unichar 文字)	varbinary	33	33	49	49
univarchar(20)	20 (10 unichar 文字)	varbinary	49	33	65	49

Adaptive Server のグローバル変数

以下は、Adaptive Server のグローバル変数と各変数の簡単な説明です。詳細については、『リファレンス・マニュアル：ビルディング・ブロック』を参照してください。

<code>@@active_instances</code>	クラスタ内のアクティブなインスタンスの数を返す。
<code>@@authmech</code>	ユーザの認証に使用するメカニズムを示す。
<code>@@bootcount</code>	インストールが起動された回数を返す。
<code>@@boottime</code>	Adaptive Server が最後に起動された日付と時刻を返す。
<code>@@bulkarraysize</code>	バルク・コピー・インタフェースを使用して転送される前にローカル・サーバ・メモリにバッファリングされるローの数を返す。
<code>@@bulkbatchsize</code>	バルク・インタフェースを使用して <code>select into proxy_table</code> 経由でリモート・サーバに転送されるローの数を返す。
<code>@@char_convert</code>	文字セット変換が有効でない場合は 0 を返す。文字セット変換が有効な場合は 1 を返す。
<code>@@cis_rpc_handling</code>	<code>cis rpc handling</code> がオフの場合は 0 を返す。 <code>cis rpc handling</code> がオンの場合は 1 を返す。
<code>@@cis_version</code>	コンポーネント統合サービスの日付とバージョンを返す。
<code>@@client_csexpansion</code>	サーバの文字セットをクライアントの文字セットに変換するときを使用する拡張係数を返す。
<code>@@client_csid</code>	クライアントの文字セットが初期化されていない場合は -1 を返す。クライアントの文字セットが初期化されている場合は <code>syscharsets</code> から接続用のクライアントの文字セット ID を返す。
<code>@@client_csname</code>	クライアントの文字セットが初期化されていない場合は NULL を返す。クライアントの文字セットが初期化されている場合は、接続用の文字セットの名前を返す。
<code>@@clusterboottime</code>	クラスタの起動を最初に開始したインスタンスが停止している場合でも、クラスタが最初に起動した日時を返す。
<code>@@clustercoordid</code>	現在のクラスタ・コーディネータのインスタンス ID を返す。
<code>@@clustermode</code>	文字列 “shared-disk cluster” を返す。
<code>@@clustername</code>	クラスタの名前を返す。
<code>@@cmpstate</code>	高可用性環境における Adaptive Server の現在のモードを返す。
<code>@@connections</code>	ユーザ・ログインが試行された回数を返す。
<code>@@cpu_busy</code>	Adaptive Server が最後に起動してから、CPU が Adaptive Server の作業に費やした時間 (チック単位) を返す。
<code>@@cursor_rows</code>	カーソル結果セットに含まれるローの総数を示す。

<code>@@curloid</code>	カーソルが開いていない、最後に開いたカーソルを構成するローがない、または最後に開いたカーソルが閉じられたか割り付け解除された。
<code>@@datefirst</code>	<code>tinyint</code> で表される各週の指定された最初の曜日を示す <code>@@datefirst</code> の現在の値を返す。
<code>@@dbts</code>	現在のデータベースのタイムスタンプを返す。
<code>@@error</code>	システムによって生成された最新のエラー番号を返す。
<code>@@errorlog</code>	Adaptive Server エラー・ログが置かれているディレクトリを、 <code>\$\$YBASE</code> ディレクトリの相対パスとしてフル・パスで返す。
<code>@@failedoverconn</code>	プライマリ・コンパニオンへの接続がフェールオーバーして、セカンダリ・コンパニオン・サーバが実行中の場合は、0 より大きい値を返す。
<code>@@fetch_status</code>	フェッチ操作が成功した場合は 0 を返し、フェッチ操作が成功しなかった場合は -1 を返す。-2 は今後のために予約済み。
<code>@@guestuserid</code>	guest ユーザの ID を返す。
<code>@@hacmpservername</code>	高可用性設定のコンパニオン・サーバの名前を返す。
<code>@@haconnection</code>	接続でフェールオーバー・プロパティが有効になっている場合は、0 より大きい値を返す。
<code>@@heapmemsize</code>	ヒープ・メモリ・プールのサイズ (バイト単位) を返す。
<code>@@identity</code>	生成された最新の <code>IDENTITY</code> カラム値を返す。
<code>@@idle</code>	Adaptive Server が最後に起動してからアイドル状態になっていた時間 (チック単位) を返す。
<code>@@invaliduserid</code>	無効なユーザ ID に対して -1 の値を返す。
<code>@@instanceid</code>	実行元のインスタンスの ID を返す。
<code>@@instancename</code>	実行元のインスタンスの名前を返す。
<code>@@invaliduserid</code>	無効なユーザ ID に対して -1 の値を返す。
<code>@@io_busy</code>	Adaptive Server が入出力操作に費やした時間 (チック単位) を返す。
<code>@@isolation</code>	現在の Transact-SQL プログラムのセッション固有の独立性レベルの値 (0、1、または 3) を返す。
<code>@@instanceid</code>	Job Scheduler が実行されている、または有効化後に実行されるインスタンスの ID。
<code>@@kernel_addr</code>	カーネル領域を含む最初の共有メモリ領域の開始アドレスを返す。
<code>@@kernel_size</code>	最初の共有メモリ領域の一部であるカーネル領域のサイズを返す。
<code>@@kernelmode</code>	Adaptive Server が設定されているモード (スレッドまたはプロセス) を返す。
<code>@@langid</code>	<code>syslanguages.langid</code> に指定されている、現在使用中の言語のサーバワイドの言語 ID を返す。

<code>@@language</code>	<code>syslanguages.name</code> に指定されている、使用中の言語名を返す。
<code>@@lastkpgendate</code>	<code>sp_passwordpolicy "keypair regeneration period"</code> ポリシー・オプションに従って、最後のキー・ペアが生成された日時を返す。
<code>@@lastlogindate</code>	<code>datetime</code> データ型を含む。その値は、現在のセッションが確立される前のログイン・アカウントの <code>lastlogindate</code> カラム内の値。
<code>@@lock_timeout</code>	現在の <code>lock_timeout</code> の設定 (ミリ秒単位) を返す。
<code>@@lwpid</code>	最後から 2 番目に実行されたライトウェイト・プロシージャのオブジェクト ID を返す。
<code>@@max_connections</code>	現在のコンピュータ環境の Adaptive Server に対して、同時に確立できる接続の最大数を返す。
<code>@@max_precision</code>	サーバによって設定された <code>decimal</code> と <code>numeric</code> データ型で使用する精度レベルを返す。この値は定数 38。
<code>@@maxcharlen</code>	Adaptive Server のデフォルト文字セット中の 1 文字の最大長 (バイト単位) を返す。
<code>@@maxgroupid</code>	最大のグループ・ユーザ ID を返す。最大値は 1048576。
<code>@@maxpagesize</code>	サーバの論理ページ・サイズを返す。
<code>@@maxspid</code>	<code>spid</code> の最大有効値を返す。
<code>@@maxsuid</code>	最大のサーバ・ユーザ ID を返す。デフォルト値は 2147483647。
<code>@@maxuserid</code>	最大のユーザ ID を返す。最大値は 2147483647。
<code>@@mempool_addr</code>	グローバル・メモリ・プールのテーブルのアドレスを返す。
<code>@@min_poolsize</code>	名前付きキャッシュ・プールの最小サイズ (キロバイト) を返す。
<code>@@mingroupid</code>	最小のグループ・ユーザ ID を返す。最小値は 16384。
<code>@@minspid</code>	<code>spid</code> の最小値である 1 を返す。
<code>@@minsuid</code>	最小のサーバ・ユーザ ID を返す。最小値は -32768。
<code>@@minuserid</code>	最小のユーザ ID を返す。最小値は -32768。
<code>@@monitors_active</code>	<code>sp_sysmon</code> によって表示されるメッセージ数を減らす。
<code>@@ncharsize</code>	現在のサーバのデフォルト文字セット中の 1 文字の最大長 (バイト単位) を返す。
<code>@@nestlevel</code>	現在のネスト・レベルを返す。
<code>@@nextkpgendate</code>	<code>sp_passwordpolicy "keypair regeneration period"</code> ポリシー・オプションに従って、次のキー・ペアの生成予定日時を返す。
<code>@@nodeid</code>	現在のインストール環境の 48 ビットのノード識別子を返す。
<code>@@optgoal</code>	クエリの最適化に使用される現在の <code>optimization goal</code> 設定を返す。
<code>@@options</code>	セッションの <code>set</code> オプションの 16 進表現を返す。

<code>@@optlevel</code>	現在の最適化レベルの設定を返す。
<code>@@opttimeoutlimit</code>	クエリの最適化に使用される現在の optimization timeout limit 設定を返す。
<code>@@ospid</code>	(スレッド・モードのみ) サーバのオペレーティング・システム ID を返す。
<code>@@pack_received</code>	Adaptive Server が読み込んだ入力パケット数を返す。
<code>@@pack_sent</code>	Adaptive Server が書き込んだ出力パケット数を返す。
<code>@@packet_errors</code>	パケットの読み込みおよび書き込み中に Adaptive Server が検出したエラーの数を返す。
<code>@@pagesize</code>	サーバの仮想ページ・サイズを返す。
<code>@@parallel_degree</code>	現在の最大並列度の設定を返す。
<code>@@plwpid</code>	最も最近に準備されたライトウェイト・プロシージャのオブジェクト ID を返す。
<code>@@probesuid</code>	プローブ・ユーザ ID に対して 2 の値を返す。
<code>@@procid</code>	現在実行中のプロシージャのストア・プロシージャ ID を返す。
<code>@@quorum_physname</code>	クォラム・デバイスの物理パスを返す。
<code>@@recovery_state</code>	戻り値に基づいて、Adaptive Server がリカバリ中かどうかを示す。
<code>@@remotestate</code>	(高可用性のみ) 高可用性環境におけるプライマリ・コンパニオンの現在のモードを返す。
<code>@@repartition_degree</code>	現在の動的な repartitioning degree 設定を返す。
<code>@@resource_granularity</code>	クエリの最適化に使用される最大リソース使用量ヒントの設定を返す。
<code>@@rowcount</code>	最後のクエリによる影響を受けたローの数を返す。
<code>@@scan_parallel_degree</code>	ノンクラスタード・インデックス・スキャンの現在の最大並列度の設定を返す。
<code>@@servername</code>	Adaptive Server の名前を返す。
<code>@@setrowcount</code>	<code>set rowcount</code> の現在の値を返す。
<code>@@shmem_flags</code>	共有メモリ領域のプロパティを返す。
<code>@@spid</code>	現在のプロセスのサーバ・プロセス ID を返す。
<code>@@sqlstatus</code>	<code>fetch</code> 文の実行結果であるステータス情報 (例外の警告) を返す。
<code>@@ssl_ciphersuite</code>	現在の接続で SSL が使用されない場合に NULL を返し、それ以外の場合に現在の接続での SSL ハンドシェイクに選択された暗号スイートの名前を返す。
<code>@@stringsize</code>	<code>toString()</code> メソッドから返される文字データのサイズを返す。
<code>@@sys_tempdbid</code>	実行中のインスタンスの有効なローカル・システム・テンポラリ・データベースのデータベース ID を返す。
<code>@@system_busy</code>	Adaptive Server でシステム・タスクが実行されていた時間 (チック単位)。
<code>@@system_view</code>	セッション固有のシステム・ビュー設定として “instance” または “cluster” を返す。

<code>@@tempdbid</code>	セッションに割り当てられたテンポラリ・データベースの有効なテンポラリ・データベース ID (dbid) を返す。
<code>@@textcolid</code>	<code>@@textptr</code> が参照するカラムのカラム ID を返す。
<code>@@textdataptid</code>	<code>@@textptr</code> によって参照されるカラムが含まれるテキスト・パーティションのパーティション ID を返す。
<code>@@textdbid</code>	<code>@@textptr</code> が参照するカラムを持つオブジェクトを格納しているデータベースの ID を返す。
<code>@@textobjid</code>	<code>@@textptr</code> が参照するカラムを持つオブジェクトのオブジェクト ID を返す。
<code>@@textptnid</code>	<code>@@textptr</code> によって参照されるカラムが含まれるデータ・パーティションのパーティション ID を返す。
<code>@@textptr</code>	プロセスが最後に挿入または更新した、 <code>text</code> 、 <code>unitext</code> 、または <code>image</code> のテキスト・ポインタを返す (<code>textptr</code> 関数とは異なる)。
<code>@@textptr_parameters</code>	<code>textptr_parameters</code> の現在のステータスがオフの場合は 0 を返す。 <code>textptr_parameters</code> の現在のステータスがオンの場合は 1 を返す。
<code>@@textsize</code>	<code>select</code> が返す <code>text</code> 、 <code>unitext</code> 、または <code>image</code> データのバイト数に対する制限を返す。
<code>@@texttts</code>	<code>@@textptr</code> が参照するカラムのテキスト・タイムスタンプを返す。
<code>@@thresh_hysteresis</code>	スレッシュホールドをアクティブ化するために必要な空き領域の減少量を返す。
<code>@@timeticks</code>	チックごとのマイクロ秒数を返す。
<code>@@total_errors</code>	読み込みおよび書き込み中に Adaptive Server が検出したエラーの数を返す。
<code>@@total_read</code>	Adaptive Server によるディスク読み込み回数を返す。
<code>@@total_write</code>	Adaptive Server によるディスク書き込み回数を返す。
<code>@@tranchained</code>	Transact-SQL プログラムの現在のトランザクション・モードが非連鎖モードの場合は 0 を返し、連鎖モードの場合は 1 を返す。
<code>@@trancount</code>	現在のユーザ・セッションにおけるトランザクションのネスト・レベルを返す。
<code>@@transactional_rpc</code>	リモート・サーバへの RPC がトランザクション指向の場合は 0 を返し、非トランザクション指向の場合は 1 を返す。
<code>@@transtate</code>	現在のユーザ・セッションで文を実行した後のトランザクションの現在の状態を返す。
<code>@@unicharsize</code>	<code>unichar</code> の文字サイズである 2 を返す。
<code>@@user_busy</code>	Adaptive Server でユーザ・タスクが実行されていた時間 (チック単位)。
<code>@@version</code>	Adaptive Server の現在のリリースの日付、バージョン文字列などを返す。
<code>@@version_as_integer</code>	Adaptive Server の現在のリリースの最新のアップグレード・バージョン番号を整数で返す。
<code>@@version_number</code>	Adaptive Server の現在のリリースのバージョン全体を整数として返す。

予約語

この項では、さまざまな予約語を示します。詳細については、『リファレンス・マニュアル：ビルディング・ブロック』を参照してください。

Transact-SQL 予約語

以下は、Adaptive Server によって予約されているキーワード (SQL コマンドの構文の一部) を示します。

	予約語
<i>A</i>	add, all, alter, and, any, arith_overflow, as, asc, at, authorization, avg
<i>B</i>	begin, between, break, browse, bulk, by
<i>C</i>	cascade, case, char_convert, check, checkpoint, close, clustered, coalesce, commit, compute, confirm, connect, constraint, continue, controlrow, convert, count, count_big, create, current, cursor
<i>D</i>	database, dbcc, deallocate, declare, decrypt, default, delete, desc, deterministic, disk distinct, drop, dummy, dump
<i>E</i>	else, encrypt, end, endtran, errlvl, errordata, errexit, escape, except, exclusive, exec, execute, exists, exit, exp_row_size, external
<i>F</i>	fetch, fillfactor, for, foreign, from
<i>G</i>	goto, grant, group
<i>H</i>	having, holdlock
<i>I</i>	identity, identity_gap, identity_start, if, in, index, inout, insensitive, insert, install, intersect, into, is, isolation
<i>J</i>	jar, join
<i>K</i>	key, kill
<i>L</i>	level, like, lineno, load, lock
<i>M</i>	materialized, max, max_rows_per_page, min, mirror, mirrorexit, modify
<i>N</i>	national, new, noholdlock, nonclustered, not, null, nullif, numeric_truncation
<i>O</i>	of, off, offsets, on, once, online, only, open, option, or, order, out, output, over
<i>P</i>	partition, perm, permanent, plan, prepare, primary, print, privileges, proc, procedure, processexit, proxy_table, public
<i>Q</i>	quiesce
<i>R</i>	raiserror, read, readpast, readtext, reconfigure, references, remove, reorg, replace, replication, reservepagegap, return, returns, revoke, role, rollback, rowcount, rows, rule
<i>S</i>	save, schema, scroll, select, semi_sensitive, set, setuser, shared, shutdown, some, statistics, stringsize, stripe, sum, syb_identity, syb_restree, syb_terminate
<i>T</i>	table, temp, temporary, textsize, to, tracefile, tran, transaction, trigger, truncate, tsequal
<i>U</i>	union, unique, unpartition, update, use, user, user_option, using
<i>V</i>	values, varying, view
<i>W</i>	waitfor, when, where, while, with, work, writetext
<i>X</i>	xmlextract, xmlparse, xmltest

ANSI SQL 予約語

以下は、Adaptive Server によって予約されていない ANSI SQL キーワードを示します。

	予約語
<i>A</i>	absolute, action, allocate, are, assertion
<i>B</i>	bit, bit_length, both
<i>C</i>	cascaded, case, cast, catalog, char, char_length, character, character_length, coalesce, collate, collation, column, connection, constraints, corresponding, cross, current_date, current_time, current_timestamp, current_user
<i>D</i>	date, day, dec, decimal, deferrable, deferred, describe, descriptor, diagnostics, disconnect, domain
<i>E</i>	end-exec, exception, extract
<i>F</i>	false, first, float, found, full
<i>G</i>	get, global, go
<i>H</i>	hour
<i>I</i>	immediate, indicator, initially, inner, input, insensitive, int, integer, interval
<i>J</i>	join
<i>L</i>	language, last, leading, left, local, lower
<i>M</i>	match, minute, module, month
<i>N</i>	names, natural, nchar, next, no, nullif, numeric
<i>O</i>	octet_length, outer, output, overlaps
<i>P</i>	pad, partial, position, preserve, prior
<i>R</i>	real, relative, restrict, right
<i>S</i>	scroll, second, section, semi_sensitive, session_user, size, smallint, space, sql, sqlcode, sqlerror, sqlstate, substring, system_user
<i>T</i>	then, time, timestamp, timezone_hour, timezone_minute, trailing, translate, translation, trim, true
<i>U</i>	unknown, upper, usage
<i>V</i>	value, varchar
<i>W</i>	when, whenever, write, year
<i>Z</i>	zone

ANSI SQL の予約語となる可能性のあるワード

ISO/IEC 9075:1989 標準を使用する場合は、以下のワードの使用は避けてください。これらのワードは、ANSI SQL の予約語になる可能性があります。

	予約語
<i>A</i>	after, alias, async
<i>B</i>	before, boolean, breadth
<i>C</i>	call, completion, cycle
<i>D</i>	data, depth, dictionary
<i>E</i>	each, elseif, equals
<i>G</i>	general

	予約語
<i>I</i>	ignore
<i>L</i>	leave, less, limit, loop
<i>M</i>	modify
<i>N</i>	new, none
<i>O</i>	object, oid, old, operation, operators, others
<i>P</i>	parameters, pendant, preorder, private, protected
<i>R</i>	recursive, ref, referencing, resignal, return, returns, routine, row
<i>S</i>	savepoint, search, sensitive, sequence, signal, similar, sqlexception, structure
<i>T</i>	test, there, type
<i>U</i>	under
<i>V</i>	variable, virtual, visible
<i>W</i>	wait, without

関数

以下は、組み込み関数の概要と構文です。詳細については、『リファレンス・マニュアル：ビルディング・ブロック』を参照してください。

abs	式の絶対値を返します。 <code>abs(numeric_expression)</code>
acos	指定されている余弦の角度 (ラジアン) を返します。 <code>acos(cosine)</code>
ascii	式の先頭文字の ASCII コードを返します。 <code>ascii(char_expr uchar_expr)</code>
asehostname	Adaptive Server が動作する物理ホストまたは仮想ホストを返します。 <code>asehostname</code>
asin	指定した正弦の角度 (ラジアン) を返します。 <code>asin(sine)</code>
atan	指定した正接の角度 (ラジアン) を返します。 <code>atan(tangent)</code>
atn2	指定されている正弦と余弦の角度 (ラジアン) を返します。 <code>atn2(sine, cosine)</code>
avg	すべて (重複を除く) の値の平均値を計算します。 <code>avg([all distinct] expression)</code>
audit_event_name	監査イベントの説明を返します。 <code>audit_event_name(event_id)</code>

authmech	<p>指定したログイン済みサーバのプロセス ID で使用されている認証メカニズムを判断します。</p> <pre>authmech ([spid])</pre>
biginttohex	<p>指定した整数値に相当する、プラットフォームの影響を受けない 8 バイトの 16 進数を返します。</p> <pre>biginttohex (integer_expression)</pre>
bintostr	<p>一連の 16 進数を同等の英数字または <code>varbinary</code> データの文字列に変換します。</p> <pre>select bintostr(sequence of hexadecimal digits)</pre>
cache_usage	<p>キャッシュの使用率を、テーブルが属するキャッシュのすべてのオブジェクトの割合として返します。</p> <pre>cache_usage(table_name)</pre>
case	<p>条件付き SQL 文をサポートします。value 式を使用できる場所であればどこでも使用できます。</p> <pre>case when search_condition then expression [when search_condition then expression]... [else expression] end</pre> <p>case と値の構文</p> <pre>case expression when expression then expression [when expression then expression]... [else expression] end</pre>
cast	<p>指定された値を別のデータ型に変換します。</p> <pre>cast (expression as datatype [(length precision[, scale]]))</pre>
ceiling	<p>指定された値以上の最小の整数を返します。</p> <pre>ceiling(value)</pre>
char	<p>整数に相当する文字を返します。</p> <pre>char(integer_expr)</pre>
char_length	<p>式の文字数を返します。</p> <pre>char_length(char_expr uchar_expr)</pre>
charindex	<p>式の開始位置を表す整数を返します。</p> <pre>charindex(expression1, expression2 [, start])</pre>
coalesce	<p>条件付き SQL 式をサポートします。値式が使用可能な任意の場所で使用できます。これは、case 式の代替コマンドです。</p> <pre>coalesce(expression, expression [, expression]...)</pre>
col_length	<p>カラムの定義済みの長さを返します。</p> <pre>col_length(object_name, column_name)</pre>

col_name	指定されたテーブルとカラム ID に対応するカラム名を返します。カラム名は、最長で 255 バイトです。 <code>col_name(object_id, column_id [, database_id])</code>
compare	代替照合規則をもとに、2 つの文字列を直接比較できるようにします。 <code>compare ({char_expression1 uchar_expression1}, {char_expression2 uchar_expression2}), [{{collation_name collation_ID}}</code>
convert	指定した値を別のデータ型または異なる <code>datetime</code> 表示フォーマットに変換して返します。 <code>convert (datatype [(length) (precision[, scale])] [null not null], expression [, style])</code>
cos	指定した角度 (ラジアン) の余弦を返します。 <code>cos(angle)</code>
cot	ラジアンで指定された角度の余接を返します。 <code>cot(angle)</code>
count	<code>null</code> 以外の値の数 (重複する値を除く) または選択したローの数を整数で返します。 <code>count([all distinct] expression)</code>
count_big	<code>null</code> でない値の数 (重複する値を除く) または選択したローの数を <code>bigint</code> の値で返します。 <code>count_big([all distinct] expression)</code>
create_locator	指定された LOB のロケータを明示的に作成して、そのロケータを返します。 <code>create_locator (datatype, lob_expression)</code>
current_bigdatetime	現在の時刻を表すマイクロ秒の精度の <code>bigint</code> 値を返します。現在の時刻部分の精度はシステム・クロックの精度によって制限されます。 <code>current_bigdatetime()</code>
current_bigtime	現在の時刻を表すマイクロ秒の精度の <code>bigint</code> 値を返します。現在の時刻部分の精度はシステム・クロックの精度によって制限されます。 <code>current_bigtime()</code>
current_date	現在の日付を返します。 <code>current_date()</code>
current_time	現在の時刻を返します。 <code>current_time()</code>
curunreservedpgs	指定したディスク区分の空きページ数を表示します。 <code>curunreservedpgs (dbid, lstart, unreservedpgs)</code>
data_pages	指定されたテーブル、インデックス、または特定のパーティションで使用されるページ数を返します。結果には、内部構造に使用するページは含まれません。 <code>data_pages(dbid, object_id [, indid [, ptnid]])</code>

datachange	<p><code>update statistics</code> が最後に実行された後にデータ分配で行われた変更の量を測定します。具体的には、特定のオブジェクト、パーティション、カラムで発生した <code>insert</code>、<code>update</code>、<code>delete</code> の数が測定されます。これは、<code>update statistics</code> の実行がクエリ・プランに役立つかどうかを判断する目安になります。</p> <p><code>datachange(object_name, partition_name, column_name)</code></p>
datalength	<p>指定したカラムや文字列の実際の長さをバイト単位で返します。</p> <p><code>datalength(expression)</code></p>
dateadd	<p>指定した日付または時刻に間隔を追加します。</p> <p><code>dateadd(date_part, integer, {date time bigtime datetime, bigdatetime})</code></p>
datediff	<p>指定した 2 つの日付間または時刻間で日付要素の数を計算します。</p> <p><code>datediff(datepart, {date, date time, time bigtime, bigtime datetime, datetime bigdatetime, bigdatetime})</code></p>
datename	<p>指定した <code>date</code> または <code>time</code> の指定した <code>datepart</code> を文字列として返します。</p> <p><code>datename(datepart {date time bigtime datetime bigdatetime})</code></p>
datepart	<p>日付式の指定した要素の整数値を返します。</p> <p><code>datepart(date_part {date time datetime bigtime bigdatetime})</code></p>
day	<p>指定した日付の <code>datepart</code> の日を表す整数を返します。</p> <p><code>day(date_expression)</code></p>
db_attr	<p>指定したデータベースの <code>durability</code>、<code>dml_logging</code>、<code>template</code> の設定、および圧縮レベルを返します。</p> <p><code>db_attr('database_name' database_ID NULL, 'attribute')</code></p>
db_id	<p>指定したデータベースの ID 番号を表示します。</p> <p><code>db_id(database_name)</code></p>
db_instanceid	<p>(クラスタ環境のみ) 指定したローカル・テンポラリ・データベースの所有インスタンスの ID を返します。指定したデータベースがグローバル・テンポラリ・データベースまたは非テンポラリ・データベースである場合は NULL を返します。</p> <p><code>db_instanceid(database_id database_name)</code></p>
db_name	<p>ID 番号で指定されたデータベースの名前を表示します。</p> <p><code>db_name([database_id])</code></p>
db_recovery_status	<p>(クラスタ環境のみ) 指定したデータベースのリカバリ・ステータスを返します。<code>database_ID</code> または <code>database_name</code> の値を含めない場合は、現在のデータベースのリカバリ・ステータスを返します。</p> <p><code>db_recovery_status([database_ID database_name])</code></p>
degrees	<p>指定した角度 (ラジアン) の大きさ (度数) を返します。</p> <p><code>degrees(numeric)</code></p>

derived_stat	指定したオブジェクトとインデックスに対して得られた統計を返します。 <code>derived_stat("object_name" object_id, index_name index_id, ["partition_name" partition_id,] "statistic")</code>
difference	2つの soundex 値間の差を表す整数を返します。 <code>difference(expr1,expr2)</code>
dol_downgrade_check	8191 バイトよりも長い可変長カラムを含む指定データベース内のデータオンリーロック (DOL) テーブルの数を返します。ワイドな可変長カラムがない場合やダウングレードを実行できる場合は、0 を返します。 <code>dol_downgrade_check('database_name', target_version)</code>
exp	定数を指定した累乗にした値を計算します。 <code>exp(approx_numeric)</code>
floor	指定された値以下の最大の整数を返します。 <code>floor(numeric)</code>
get_appcontext	指定されたコンテキストの属性値を返します。get_appcontext は Application Context Facility (ACF) から提供されます。 <code>get_appcontext ("context_name", "attribute_name")</code>
getdate	システムの現在の日付と時刻を返します。 <code>getdate()</code>
getutcdate	日時を万国標準時 (UTC) で返します。getutcdate は、ローが挿入または選択されるたびに計算されます。 <code>getutcdate()</code>
has_role	指定した役割がユーザに付与されているかどうかを示す情報を返します。 <code>has_role ("role_name", option)</code>
hash	固定長のハッシュ値式を生成します。 <code>hash(expression , [algorithm])</code>
hashbytes	固定長のハッシュ値式を生成します。 <code>hashbytes(algorithm, expression[, expression...][, using options])</code>
hextobigint	16 進文字列に相当する bigint 値を返します。 <code>hextobigint(hexadecimal_string)</code>
hextoint	指定した 16 進文字列に相当する、プラットフォームの影響を受けない整数値を返します。 <code>hextoint(hexadecimal_string)</code>
host_id	クライアント・コンピュータのオペレーティング・システムで使用されている、現在の Adaptive Server クライアントのプロセス ID を返します。 <code>host_id()</code>

host_name	クライアント・プロセスの現在のホスト・コンピュータ名を表示します。 host_name()
instance_id	(クラスタ環境のみ) 指定したインスタンスの ID、または <i>name</i> の値を指定しない場合は、発行元のインスタンスの ID を返します。 instance_id([<i>name</i>])
identity_burn_max	指定したテーブルの ID 消去最大値を追跡します。この関数は値を返すだけで、更新は実行しません。 identity_burn_max(<i>table_name</i>)
index_col	指定されたテーブルまたはビューにあるインデックス付きのカラム名を表示します。カラム名は、最長で 255 バイトです。 index_col(<i>object_name</i> , <i>index_id</i> , <i>key_#</i> , <i>user_id</i>)
index_colorder	カラム順を返します。 index_colorder(<i>object_name</i> , <i>index_id</i> , <i>key_#</i> , <i>user_id</i>)
index_name	インデックス ID、データベース ID、およびインデックスが定義されているオブジェクトを指定すると、インデックスの名前を返します。 index_name(<i>dbid</i> , <i>objid</i> , <i>indid</i>)
inttohex	指定された整数値に相当する、プラットフォームの影響を受けない 16 進文字列を返します。 inttohex(<i>integer_expression</i>)
isdate	入力が有効な <i>datetime</i> 値かどうかを確認します。 isdate(<i>character_expression</i>)
isnumeric	式が有効な <i>numeric</i> データ型かどうかを確認します。 isnumeric (<i>character_expression</i>)
is_quiesced	データベースが <i>quiesce database</i> モードにあるかどうかを示します。 is_quiesced は、データベースがクワイス (静止) 状態の場合に 1、クワイス状態でない場合に 0 を返します。 is_quiesced(<i>dbid</i>)
is_sec_service_on	特定のセキュリティ・サービスが有効化されているかどうかを確認します。サービスが有効な場合は 1、サービスが有効ではない場合は 0 を返します。 is_sec_service_on(<i>security_service_nm</i>)
is_singleusermode	Adaptive Server がシングルユーザ・モードで実行されていない場合は 0 を返します。Adaptive Server がシングルユーザ・モードで実行されている場合は 1 を返します。 is_singleusermode()
isnull	<i>expression1</i> の値が NULL のとき、 <i>expression2</i> に指定した値と置き換えます。 isnull(<i>expression1</i> , <i>expression2</i>)
isnumeric	式が有効な <i>numeric</i> データ型かどうかを確認します。 isnumeric (<i>character_expression</i>)

instance_name	(クラスタ環境のみ) 指定した ID の Adaptive Server の名前、または <i>id</i> の値を指定しない場合は、発行元の Adaptive Server の名前を返します。 <code>instance_name([<i>id</i>])</code>
lc_id	(クラスタ環境のみ) 指定した名前の論理クラスタの ID、または名前を指定しない場合は現在の論理クラスタの ID を返します。 <code>lc_id(logical_cluster_name)</code>
lc_name	(クラスタ環境のみ) 指定した ID の論理クラスタの名前、または ID を指定しない場合は現在の論理クラスタを返します。 <code>lc_name([logical_cluster_ID])</code>
lct_admin	ラストチャンス・スレッシュホールド (LCT) を管理します。LCT の現在の値を返して、LCT に達したトランザクション・ログに含まれるトランザクションをアポートします。 <code>lct_admin({"lastchance" "logfull" "reserved_for_rollbacks"}, database_id ["reserve", {log_pages 0 } ["abort", process-id [, database-id]])</code>
left	文字列の左端から指定された数の文字を返します。 <code>left(character_expression, integer_expression)</code>
len	後続ブランクを除き、指定した文字列式の文字数 (バイト数ではない) を返します。 <code>len(string_expression)</code>
license_enabled	機能のライセンスが有効になっている場合は 1 を返し、有効になっていない場合は 0 を返します。また、無効なライセンス名が指定された場合は NULL を返します。 <code>license_enabled("ase_server" "ase_ha" "ase_dtm" "ase_java" "ase_asm")</code>
list_appcontext	現在のセッション内にある全コンテキストの属性をすべてリストします。 <code>list_appcontext</code> は ACF から提供されます。 <code>list_appcontext(["context_name"])</code>
locator_literal	バイナリ値をロケータのリテラルとして表します。 <code>locator_literal(locator_type, literal_locator)</code>
locator_valid	LOB ロケータが有効かどうかを指定します。 <code>locator_valid (locator_descriptor)</code>
lockscheme	指定されたオブジェクトのロック・スキームを文字列として返します。 <code>lockscheme(object_name) lockscheme(object_id [, db_id])</code>
log	指定した数値の自然対数を計算します。 <code>log(approx_numeric)</code>

log10	指定した数の常用対数 (底が 10 の対数) を計算します。 <code>log10(<i>approx_numeric</i>)</code>
lower	大文字から小文字に変換します。 <code>lower(<i>char_expr</i> <i>uchar_expr</i>)</code>
lprofile_id	指定した名前と関連付けられた ID を返すか、現在のログインの ID を返します。 <code>lprofile_id(<i>name</i>),</code>
lprofile_name	指定した ID と関連付けられた名前を返すか、現在のログインの名前を返します。 <code>lprofile_id(<i>ID</i>),</code>
ltrim	指定した式から先行空白を削除します。 <code>ltrim(<i>char_expr</i> <i>uchar_expr</i>)</code>
max	式内の最高値を返します。 <code>max(<i>expression</i>)</code>
min	カラム内の最小値を返します。 <code>min(<i>expression</i>)</code>
month	指定した日付の <code>datepart</code> の月を表す整数を返します。 <code>month(<i>date_expression</i>)</code>
mut_excl_roles	2 つの役割の間の相互排他性についての情報を返します。 <code>mut_excl_roles (<i>role1</i>, <i>role2</i> [<i>membership</i> <i>activation</i>])</code>
newid	指定した引数に基づいて、人間が判読できるグローバルにユニークな識別子 (GUID) を 2 通りの異なるフォーマットで生成します。人間が判読できる GUID 値のフォーマットの長さは、32 バイト (ダッシュなし) または 36 バイト (ダッシュ付き) のいずれかです。 <code>newid(<i>[optionflag]</i>)</code>
next_identity	次の <code>insert</code> に使用可能な次の <code>identity</code> 値を取得します。 <code>next_identity(<i>table_name</i>)</code>
nullif	条件値を使用するための SQL 式を記述できます。 <code>nullif</code> 式は、値式が使用できる場所であればどこでも <code>case</code> 式の代わりに使用できます。 <code>nullif(<i>expression</i>, <i>expression</i>)</code>
object_attr	セッション、テーブル設定、データベースワイド設定に応じて、テーブルの現在のロギング・モードをレポートします。 <code>object_attr(<i>table_name</i>, <i>string</i>)</code>
object_id	指定したオブジェクトのオブジェクト ID を返します。 <code>object_id(<i>object_name</i>)</code>
object_name	指定したオブジェクト ID を持つオブジェクトの名前を返します。名前は最長で 255 バイトです。 <code>object_name(<i>object_id</i>[, <i>database_id</i>])</code>

object_owner_id	オブジェクトの所有者 ID を返します。 <code>object_owner_id(object_id[, database_id])</code>
pagesize	指定されたオブジェクトのページ・サイズをバイト数で返します。 <code>pagesize(object_name[,])</code> <code>pagesize(object_id[, db_id[, index_id]])</code>
partition_id	指定したデータまたはインデックス・パーティション名のパーティション ID を返します。 <code>partition_id(table_name, partition_name[, index_name])</code>
partition_name	新しいパーティションの明示的な名前 <code>partition_name</code> は、指定されたデータのパーティション名またはインデックス・パーティション ID を返します。 <code>partition_name(indid, ptnid [, dbid])</code>
partition_object_id	指定されたパーティション ID とデータベース ID のオブジェクト ID を返します。 <code>partition_object_id(partition_id [, database_id])</code>
patindex	指定したパターンが最初に検出された先頭位置を返します。 <code>patindex("%pattern%", char_expr[, uchar_expr], using {bytes characters chars})</code>
pi	定数値 (円周率) 3.1415926535897936 を返します。 <code>pi()</code>
power	指定した数字を指定の累乗で計算した結果の値を返します。 <code>power(value, power)</code>
proc_role	指定した役割がユーザに付与されているかどうかを示す情報を返します。 <code>proc_role("role_name")</code>
pssinfo	Adaptive Server プロセス・ステータス構造 (pss) から情報を返します。 <code>pssinfo(spid 0, 'pss_field')</code>
radians	度をラジアンに変換する。指定した度数の角度の大きさをラジアンで返します。 <code>radians(numeric)</code>
rand	指定された (オプションの) 整数値を基礎値として使用し、0 と 1 の間の浮動小数の乱数値を返します。 <code>rand([integer])</code>
rand2	指定したシード値を使用して生成され、select リストで使用されたときに返された各行に対して計算された 0 と 1 の間のランダム値を返します。 <code>rand2([integer])</code>
replicate	指定した回数か、または 16KB の記憶領域に保存可能な最大回数のうち、少ない回数で繰り返された式を含む文字列を返します。 <code>replicate(char_expr uchar_expr, integer_expr)</code>

reserve_identity	<p>reserve_identity では、あるプロセスが identity 値のブロックを予約し、そのプロセスがこの値を利用できるようにします。</p> <p>reserve_identity (table_name, number_of_values)</p>
reserved_pages	<p>データベース、オブジェクト、またはインデックス用に予約されているページ数をレポートします。レポートには、内部構造に使用するページが含まれます。</p> <p>reserved_pages(dbid, object_id[, indid[, ptnid]])</p>
return_lob	<p>ロケータの参照を解除し、そのロケータによって参照されていた LOB を返します。</p> <p>return_lob (datatype, locator_descriptor)</p>
reverse	<p>指定した文字列の文字順を逆にして返します。</p> <p>reverse(expression uchar_expr)</p>
right	<p>文字式またはバイナリ式の一部を、指定した数を始めとして右から返します。文字式と同じデータ型の値を返します。</p> <p>right(expression, integer_expr)</p>
rm_appcontext	<p>特定のアプリケーション・コンテキストまたはすべてのアプリケーション・コンテキストを削除します。rm_appcontext は Application Context Facility (ACF) が提供する関数です。</p> <p>rm_appcontext("context_name", "attribute_name")</p>
role_contain	<p>指定した役割が別の指定した役割に含まれているかどうかを確認します。</p> <p>role_contain("role1", "role2")</p>
role_id	<p>指定した役割名の役割 ID を返します。</p> <p>role_id("role_name")</p>
role_name	<p>指定した役割 ID の役割名を返します。</p> <p>role_name(role_id)</p>
round	<p>指定した数値を、指定した小数桁数に丸めた値を返します。</p> <p>round(number, decimal_places)</p>
row_count	<p>指定したテーブル内のローの予測数を返します。</p> <p>row_count(dbid, object_id [,ptnid] [, "option"])</p>
rtrim	<p>指定した式から後続ブランクを削除します。</p> <p>rtrim(char_expr uchar_expr)</p>
sdc_intempdbconfig	<p>(クラスタ環境のみ) システムが現在、テンポラリ・データベース設定モードにある場合は 1 を返し、それ以外の場合は 0 を返します。</p> <p>sdc_intempdbconfig()</p>
set_appcontext	<p>ユーザ・セッション用のアプリケーション・コンテキスト名、属性名、属性値を設定します。それらは、指定したアプリケーションの属性によって定義されます。set_appcontext は、Application Context Facility (ACF) から提供される関数です。</p> <p>set_appcontext("context_name", "attribute_name", "attribute_value")</p>

setdata	一部またはすべてのラージ・オブジェクト (LOB) を上書きします。 <code>setdata(locator_name, offset_value, new_value)</code>
show_cached_plan_in_xml	ステートメント・キャッシュ内のクエリの実行クエリ・プランを XML で表示します。 <code>show_cached_plan_in_xml(statement_id, plan_id, [level_of_detail])</code>
show_dynamic_params_in_xml	クエリのテキストを XML フォーマットで返します。 <code>show_dynamic_params_in_xml(object_id)</code>
show_role	ログインの現在有効なシステム定義役割を表示します。 <code>show_role()</code>
show_sec_services	セッションに有効なセキュリティ・サービスをリストします。 <code>show_sec_services()</code>
sign	指定した値の符号 (正の 1、0、または負の -1) を返します。 <code>sign(numeric)</code>
sin	指定した角度 (ラジアン) の正弦を返します。 <code>sin(approx_numeric)</code>
sortkey	照合動作をもとに、結果を並べ替えるために使用する値を生成します。これにより、デフォルト・セットのラテン文字以外の文字セットについても、辞書順、大文字と小文字の区別、アクセントの区別をもとにした文字列照合動作が可能になります。 <code>sortkey(char_expression uchar_expression)[, {collation_name collation_ID}]</code>
soundex	有効な 1 バイトまたは 2 バイトの連続するローマ字の列で構成されている文字列の、4 文字 <code>soundex</code> コードを返します。 <code>soundex(char_expr uchar_expr)</code>
space	指定した数のシングルバイト・スペースからなる文字列を返します。 <code>space(integer_expr)</code>
spid_instance_id	(クラスタ環境のみ) 指定したプロセス ID (spid) を実行しているインスタンスの ID を返します。 <code>spid_instance_id(spид_value)</code>
square	指定した値の平方を、 <code>float</code> で表したものを返します。 <code>square(numeric_expression)</code>
sqrt	指定した数値の平方根を返します。 <code>sqrt(approx_numeric)</code>
stddev	1 つの数値式で構成される標本標準偏差を <code>double</code> 型として計算します。 <code>stddev</code> と <code>stdev</code> は、 <code>stddev_samp</code> のエイリアスです。
stdev	1 つの数値式で構成される標本標準偏差を <code>double</code> 型として計算します。 <code>stddev</code> と <code>stdev</code> は、 <code>stddev_samp</code> のエイリアスです。

stdevp	1つの数値式で構成される母標準偏差を double 型として計算します。stdevp は、stddev_pop のエイリアスで、同じ構文を使用します。
stddev_pop	1つの数値式で構成される母標準偏差を double 型として計算します。 <code>stddev_pop ([all distinct] expression)</code>
stddev_samp	1つの数値式で構成される標本標準偏差を double 型として計算します。 <code>stddev_samp ([all distinct] expression)</code>
str	指定した数値に相当する文字列を返し、指定された長さになるように出力に文字または数値を埋め込みます。 <code>str(approx_numeric[, length [, decimal]])</code>
str_replace	最初の文字列式 (<i>string_expression1</i>) 内に出現する 2 番目の文字列式 (<i>string_expression2</i>) のすべてのインスタンスを、3 番目の式 (<i>string_expression3</i>) で置き換えます。 <code>str_replace("string_expression1", "string_expression2", "string_expression3")</code>
strtobin	一連の英数字をそれに相当する 16 進数に変換します。 <code>select strtobin("string of valid alphanumeric characters")</code>
stuff	1つの文字列から指定した数の文字を削除して、代わりに別の文字列を入れて作成した文字列を返します。 <code>stuff(char_expr1 uchar_expr1, start, length, char_expr2 uchar_expr2)</code>
substring	指定した数の文字を文字列から取り出して作った文字列を返します。 <code>substring(expression, start, length)</code>
sum	値の合計を返します。 <code>sum([all distinct] expression)</code>
suser_id	syslogins テーブルからサーバ・ユーザの ID 番号を返します。 <code>suser_id([server_user_name])</code>
suser_name	現在のサーバ・ユーザの名前、または指定したサーバ ID を持つユーザの名前を返します。 <code>suser_name([server_user_id])</code>
syb_quit	接続を終了します。 <code>syb_quit()</code>
syb_sendmsg	(UNIX のみ) UDP (ユーザ・データグラム・プロトコル) ポートにメッセージを送信します。 <code>syb_sendmsg ip_address, port_number, message</code>
sys_tempdbid	(クラスタ環境のみ) 指定したインスタンスの有効なローカル・システム・テナンポラリ・データベースの ID を返します。instance_id を指定しない場合は、現在のインスタンスの有効なローカル・システム・テナンポラリ・データベースの ID を返します。 <code>sys_tempdbid(instance_id)</code>

tan	指定した角度 (ラジアン) の正接を返します。 <code>tan(<i>angle</i>)</code>
tempdb_id	指定のセッションが割り当てられているテンポラリ・データベースをレポートします。 <code>tempdb_id</code> 関数の入力サーバ・プロセス ID であり、出力はそのプロセスが割り当てられているテンポラリ・データベースです。サーバ・プロセスを指定しない場合、 <code>tempdb_id</code> は、現在のプロセスに割り当てられているテンポラリ・データベースの <code>dbid</code> をレポートします。 <code>tempdb_id()</code>
textptr	<code>text</code> 、 <code>image</code> 、または <code>unitext</code> カラムの先頭ページを指すポインタを返します。 <code>textptr(<i>column_name</i>)</code>
textvalid	指定した <code>text</code> カラム、 <code>unitext</code> カラム、ロー内とロー外の LOB カラムを指すポインタが有効な場合は 1 を返し、無効な場合は 0 を返します。 <code>textvalid("table_name.column_name", <i>textpointer</i>)</code>
to_unichar	指定した整数式の値が含まれた <code>unichar</code> 式を返します。 <code>to_unichar(<i>integer_expr</i>)</code>
tran_dumpable_status	<code>dump transaction</code> を使用できるかどうかを示す <code>true</code> または <code>false</code> の値を返します。 <code>tran_dumpable_status("database_name")</code>
tsequal	ローがブラウズ用に選択されたあとで変更された場合に、ローを更新できないようにするため <code>timestamp</code> 値を比較します。 <code>tsequal(<i>browsed_row_timestamp</i>, <i>stored_row_timestamp</i>)</code>
uhighsurr	<code>start</code> の位置の Unicode 値が、サロゲート・ペアの上位サロゲート (ペアの中で最初に指定されている) の場合は 1 を返します。それ以外の場合は、0 を返します。この関数ではサロゲート処理のための明示的なコードを作成できます。 <code>uhighsurr(<i>uchar_expr</i>, <i>start</i>)</code>
ulowsurr	<code>start</code> の Unicode 値がサロゲート・ペア (ペアの 2 番目に表示される) の下位半分の場合には 1 が返されます。それ以外の場合は、0 が返されます。この関数を使用すると、 <code>substr()</code> 、 <code>stuff()</code> 、 <code>right()</code> によって実行される調整を明示的にコード化できます。 <code>ulowsurr(<i>uchar_expr</i>, <i>start</i>)</code>
upper	指定した小文字文字列に相当する大文字を返します。 <code>upper(<i>char_expr</i>)</code>
uscalar	式の最初の Unicode 文字に対する Unicode スカラ値を返します。 <code>uscalar(<i>uchar_expr</i>)</code>
used_pages	テーブル、インデックス、または特定のパーティションで使用されているページ数をレポートします。 <code>data_pages</code> とは異なり、 <code>used_pages</code> は、内部構造に使用されるページを数に含めません。この関数は、バージョン 15.0 より前の Adaptive Server で使用された古い <code>used_pgs</code> 関数を置き換えるものです。 <code>used_pages(<i>dbid</i>, <i>object_id</i>[, <i>indid</i>[, <i>ptnid</i>]])</code>

user	現在のユーザの名前を返します。 <code>user</code>
user_id	指定したユーザの ID、またはデータベース内の現在のユーザの ID を返します。 <code>user_id([user_name])</code>
user_name	指定したユーザまたは現在のユーザの、データベース内の名前を返します。 <code>user_name([user_id])</code>
valid_name	指定された文字列が有効な識別子でない場合は、0 を返します。有効な識別子の場合は、0 以外の値を返します。文字列の最大長は 255 バイトです。 <code>valid_name(character_expression[, maximum_length])</code>
valid_user	指定した ID が、少なくとも 1 つのデータベースで有効なユーザかエイリアスのときは 1 を返します。 <code>valid_user(server_user_id [, database_id])</code>
var	1 つの数値式で構成される標本統計分散を <code>double</code> 型として計算し、数値セットの分散を返します。var と variance は、var_samp のエイリアスです。
var_pop	1 つの数値式で構成される母統計分散を <code>double</code> 型として計算します。varp は、var_pop のエイリアスで、同じ構文を使用します。 <code>var_pop ([all distinct] expression)</code>
var_samp	1 つの数値式で構成される標本統計分散を <code>double</code> 型として計算し、数値セットの分散を返します。var と variance は、var_samp のエイリアスで、同じ構文を使用します。 <code>var_samp ([all distinct] expression)</code>
variance	1 つの数値式で構成される標本統計分散を <code>double</code> 型として計算し、数値セットの分散を返します。var と variance は、var_samp のエイリアスです。
varp	1 つの数値式で構成される母統計分散を <code>double</code> 型として計算します。varp は var_pop のエイリアスです。
workload_metric	(クラスタ環境のみ) 指定したインスタンスの現在の負荷測定基準のクエリを実行するか、指定したインスタンスの測定基準を更新します。 <code>workload_metric(instance_id instance_name [, new_value])</code>
xa_bqual	ASCII XA トランザクション ID の bqual コンポーネントのバイナリ・バージョンを返します。 <code>xa_bqual(xactname, 0)</code>
xa_gtrid	ASCII XA トランザクション ID の gtrid コンポーネントのバイナリ・バージョンを返します。 <code>xa_gtrid(xactname, int)</code>
xact_connmigrate_check	(クラスタ環境のみ) 現在の接続が外部トランザクションを処理できるかどうかを決定します。 <code>xact_connmigrate_check("txn_name")</code>

xact_owner_instance	(クラスタ環境のみ)分散トランザクションを実行しているインスタンスの ID を返します。 <code>xact_owner_instance(XID)</code>
year	指定した日付の <code>datepart</code> の年を表す整数を返します。 <code>year(date_expression)</code>

XML 関数

データベースで XML をサポートするこれらの Transact-SQL 関数の構文、パラメータ、例、使用方法については、XML サービスを参照してください。

xmlextract	XML ドキュメントに XML クエリ式を適用し、指定された結果を返します。XML タグ付きまたはタグなしの情報を返すことができます。 <pre> xmlextract_expression ::= xmlextract (xml_query_expression,xml_data_expression [optional_parameters]) xml_query_expression ::=basic_string_expression xml_data_expression ::= general_string_expression optional_parameters ::= options_parameter returns_type options_parameter returns_type options_parameter ::= [,] option option_string returns_type ::= [,] returns datatype datatype ::= {string_type computational_type date_time_type } string_type ::= char (integer) varchar (integer) unichar (integer) univarchar (integer) text unitext image computational_type ::= integer_type decimal_type real_type date_time_type integer_type ::= [unsigned] {integer int tinyint smallint bigint} decimal_type ::= {decimal dec numeric } [(integer [, integer])] real_type ::= real float double precision date_time_type ::= date time datetime option_string ::= [,] basic_string_expression </pre>
xmlparse	パラメータとして渡される XML ドキュメントを解析し、ドキュメントの解析済み形式を含む <code>image</code> (デフォルト)、 <code>binary</code> 、または <code>varbinary</code> 値を返します。 <pre> mparse_call ::= xmlparse(general_string_expression [options_parameter][returns_type]) options_parameter ::= [,] option option_string option_string ::= basic_string_expression returns_type ::= [,] returns {image binary varbinary [(integer)]} </pre>
xmlrepresentation	式の <code>image</code> パラメータを調べて、パラメータに解析済み XML データが含まれるか、他の種類の <code>image</code> データが含まれるかを示す整数値を返します。 <pre> xmlrepresentation_call ::= xmlrepresentation(parsed_xml_expression) </pre>

xmltable

XML ドキュメントからデータを抽出し、SQL テーブルとして返します。

```
xmltable_expression ::= xmltable
    ( row_pattern passing xml_argument
      columns column_definitions
      options_parameter )
row_pattern ::= character_string_literal
xml_argument ::=
    xml_expression | column_reference | variable_reference
column_definitions ::=
    column_definition [ { , column_definition } ]
    column_definition ::=
        ordinality_column | regular_column

ordinality_column ::= column_name datatype for ordinality
regular_column ::=
    column_name datatype [ default literal ] [ null | not null ]
    [ path column_pattern ]
column_pattern ::= character_string_literal
options_parameter ::= [,] option option_string
options_string ::= basic_string_expression
```

(抽出テーブルの構文) SQL の from 句から SQL テーブルを返します。

```
from_clause ::= from table_reference [ , table_reference ] ...
table_reference ::= table_view_name | ANSI_join | derived_table
table_view_name ::= See the select command in Reference Manual
    Volume 2, "Commands."
ANSI_join ::= See the select command in Reference Manual
    Volume 2, "Commands."
derived_table ::=
    (subquery) as table_name [ (column_name [ , column_name ] ...) ]
    xmltable_expression as table_name
```

xmltest

XML クエリ式を評価する SQL 述部です。XML ドキュメント・パラメータを参照でき、ブール値の結果を返します。xmltest は SQL like 述部に似ています。

```
xmltest_predicate ::=
    xml_query_expression [not] xmltest xml_data
    [option option_string]
xml_data ::=
    xml_data_expression | (xml_data_expression)
xml_query_expression ::= basic_string_expression
xml_data_expression ::= general_string_expression
option_string ::= basic_string_expression
```

xmlvalidate

XML ドキュメントを検証します。

```
xmlvalidate_call ::=
    xmlvalidate ( general_string_expression, [optional_parameters] )
optional_parameters ::= options_parameter
    | returns_type
    | options_parameter returns type
options_parameter ::= [,] option option_string
options_string ::= basic_string_expression
returns_type ::= [,] returns string_type
string_type ::= char (integer) | varchar (integer)
    | unichar (integer) | univarchar (integer)
    | text | unitext | image | java.lang.String
```

コマンド

以下は、Adaptive Server のコマンドの概要と構文です。詳細については、『リファレンス・マニュアル：コマンド』を参照してください。

alter database

log off を使用すると、データベースのログに割り当てた領域の量だけでなく、アーカイブ・データベースの変更済みページ・セクションの量が減ります。

```
alter database database_name
[on {default | database_device} [= size]
[, database_device [= size]]...]
[log on {default | database_device} [= size]
[, database_device [= size]]...]
set { [durability = { no_recovery | at_shutdown | full}]
[ [, dml_logging = {full | minimal} ]
[ [, template = { database_name | NULL}]]
[, compression = {none | row | page}]
[, lob_compression = {compression_level | off}]
[., inrow_lob_length = value [log off database_device
[= size ] [from logical_page_number] [to logical_page_number]]
[, database_device
[= size | [from logical_page_number] [to logical_page_number]]
[with override]
[for load]
[for proxy_update]
```

alter encryption key

(暗号化カラム) 暗号化キーの現在のパスワードを変更し、キー・コピーを追加または破棄し、暗号化キーを再生成します。マスタ・キーを変更するには次の構文を使用します。

```
alter encryption key [dual] master
with <char_string>
{ add encryption
  { with passwd <char_string>
    for user <user_name> [for recovery]
  | for automatic_startup
}
| modify encryption
  { with passwd <char_string>
    [for recovery]
  | for automatic_startup
}
| drop encryption
  { for user <user_name>
  | for recovery
  | for automatic_startup
}
| regenerate key
  [ with passwd <char_string>]
| recovery encryption
  with passwd <char_string>
| modify owner <user_name>
}
```

syb_extpasswdkey サービス・キーを変更するには次の構文を使用します。

```
alter encryption key syb_extpasswdkey
[ with { static key | master key}]
{ regenerate key
  [ with { static key | master key } ]
| modify encryption
  [ with { static key | master key } ] }
```

カラム暗号化キーを変更するには次の構文を使用します。

```
alter encryption key [[database.][owner.]] keyname
{ [ as | not default ]
  [dual] master
  [ with { static key | master key } ]
  regenerate key
  [ with { static key | master key [no] dual_control } ] | [with passwd
  'password' | system_encr_passwd | login_passwd |
  'base_key_password']
  modify encryption
  [ with {passwd { 'password' | system_encr_passwd |
  login_passwd } | master key } ]
  [[no] dual_control]
  for automatic startup
  add encryption [ with passwd 'password' | 'key_copy_password']
  for user user_name
  [for [login_association | recovery | automatic_startup]]
  drop encryption for
  { user user_name | recovery
  [ for recovery ] | [ for automatic_startup ] }
  [ [ with passwd 'password' ]
  recover encryption with passwd 'password'
  | modify owner user_name
}
}
```

alter login

ログイン・アカウントの属性を変更します。

```
alter login login_name
{ [modify attribute_value_pair_list ]
| [add auto activated roles role_name [, role_name_list ] ]
| [drop auto activated roles { ALL | role_name [, role_name_list ] } ]
| [drop attribute_name_list ]
| [ with password caller_password
  modify password [immediately] new_loginName_password ] }
```

alter login profile

ログイン・プロファイルの属性を変更します。

```
alter login profile login_profile_name
{ [as [ not ] default ]
| [modify attribute_value_pair_list ]
| [add auto activated roles role_name [, role_name_list ] ]
| [drop auto activated roles { ALL | role_name [, role_name_list ] } ]
| [drop attribute_name_list ] }
```

alter...modify owner

データベース・オブジェクトの所有権を 1 人の所有者から別の所有者に譲渡します。

```
alter { object_type | all } [owner.]{object_name | * }
  modify owner
  { name_in_db | loginame only login_name }
  [ preserve permissions ]
```

alter role

役割間の相互排他的な関係を定義します。役割のパスワードの追加、削除、変更を行います。特定の役割に許可されるパスワード有効期間、最短のパスワード長、ログイン失敗の最大回数を指定します。alter role は、役割のロックおよびロック解除も行います。

```
alter role role1 {add | drop} exclusive
{membership | activation} role2

alter role role_name [add passwd "password" |
drop passwd] [lock | unlock]

alter role {role_name | "all overrides"}
set {passwd expiration | min passwd length |
max failed_logins} option_value
```

alter table

新しいカラムをテーブルに追加します。既存のカラムを削除または変更します。制約を追加、変更、または削除します。既存のテーブルのプロパティを変更します。テーブルのトリガを有効化または無効化します。テーブルの圧縮レベルを変更します。

計算カラムの追加、削除、変更をサポートし、マテリアライズされたプロパティ、null 入力可能性、または既存の計算カラム定義の変更を可能にします。

テーブルの分割や再分割を指定のパーティション方式で行ったり、パーティションがすでに存在するテーブルにパーティションを追加したりします。

```
alter table [[database.][owner].table_name
{add column_name datatype}
  {default {constant_expression | user | null}}
  {identity | null | not null [not materialized]}
  {off row | in row} [[constraint constraint_name]
  {{unique | primary key} [clustered | nonclustered] [asc | desc]
   [with {fillfactor = pct, max_rows_per_page = num_rows,
         reservepagegap = num_pages}
   [on segment_name] | references [[database.]owner.]ref_table
   [(ref_column)] [match full] | check (search_condition)}}
  {encrypt [with [database.]owner.] keyname]
   [decrypt_default {constant_expression | null}]}
  {compressed = compression_level | not compressed}
  [, next_column]... | add {constraint constraint_name}
  {unique | primary key} [clustered | nonclustered]
   (column_name [asc | desc][, column_name [asc | desc]...])
   [with {fillfactor = pct, max_rows_per_page = num_rows,
         reservepagegap = num_pages}] [on segment_name]
  | foreign key (column_name [{, column_name}...])
   references [[database.]owner.]ref_table
   [(ref_column) [{, ref_column}...]) [match full]
| add lob-colname { text | image | untext }
  [null] [ in row [ (length) ] ]
| check (search_condition)}
| set dml_logging = {full | minimal | default} |
  [, compression = {none | page | row}]
  [lob_compression = off | compression_level]
| drop {column_name [, column_name]...
  | constraint constraint_name} | modify column_name
  [datatype [null | not null]]
  [[encrypt [with keyname] [decrypt_default [value]] | decrypt]
  [[not] compressed]
  [compressed = compression_level | not compressed]
  [, next_column]... | replace column_name
  default {constant_expression | user | null}
  | decrypt_default {constant_expression | null}
  | drop decrypt_default}
lock {allpages | datarows | datapages} }
| with exp_row_size=num_bytes
  transfer table [on | off] | partition number_of_partitions
| unpartition | partition_clause | add_partition_clause
```

パーティションに使用する alter table 構文：

```
partition_clause ::=
partition by range (column_name[, column_name]...)
  ([partition_name] values <= ({constant | MAX}
  [, {constant | MAX}] ...) [on segment_name]
  [compression_clause] [on segment_name]
  [, [partition_name] values <= ({constant | MAX}
```



```

        [, {constant | MAX}] ...][on segment_name]...)
| partition by hash (column_name[, column_name]...)
  { (partition_name [on segment_name]
    [, partition_name [on segment_name]]...)
    [compression_clause] [on segment_name]
  | number_of_partitions
    [on (segment_name[, segment_name] ...)]}
| partition by list (column_name)
  ([partition_name] values (constant[, constant] ...)
   [on segment_name]
   [compression_clause] [on segment_name]
  [, [partition_name] values (constant[, constant] ...)
   [on segment_name] ...])
| partition by roundrobin
  { (partition_name [on segment_name]
    [, partition_name [on segment_name]]...)
    [compression_clause] [on segment_name]
  | number_of_partitions
    [on (segment_name [, segment_name]...)]}
add_partition_clause::=
  add partition
  { ([partition_name] values <= ({constant | MAX}
    [, {constant | MAX}] ...)
    [on segment_name]
    [compression_clause] [on segment_name]
  [, [partition_name ] values <= ({constant | MAX}
    [, {constant | MAX}] ...)
    [on segment_name]...)}
  | modify partition {partition_name [, partition_name . . .]}
  set compression [= {default | none | row | page}]

  | ([partition_name] values (constant[, constant] ...)
    [on segment_name]
  [, [partition_name] values (constant[, constant] ...)
    [on segment_name] ...])

```

計算カラムに使用する alter table 構文

```

alter table
  add column_name {compute | as}
    computed_column_expression...
    [materialized | not materialized]
  drop column_name
  modify column_name {null | not null |
    {materialized | not materialized} [null | not null] |
    {compute | as} computed_column_expression
    [materialized | not materialized]
    [null | not null]}

```

	パーティションの削除に使用する alter table 構文
	<code>alter table <i>table_name</i> drop partition <i>partition_name</i> [, <i>partition_name</i>]...</code>
alter thread pool	スレッド・プールを変更します。 <code>alter thread pool <i>pool_name</i> with { pool name = "<i>new_name</i>" thread count = <i>thread_count</i>, [pool description = "<i>description</i>"]} [idle timeout = <i>time_period</i>]</code>
begin...end	if...else などのフロー制御言語がグループ全体に作用するように、一連の SQL 文を囲みます。 <code>begin <i>statement block</i> end</code>
begin transaction	ユーザ定義のトランザクションの開始点をマーク付けします。 <code>begin tran[saction] [<i>transaction_name</i>]</code>
break	while ループを終了させます。break は、多くの場合 if テストによってアクティブ化されます。 <code>while <i>logical_expression</i> <i>statement</i> break <i>statement</i> continue</code>
checkpoint	ダーティ・ページ (最後に書き込みを行ってから更新されているページ) をすべて、データベース・デバイスに書き込みます。 <code>checkpoint [all [<i>dbname</i> [, <i>dbname</i>, <i>dbname</i>,]]</code>
close	カーソルをクローズします。 <code>close <i>cursor_name</i></code>
commit	ユーザ定義のトランザクションの終了点をマーク付けします。 <code>commit [tran transaction work] [<i>transaction_name</i>]</code>
compute 句	クエリ結果の追加ローとして表示される合計値を生成します。 <code><i>start_of_select_statement</i> compute <i>row_aggregate</i> (<i>column_name</i>) [, <i>row_aggregate</i> (<i>column_name</i>)]... [by <i>column_name</i> [, <i>column_name</i>]...]</code>
connect to...disconnect	(コンポーネント統合サービスのみ) 指定されたサーバに接続します。また、接続されているサーバとの接続を解除します。 この構文は、CIS を使用して別のサーバへのパススルーを作成するときに使用します。 <code>connect to <i>server_name</i> disconnect [from ASE] [all] [<i>connection_name</i>]</code>

CIS を使用せずに Adaptive Server に対して新しい JDBC 接続を開きます。引数は、どのような順序で指定してもかまいません。引数を指定しない場合、接続パラメータの入力を求めるプロンプトが表示されます。

```
connect
  [to ASE engine_name]
  [database database_name]
  [as connection_name]
  [user user_id]
  [identified by password]]
```

Adaptive Server に対して新しい JDBC 接続を開きます。CIS は使用しません。

```
connect using connect_string
```

continue

while ループを再開します。continue は、多くの場合 if テストによってアクティブ化されます。

```
while boolean_expression
  statement
  break
  statement
continue
```

create archive database

アーカイブ・データベースを作成します。

```
create archive database db_name
  [on db_device [= size]
   [, db_device [= size] ... ]
  with scratch_database = db_name
```

create database

新しいデータベースを作成します。

非クラスタ環境：

```
create [inmemory] [temporary] database database_name
  [use database_name as template]
  [on {default | database_device} [= size]
   [, database_device [= size]...]
  [log on database_device [= size]
   [, database_device [= size]...]
  [with {dbid = number, default_location = "pathname", override}
   | [.,]durability = { no_recovery
   | at_shutdown
   | full} ]
   [, compression = {none | row | page}]
   [, lob_compression = {compression_level | off}]
   [, [.,]inrow_lob_length = value } ]...
  [for {load | proxy_update}]
```

クラスタ環境：

```
create [ [ global | system ] temporary ] database database_name
  [ for instance instance_name ]
  [on {default | database_device} [= size]
   [, database_device [= size]...]
  [log on database_device [= size]
   [, database_device [= size]...]
  [with {override | default_location = "pathname"}]
  [for {load | proxy_update}]
```

create default	<p>挿入時に、明示的に与えられた値がない場合、1つのカラム (またはユーザ定義データ型のすべてのカラム) に挿入する値を指定します。</p> <pre>create default [owner.]default_name as constant_expression</pre>
create encryption key	<p>暗号化キーを作成します。キーや暗号化に関連するすべての情報は、create encryption key によってカプセル化されます。この文では、暗号化アルゴリズムとキー・サイズ、キーのデフォルト・プロパティ、キーを暗号化するためのオプションのユーザ指定のパスワード、暗号化プロセスでの初期化ベクトルまたは埋め込みの使用を指定できます。</p> <p>マスタ・キーを作成するには次の構文を使用します。</p> <pre>create encryption key [dual] master [for AES] with passwd char_literal</pre> <p>サーバ・キーを作成するには次の構文を使用します。</p> <pre>create encryption key syb_extpasswdkey [with { static key master key }] create encryption key syb_syscommkey [with { static key master key }]</pre> <p>カラム暗号化キーを作成するには次の構文を使用します。</p> <pre>create encryption key [[database.][owner.]]keyname [as default] [for algorithm] [with {{{passwd {char_literal system_encr_passwd} master key}}] [key_length num_bits] [init_vector {null random}] [pad {null random}] [[no] dual_control]]</pre>
create existing table	<p>(コンポーネント統合サービスのみ) プロキシ・テーブルを作成し、次にリモート・テーブルからメタデータを検索して格納し、そのデータをプロキシ・テーブルに配置します。こうすると、リモート・ロケーションのテーブル、ビュー、またはプロシージャにプロキシ・テーブルをマップできるようになります。</p> <pre>create existing table table_name (column_list) [on segment_name] [[external {table procedure file connection_type}] at pathname] [column_delimiter "string"]</pre> <p>プロキシ・テーブルを作成する方法として、create proxy_table コマンドの使用をおすすめします。この方法では、カラム定義を定義する必要がありません。</p>
create function	<p>指定値を返す保存された Transact-SQL ルーチンであるユーザ定義関数を作成します。</p> <pre>create function [owner_name.] function_name [((@parameter_name [as] parameter_datatype [= default] [,...n]))] returns return_datatype [with recompile] as [begin] function_body return scalar_expression [end]</pre>

create function (SQLJ)

Java の静的メソッドに SQL ラッパを追加することにより、ユーザ定義の関数を作成します。メソッドによって定義された値を返すことができます。

```
create function [owner.]sql_function_name
  ([ sql_parameter_name sql_datatype
    [(length)| (precision[, scale ])]
  [, sql_parameter_name sql_datatype
    [(length)| (precision[, scale ])]
  ...])
returns sql_datatype
  [(length)| (precision[, scale])]
[modifies sql data]
[returns null on null input |
  called on null input]
[deterministic | not deterministic]
[exportable]
language java
parameter style java
external name 'java_method_name
  [(java_datatype[, java_datatype
  ...])]'
```

インデックスの作成

テーブル内の 1 つ以上の計算カラムまたはそれ以外のカラムにインデックスを作成します。分割インデックスを作成します。

計算カラムを普通のカラムと同じようにインデックス・キーとして使用し、関数ベースのインデックスを作成できます。関数ベースのインデックスには、インデックス・キーとして 1 つ以上の式が含まれます。既存の **create index** 構文では計算カラムにインデックスを作成できますが、関数ベースのインデックスには追加の構文が必要です。

```
create [unique] [clustered | nonclustered] index index_name
  on [[database.] owner.] table_name
  (column_expression [asc | desc]
  [, column_expression [asc | desc]]...)
[with {fillfactor = pct,
  max_rows_per_page = num_rows,
  reservepagegap = num_pages,
  consumers = x, ignore_dup_key, sorted_data,
  [ignore_dup_row | allow_dup_row],
  statistics using num_steps values}]
[on segment_name]
[index_partition_clause]
```

インデックス・パーティションを作成します。

```
index_partition_clause ::=
  [local index [partition_name [on segment_name]
  [, partition_name [on segment_name]...]]]
```

関数ベース・インデックスを作成します。

```
create [unique | nonclustered] index index_name
  on [[database.] owner.] table_name
  (column_expression [asc | desc]
  [, column_expression [asc | desc]]...
```

create login

ログイン・アカウントを作成して、アカウントに割り当てるパスワード、アカウントのログイン・プロファイル、ユーザ提供のパラメータを指定します。

```
create login login_name with [encrypted]
  password password
  [attribute_value_pair_list]
```

create login profile	<p>指定した属性でログイン・プロファイルを作成します。</p> <pre>create login profile <i>login_profile_name</i> [as default] [with { attributes from <i>login_name</i> <i>attribute_value_pair_list</i> }]</pre>
create plan	<p>抽象プランを作成します。</p> <pre>create plan <i>query plan</i> [into <i>group_name</i>] [and set <i>@new_id</i>]</pre>
create procedure	<p>ユーザが提供する 1 つまたは複数のパラメータを付けることができるストアード・プロシージャまたは拡張ストアード・プロシージャ (ESP) を作成します。</p> <pre>create procedure [<i>owner</i>].<i>procedure_name</i>[:<i>number</i>] [[(<i>@parameter_name datatype</i> [(<i>length</i>) (<i>precision</i> [, <i>scale</i>])] [= <i>default</i>][<i>output</i>] [, <i>@parameter_name datatype</i> [(<i>length</i>) (<i>precision</i> [, <i>scale</i>])] [= <i>default</i>][<i>output</i>]...)] [with recompile] as {<i>SQL_statements</i> external name <i>dll_name</i>}</pre>
create procedure (SQLJ)	<p>SQL ラップを Java の静的メソッドに追加して、SQLJ ストアド・プロシージャを作成します。ユーザが提供するパラメータを受け入れ、結果セットと出力パラメータを返します。</p> <pre>create procedure [<i>owner</i>].<i>sql_procedure_name</i> ([[in out inout] <i>sql_parameter_name</i> <i>sql_datatype</i> [(<i>length</i>) (<i>precision</i> [, <i>scale</i>])] [=<i>default</i>] ...]) [, [in out inout] <i>sql_parameter_name</i> <i>sql_datatype</i> [(<i>length</i>) (<i>precision</i> [, <i>scale</i>])] [=<i>default</i>] ...]) [modifies sql data] [dynamic result sets <i>integer</i>] [deterministic not deterministic] language java parameter style java external name '<i>java_method_name</i> [[(<i>java_datatype</i> [, <i>java_datatype</i> ...])]'</pre>
create proxy_table	<p>(コンポーネント統合サービスのみ) カラム・リストを指定しないでプロキシ・テーブルを作成します。CIS は、リモート・テーブルから取得するメタデータからカラム・リストを生成します。</p> <pre>create proxy_table <i>table_name</i> [external [table directory file]] at <i>pathname</i> [column delimiter "<string>"]</pre>
create role	<p>ユーザ定義の役割を作成し、作成時に、特定の役割に許可されるパスワード有効期間、最短のパスワード長、ログイン失敗の最大回数を指定します。役割の作成時に、役割にパスワードを関連付けることもできます。</p> <pre>create role <i>role_name</i> [with passwd "<i>password</i>" [, {passwd expiration min passwd length max failed_logins} <i>option_value</i>]</pre>

create rule	<p>特定のカラムまたはユーザ定義データ型の任意のカラムに対し、受け入れ可能な値の領域を指定し、アクセス・ルールを作成します。</p> <pre>create [[and or] access]] rule [owner.]rule_name as condition_expression</pre>
create schema	<p>データベース・ユーザ用の新しいテーブル、ビュー、パーミッションを作成します。</p> <pre>create schema authorization authorization_name create_object_statement [create_object_statement ...] [permission_statement ...]</pre>
create service	<p>提供された SQL 文を指定された名前とパラメータを持つストアド・プロシージャでラップします。</p> <pre>create service service-name [secure security_options] [, userpath path] [, alias alias-name] type { xml raw soap } [[(@parameter_name datatype [(length) (precision [, scale])] [= default][output] [, @parameter_name datatype [(length) (precision [, scale])] [= default][output]...{.}]]] as SQL_statements security_options ::= (security_option_item [security_option_item])</pre>
198 = create table	<p>新しいテーブルを作成し、必要に応じて整合性制約を作成します。</p> <p>計算カラムを定義します。</p> <p>テーブル、ロー、パーティションの圧縮レベルを定義します。</p> <p>暗号化カラムと暗号化カラムの復号化デフォルトを定義します。</p> <pre>create table [[database.]owner.]table_name (column_name datatype [default {constant_expression user null}] [{identity null not null}] [in row [(length)] off row] [[constraint constraint_name] {{unique primary key} [clustered nonclustered] [asc desc] [with {fillfactor = pct, max_rows_per_page = num_rows,} reservepagegap = num_pages] dml_logging = {full minimal})] [on segment_name] references [[database.]owner.]ref_table [(ref_column)] [match full] check (search_condition)]} [[encrypt [with [database.]key_name] [decrypt_default constant_expression null]] [not compressed] [compressed = {compression_level not compressed}] [[constraint [[database.]owner.]key_name] {unique primary key} [clustered nonclustered] (column_name [asc desc] [{, column_name [asc desc]}...]) [with {fillfactor = pct max_rows_per_page = num_rows,</pre>

```

        reservepagegap = num_pages]
    [on segment_name]
    | foreign key (column_name [{, column_name}...])
        references [[database.]owner.]ref_table
            [(ref_column [{, ref_column}]...)]
            [match full]
    | check (search_condition ...)
    [{, {next_column | next_constraint}}...]
    [lock {datarows | datapages | allpages}]
    [with { max_rows_per_page = num_rows,
            exp_row_size = num_bytes,
            reservepagegap = num_pages,
            identity_gap = value
            transfer table [on | off]
            dml_logging = {full | minimal}
            compression = {none | page | row}}]
    [on segment_name]
    [partition_clause]
    [ [ external table ] at pathname ]
    [for load]
    compression_clause::=
        with compression = {none | page | row}

```

パーティションに次の構文を使用します。

```

partition_clause::=
    partition by range (column_name[, column_name]...)
        ([partition_name] values <= ({constant | MAX}
            [, {constant | MAX}] ...))
            [compression_clause] [on segment_name]
        [, [partition_name] values <= ({constant | MAX}
            [, {constant | MAX}] ...))
            [compression_clause] [on segment_name]]...)

    | partition by hash (column_name[, column_name]...)
        { (partition_name
            [compression_clause] [on segment_name]
            [, partition_name
            [compression_clause] [on segment_name]]...)
        | number_of_partitions
            [on (segment_name[, segment_name] ...)]}

    | partition by list (column_name)
        ([partition_name] values (constant[, constant] ...)
            [compression_clause] [on segment_name]
        [, [partition_name] values (constant[, constant] ...)
            [compression_clause] [on segment_name]] ...)

    | partition by roundrobin
        { (partition_name [on segment_name]
            [, partition_name
            [compression_clause] [on segment_name]]...)
        | number_of_partitions
            [on (segment_name [, segment_name]...)]}

```

計算カラムに次の構文を使用します。

```

create table [[database.]owner.] table_name
    (column_name {compute | as}
        computed_column_expression
        [[materialized] [not compressed]] | [not materialized])

```

仮想ハッシュ・テーブルを作成するには、次の構文を使用します。

```
create table [database.[owner].]table_name
...
| {unique | primary key}
using clustered
(column_name [asc | desc] [{, column_name [asc | desc]}...] =
(hash_factor [{, hash_factor}...])
with max num_hash_values key
```

create thread pool

ユーザ定義のスレッド・プールを作成します。

```
create thread pool pool_name with thread count = count
[, pool description = description ]
[idle timeout = time_period]
```

create trigger

整合性制約の実行によく使用されるストアド・プロシージャのひとつであるトリガを作成します。ユーザが特定のテーブル上で特定のデータ修正文を実行しようとする、トリガが自動的に実行されます。

```
create trigger [owner.]trigger_name
on [owner.]table_name
{for {insert , update} | instead of {insert, update, delete}}
[as
    [if update (column_name)
        [{and | or} update (column_name)]...
    SQL_statements
    [if update (column_name)
        [{and | or} update (column_name)]...
    SQL_statements]...]
```

create view

ビューを作成します。ビューは、1つまたは複数のテーブルのデータを参照する方法の1つです。

```
create view [owner .]view_name
[(column_name[, column_name]...)]
as
select [distinct] select_statement
[with check option]
```

dbcc

データベースの一貫性チェッカ (dbcc) は、データベースの論理的および物理的な一貫性の検査を行い、統計、計画、修復機能を提供します。

一部の dbcc コマンドは共有ディスク・クラスタにのみ適用されます。クラスタの各 dbcc 構文を参照してください。

```
dbcc addtempdb( dbid [database_name ]
dbcc checkalloc [(database_name[, fix | nofix])]
dbcc checkcatalog [(database_name[, fix])
dbcc checkdb [(database_name[, skip_ncindex])]
dbcc checkindex ({table_name | table_id}, index_id
[, bottom_up[, partition_name | partition_id]])
dbcc checkstorage [(database_name)]
dbcc checktable (table_name | table_id
[, skip_ncindex | fix_spacebits | "check spacebits" |
bottom_up | NULL[, partition_name | partition_id])
dbcc checkverify (dbname[, tblname[, ignore_exclusions]])
dbcc complete_xact (xid, [{"commit", "1pc"} | "rollback"])
dbcc dbrepair (database_name, dropdb)
```

```

dbcc engine ({offline, [enginenum] | "online"})
dbcc fix_text ({table_name | table_id})
dbcc forget_xact (xid)
dbcc indexalloc (table_name | table_id, index_id
    [, optimized | fast | NULL [, fix | nofix | NULL
    [, partition_name | partition_id]])
dbcc monitor (increment, <group name>)
dbcc monitor (decrement, <group name>)
dbcc monitor (reset, <group name>)
dbcc pravailabletempdbs
dbcc rebuild_text (table_name | table_id | "all" [, column[, text_page
    [, data_partition_name | data_partition_id]])
dbcc reindex ({table_name | table_id})
dbcc serverlimits
dbcc stackused
dbcc tablealloc (table_name | table_id [, full | optimized | fast | NULL
    [, fix | nofix | NULL [, data_partition_name | data_partition_id]])
dbcc textalloc (table_name | table_id [, full | optimized | fast | NULL
    [, fix | nofix | NULL [, data_partition_name | data_partition_id]])
dbcc {traceon | traceoff} (flag [, flag ...])
dbcc tune ({ascinserts, {0 | 1} , table_name |
    cleanup, {0 | 1} |
    cpuaffinity, start_cpu { on | off } |
    des_greedyalloc, dbid, object_name,
    " {on | off}" | deviochar vdevno, "batch_size" |
    doneinproc {0 | 1})
dbcc upgrade_object [ ( dbid | dbname
    [, [database.[owner].]compiled_object_name' |
    'check' | 'default' | 'procedure' | 'rule' |
    'trigger' | 'view'
    [, 'force' ] ] )

```

クラスタ専用の dbcc 構文 :

```

dbcc nodetraceon(trace_flag_number)
dbcc nodetraceoff(trace_flag_number)
dbcc set_scope_in_cluster("cluster"|"instance"|"scope")
dbcc quorum

```

deallocate cursor

カーソルをアクセスできない状態にし、そのカーソルにコミットされているメモリ・リソースをすべて解放します。

```
deallocate [cursor] cursor_name
```

deallocate locator

メモリに格納されているラージ・オブジェクト (LOB) を削除し、その LOB ロケータを無効にします。

```
deallocate locator locator_descriptor
```

declare	<p>バッチまたはプロシージャのローカル変数の名前とデータ型を宣言します。</p> <p>変数宣言：</p> <pre>declare @variable_name datatype [, @variable_name datatype]...</pre> <p>変数割り当て：</p> <pre>select @variable = {expression select_statement} [, @variable = {expression select_statement} ...] [from table_list] [where search_conditions] [group by group_by_list] [having search_conditions] [order by order_by_list] [compute function_list [by by_list]]</pre>
declare cursor	<p>select 文をカーソル名に関連付けることで、カーソルを定義します。アーカイブ・データベースで、declare cursor を使用できます。</p> <pre>declare cursor_name [semi_sensitive insensitive] [scroll no scroll] [release_locks_on_close] cursor for select_statement [for {read only update [of column_name_list]]]</pre>
delete	<p>テーブルからローを削除します。</p> <pre>delete [top unsigned_integer] [from] [[database.]owner.]{view_name table_name} [where search_conditions] [plan "abstract plan"] delete [[database.]owner.]{table_name view_name} [from [[database.]owner.]{view_name [readpast]} table_name [(index {index_name table_name} [prefetch size][lru mrul])]] [readpast] [, [[database.]owner.]{view_name [readpast]} table_name [(index {index_name table_name} [prefetch size][lru mrul])]] [readpast]} ...] [where search_conditions] [plan "abstract plan"] delete [from] [[database.]owner.]{table_name view_name} where current of cursor_name</pre>
delete statistics	<p>sysstatistics システム・テーブルから統計情報を削除します。</p> <pre>delete [shared] statistics table_name [partition data_partition_name] [(column_name[, column_name] ...)]</pre>
disk init	<p>物理デバイスまたはファイルを Adaptive Server で使用できるようにします。</p> <pre>disk init name = "device_name", physname = { 'physical_name' 'cache_name' } skip_alloc={true false}, [vdevno = virtual_device_number,] size = number_of_blocks [, type = 'inmemory']</pre>

	<pre>[, vstart = <i>virtual_address</i> , cntrtype = <i>controller_number</i> [, dsync = {true false}] [, directio = {true false}] [, instance = "<i>instance_name</i>"]</pre>
disk mirror	<p>プライマリ・デバイスで障害が発生した場合、ただちに処理を引き継ぐソフトウェア・ミラーを作成します。</p> <pre>disk mirror name = "<i>device_name</i>", mirror = "<i>physicalname</i>" [, writes = {serial noserial}] [clear = {TRUE FALSE}]</pre>
disk refit	<p><code>sysdevices</code> に格納されている情報に基づいて、master データベースの <code>sysusages</code> と <code>sysdatabases</code> システム・テーブルを再構築します。</p> <pre>disk refit</pre>
disk reinit	<p>master データベースの <code>sysdevices</code> システム・テーブルを再構築します。disk reinit は、master データベースをリストアする手順の一部として使用してください。</p> <pre>disk reinit name = "<i>device_name</i>", physname = "<i>physicalname</i>" , [<i>vdevno</i> = <i>virtual_device_number</i> ,] size = <i>number_of_blocks</i> [, vstart = <i>virtual_address</i> , cntrtype = <i>controller_number</i> [, dsync = {true false}] [, directio = {true false}] [, instance = "<i>instance_name</i>"]</pre>
disk remirror	<p>ディスク・ミラーリングが、ミラーリングされたデバイスの障害により停止したか、または <code>disk unmirror</code> コマンドによって一時的に無効になった後に、ディスク・ミラーリングを再起動します。</p> <pre>disk remirror name = "<i>device_name</i>"</pre>
disk resize	<p>Adaptive Server が使用するデバイスのサイズを動的に拡大します。</p> <pre>disk resize name = "<i>device_name</i>", size = <i>additional_space</i></pre>
disk unmirror	<p><code>disk mirror</code> コマンドによって開始されたディスク・ミラーリングを中断して、ハードウェアのメンテナンス、またはハードウェア・デバイスの変更を可能にします。</p> <pre>disk unmirror name = "<i>device_name</i>" [, side = {"primary" secondary}] [, mode = {retain remove}]</pre>
drop database	<p>アーカイブ・データベースを含む 1 つまたは複数のデータベースを Adaptive Server から削除します。</p> <pre>drop database <i>database_name</i> [, <i>database_name</i>] ...</pre>

drop default	<p>ユーザ定義のデフォルトを削除します。</p> <pre>drop default [owner.]default_name [, [owner.]default_name] ...</pre>
drop encryption key	<p>キー所有者は名前付き暗号キーを削除できます。</p> <pre>drop encryption key [[database.[owner].]keyname</pre>
drop function	<p>1 つまたは複数のユーザ定義関数を現在のデータベースから削除します。</p> <pre>drop function{ [owner_name .] function_name } [...n]</pre>
drop function (SQLJ)	<p>SQLJ 関数を削除します。</p> <pre>drop func[ti]on [owner.]function_name [, [owner.]function_name] ...</pre>
drop index	<p>現在のデータベースからインデックスを削除します。</p> <pre>drop index table_name.index_name [, table_name.index_name] ...</pre>
drop login	<p>1 つまたは複数のログイン・アカウントを削除します。</p> <pre>drop login login_name [, login_name_list] [with override]</pre>
drop login profile	<p>1 つまたは複数のログイン・プロファイルを削除します。</p> <pre>drop login profile login_profile_name [, login_profile_name_list] [with override]</pre>
drop procedure	<p>プロシージャを削除します。</p> <pre>drop proc[edure] [owner.]procedure_name [, [owner.]procedure_name] ...</pre>
drop role	<p>ユーザ定義の役割を削除します。</p> <pre>drop role role_name [with override]</pre>
drop rule	<p>ユーザ定義のルールを削除します。</p> <pre>drop rule [owner.]rule_name[, [owner.]rule_name] ...</pre>
drop service	<p>drop service コマンドは、現在のデータベースからユーザ定義 Web サービスを削除します。メタデータと対応するストアド・プロシージャの両方が削除されます。</p> <pre>drop service service-name</pre>
drop thread pool	<p>ユーザ定義のプールを削除します。</p> <pre>drop thread pool pool_name</pre>
drop table	<p>データベースからテーブルの定義とそのデータ、パーティション・プロパティ、インデックス、トリガ、暗号化プロパティ、パーミッションすべてを削除します。</p> <pre>drop table [[database.]owner.]table_name [, [[database.]owner.]table_name] ...</pre>
drop trigger	<p>トリガを削除します。</p> <pre>drop trigger [owner.]trigger_name [, [owner.]trigger_name] ...</pre>
drop view	<p>1 つまたは複数のビューを現在のデータベースから削除します。</p> <pre>drop view [owner.]view_name [, [owner.]view_name] ...</pre>

dump database

load database で読み込むことのできる形式で、トランザクション・ログを含むデータベース全体のバックアップ・コピーを作成します。ダンプとロードは Backup Server で行います。

```

dump database database_name
  to [compress::[compression_level::]]stripe_device
    [at backup_server_name]
    [density = density_value,
blocksize = number_bytes,
capacity = number_kilobytes,
dumpvolume = volume_name,
file = file_name]
    [with shrink_log]
    with verify[= header | full]
  [stripe on [compress::[compression_level::]]stripe_device
    [at backup_server_name]
    [density = density_value,
blocksize = number_bytes,
capacity = number_kilobytes,
dumpvolume = volume_name,
file = file_name]]
  [[stripe on [compress::[compression_level::]]stripe_device
    [at backup_server_name]
    [density = density_value,
blocksize = number_bytes,
capacity = number_kilobytes,
dumpvolume = volume_name,
file = file_name]]...]]
  [with {
    density = density_value,
    blocksize = number_bytes,
    capacity = number_kilobytes,
    compression = compress_level
    dumpvolume = volume_name,
    file = file_name,
    [dismount | nodismount],
    [nounload | unload],
    passwd = password,
    retaindays = number_days,
    [noinit | init],
    notify = {client | operator_console}
  }]

```

(Tivoli Storage Manager) Tivoli Storage Manager からバックアップ・サービスが提供されている場合は、次の構文を使用してデータベースをコピーします。

```

dump database database_name
  to "syb_tsm::object_name"
    [blocksize = number_bytes]
  [stripe on "[syb_tsm::]object_name"
    [blocksize = number_bytes]]...]]
  [with {
    blocksize = number_bytes,
    compression = compress_level,
    passwd = password,
    [noinit | init],
    notify = {client | operator_console},
    verify[ = header | full]
  }]

```

dump transaction

トランザクション・ログのコピーを作成し、無効な部分を削除します。定期的なログのダンプを作成する場合：

```
dump tran[saction] database_name
to [compress::[compression_level::]]stripe_device
[at backup_server_name]
[density = density_value,
blocksize = number_bytes,
capacity = number_kilobytes,
dumpvolume = volume_name,
file = file_name]
[stripe on [compress::[compression_level::]]stripe_device
[at backup_server_name]
[density = density_value,
blocksize = number_bytes,
capacity = number_kilobytes,
dumpvolume = volume_name,
file = file_name]
[[stripe on [compress::[compression_level::]]stripe_device
[at backup_server_name]
[density = density_value,
blocksize = number_bytes,
capacity = number_kilobytes,
dumpvolume = volume_name,
file = file_name]]...]
[with {
density = density_value,
blocksize = number_bytes,
capacity = number_kilobytes,
compression = compress_level,
dumpvolume = volume_name,
file = file_name,
[dismount | nodismount],
[nounload | unload],
retaindays = number_days,
[noinit | init],
notify = {client | operator_console},
standby_access}]
```

バックアップ・コピーを作成しないでログをトランケートする場合：

```
dump tran[saction] database_name
with truncate_only
```

容量一杯となったログをトランケートする場合 (ログの内容が失われるため、最後の手段としてのみ使用してください)：

```
dump tran[saction] database_name
with no_log
```

データベース・デバイスで障害が発生した後にログをバックアップする場合：

```
dump tran[saction] database_name
to [compress::[compression_level::]]stripe_device
[at backup_server_name]
[density = density_value,
blocksize = number_bytes,
capacity = number_kilobytes,
dumpvolume = volume_name,
file = file_name]
[stripe on [compress::[compression_level::]]stripe_device
[at backup_server_name]
[density = density_value,
blocksize = number_bytes,
capacity = number_kilobytes,
```

```

        dumpvolume = volume_name,
        file = file_name]]
[[stripe on [compress::[compression_level::]]stripe_device
[at backup_server_name]
[density = density_value,
blocksize = number_bytes,
capacity = number_kilobytes,
dumpvolume = volume_name,
file = file_name]]...]
[with {
density = density_value,
blocksize = number_bytes,
capacity = number_kilobytes,
compression = compress_level
dumpvolume = volume_name,
file = file_name,
[dismount | nodismount],
[nounload | unload],
retaindays = number_days,
[noinit | init],
no_truncate,
notify = {client | operator_console}}]

```

Tivoli Storage Manager からバックアップ サービスが提供されていて、トランザクション ログをコピーする場合 :

```

dump transaction database_name
to "syb_tsm::object_name"
[blocksize = number_bytes]
[stripe on "[syb_tsm::]object_name"
[blocksize = number_bytes]]...]
[with {
blocksize = number_bytes,
compression = compress_level,
passwd = password,
[noinit | init],
notify = {client | operator_console},
verify[ = header | full]
}]

```

execute

プロシージャを実行する、または Transact-SQL コマンドを動的に実行します。

```

[exec[ute]] [@return_status =]
[[[server .]database.]owner.]procedure_name[;number]
[[@parameter_name =] value |
[@parameter_name =] @variable [output]
[, [@parameter_name =] value |
[@parameter_name =] @variable [output]...]]
[with recompile]

```

または

```

exec[ute] ("string" | char_variable
[+ "string" | char_variable]...)

```

fetch

カーソル結果セットからローまたはロー・セットを返します。

```

fetch [next | prior | first | last | absolute
fetch_offset | relative fetch_offset ]
[from] cursor_name
[ into fetch_target_list ]

```

goto label

ユーザ定義のラベルへ分岐します。

```
label:  
goto label
```

grant

個々のユーザ、ユーザ・グループ、役割にパーミッションを割り当てます。また、ユーザ、システム役割、またはユーザ定義役割に役割を割り当てます。

データベース・オブジェクトへのアクセス・パーミッションを付与する場合は、次のように入力します。

```
grant {all [privileges] | permission_list}  
on {table_name [correlation_name]  
    [(column_list)]  
    | view_name[(column_list)]  
    | stored_procedure_name  
    | function_name  
    | keyname}  
[where search_condition]  
[as pred_name]  
to {public | name_list | role_list}  
[with grant option]
```

組み込み関数を使用するパーミッションを付与する場合：

```
grant select  
on [builtin] builtin  
to { name_list | role_list }
```

特定のコマンドの実行パーミッションを付与する場合：

```
grant {all [privileges] | command_list}  
to {public | name_list | role_list}
```

特定の dbcc コマンドへのアクセスを付与する場合：

```
grant dbcc {dbcc_command [on {all | database}]  
    [, dbcc_command [on {all | database}], ...]}  
to {user_list | role_list }
```

暗号化キーの作成パーミッションを付与する場合：

```
grant create encryption key to {user_list | role_list | group_list}
```

テーブルまたはテーブル内のカラム・リストの decrypt パーミッションを付与する場合：

```
grant decrypt on [ owner.]tablename[(columnname [{,columnname}])]  
to {user | group | role}
```

特定のシステム・テーブルにデフォルトのパーミッションを付与する場合：

```
grant default permissions on system tables
```

ユーザまたは役割に対して役割を付与する場合：

```
grant {role role_granted [, role_granted ...]}  
to grantee [, grantee...]
```

サーバ・ユーザ ID を他のサーバ・ログインに切り替え、その使用をターゲット・ログインの役割に基づいて制限する場合：

```
grant set {proxy | tracing} to role_list  
[restrict role role_list | all | system]
```

group by 句と having 句 テーブルをグループに分割したり、**having** 句の条件に一致するグループだけを返したりするために、**select** 文内で使用します。通常、**group by** は **select** クエリの非集合カラムのグループ分けを指定するために、集合と組み合わせて使用します。**having** 句はこれらのグループに適用されます。

```

Start of select statement
[group by [all] aggregate_free_expression
 [, aggregate_free_expression]...]
[having search_conditions]
End of select statement

```

if...else SQL 文の実行に条件を設定します。

```

if logical_expression [plan "abstract plan"]
statements
[else
 [if logical_expression] [plan "abstract plan"]
 statement]

```

insert テーブルまたはビューに新しいローを追加します。

```

insert [into] [database.[owner.]]{table_name|view_name}
 [(column_list)]
 {values (expression [, expression]...)
 |select_statement [plan "abstract plan"]}

```

kill プロセスを強制終了します。

```
kill spid with statusonly
```

load database **dump database** で作成されたトランザクション・ログなどのユーザ・データベースのバックアップ・コピーをロードし、データベース・ダンプとともにロードされたアーカイブ・データベースをマテリアライズします。

定期的なデータベースのロードを設定します。

```

load database database_name
from [compression=]stripe_device
 [at backup_server_name]
 [density = density_value,
 blocksize = number_bytes,
 dumpvolume = volume_name,
 file = file_name]
with verify only [= header | full]
[stripe on [compression=]stripe_device
 [at backup_server_name]
 [density = density_value,
 blocksize = number_bytes,
 dumpvolume = volume_name,
 file = file_name]
[[stripe on [compression=]stripe_device
 [at backup_server_name]
 [density = density_value,
 blocksize = number_bytes,
 dumpvolume = volume_name,
 file = file_name]]...]
[with {
 density = density_value,
 blocksize = number_bytes,
 compression,
 dumpvolume = volume_name,
 file = file_name,
 [dismount | nodismount],

```

```
[nounload | unload],  
passwd = password,  
notify = {client | operator_console},  
[override]]]
```

バックアップをロードしないでヘッダ情報またはファイル情報を調べます。

```
load database database_name  
from [compress::stripe_device  
[at backup_server_name]  
[density = density_value,  
blocksize = number_bytes,  
dumpvolume = volume_name,  
file = file_name]  
[stripe on [compress::stripe_device  
[at backup_server_name]  
[density = density_value,  
blocksize = number_bytes,  
dumpvolume = volume_name,  
file = file_name]  
[[stripe on [compress::stripe_device  
[at backup_server_name]  
[density = density_value,  
blocksize = number_bytes,  
dumpvolume = volume_name,  
file = file_name]]...]  
[with {  
density = density_value,  
blocksize = number_bytes,  
compression,  
dumpvolume = volume_name,  
file = file_name,  
[dismount | nodismount],  
[nounload | unload],  
passwd = password,  
listonly [= full],  
headeronly,  
notify = {client | operator_console}  
}]
```

アーカイブ・データベースをマテリアライズします。

```
load database database_name  
from dump_device  
[ [stripe on stripe_device] ... ]  
[with [norecovery,][passwd=password]
```

サイトで Tivoli Storage Manager がライセンスされている場合はデータベースのコピーをロードします。

```
load database database_name]  
from syb_tsm::[[-S source_server_name][[-D source_database_name]  
::object_name [blocksize = number_bytes]  
[stripe on syb_tsm::[[-S source_server_name]  
[-D source_database_name]::object_name  
[blocksize = number_bytes]  
[[stripe on syb_tsm::[[-S source_server_name]  
[-D source_database_name]::object_name  
[blocksize = number_bytes]]...]  
[with {  
blocksize = number_bytes,  
passwd = password,  
listonly [= full],  
headeronly,  
notify = {client | operator_console},  
[[verifyonly | verify] [= header | full]]  
}]
```

load transaction

dump transaction によって作成されたトランザクション・ログのバックアップ・コピーをロードします。

定期的なログのロードを設定します。

```
load tran[saction] database_name
  from [compress::]stripe_device
      [at backup_server_name]
      [density = density_value,
       blocksize = number_bytes,
       dumpvolume = volume_name,
       file = file_name]
  [stripe on [compress::]stripe_device
   [at backup_server_name]
   [density = density_value,
    blocksize = number_bytes,
    dumpvolume = volume_name,
    file = file_name]
  [[stripe on [compress::]stripe_device
   [at backup_server_name]
   [density = density_value,
    blocksize = number_bytes,
    dumpvolume = volume_name,
    file = file_name]]...]
  [with {
    density = density_value,
    blocksize = number_bytes,
    compression,
    dumpvolume = volume_name,
    file = file_name,
    [dismount | nodismount],
    [nounload | unload],
    notify = {client | operator_console}
  }]]
```

バックアップ・ログをロードしないでヘッダ情報またはファイル情報を調べます。

```
load tran[saction] database_name
  from [compress::]stripe_device
      [at backup_server_name]
      [density = density_value,
       blocksize = number_bytes,
       dumpvolume = volume_name,
       file = file_name]
  [stripe on [compress::]stripe_device
   [at backup_server_name]
   [density = density_value,
    blocksize = number_bytes,
    dumpvolume = volume_name,
    file = file_name]
  [[stripe on [compress::]stripe_device
   [at backup_server_name]
   [density = density_value,
    blocksize = number_bytes,
    dumpvolume = volume_name,
    file = file_name]]...]
  [with {
    density = density_value,
    blocksize = number_bytes,
    compression,
    dumpvolume = volume_name,
    file = file_name,
    [dismount | nodismount],
    [nounload | unload],
```

```
listonly [= full],
headeronly,
notify = {client | operator_console}
until_time = datetime]]
```

アーカイブ・データベースにトランザクション・ログをロードします。

```
load tran[saction] database_name
from dump_device
[[stripe on stripe_device] ... ]
```

(Tivoli Storage Manager のみ) サイトで Tivoli Storage Manager がライセンスされている場合はトランザクション・ログのコピーをロードします。

```
load transaction database_name
from syb_tsm::[[-S source_sever_name][[-D source_database_name]
::]object_name [blocksize = number_bytes]
[stripe on syb_tsm::[[-S source_sever_name]
[-D source_database_name>::]object_name
[blocksize = number_bytes]]
[[stripe on syb_tsm::[[-S source_sever_name]
[-D source_database_name>::]object_name
[blocksize = number_bytes]]...]
[with {
blocksize = number_bytes,
passwd = password,
listonly [= full],
headeronly,
notify = {client | operator_console},
until_time = datetime
}]
```

lock table

トランザクション内でテーブルを明示的にロックします。

```
lock table table_name in {share | exclusive} mode
[wait [numsecs] | nowait]
```

merge

送信元テーブルからターゲット・テーブルにローを転送します。

- 送信元に存在し、ターゲットに一致するキー・カラムのないローを挿入します。
- ターゲット内に既に存在するキー・カラムのあるローを、送信元のローの値で更新します。

```
merge by {insert | update}
into [[database.]owner.]identifier [as table_alias]
using [[database.]owner.]identifier [as table_alias]
| (select_query) as alias_name [column_list]
on merge_search_condition
[ when matched [and search_conditions ]
then {update set {col_name = expression} | delete} ]
[ when not matched [and search_conditions ]
then insert [(column_list)] values (value_list)
```

mount

データベースを移送先またはセカンダリの Adaptive Server に接続します。

```
mount database all | database_mapping[, database_mapping, ...]
from "manifest_file"
[using device_mapping [, device_mapping...]
[with listonly]
```

database_mapping:

	<pre> origdbname as newdbname newdbname = origdbname origdbname newdbname device_mapping logical_device_name as new_physical_name new_physical_name = logical_device_name original_physical_name new_physical_name </pre>
online database	<p>通常のロード・シーケンスの後でデータベースを誰でも使用できるようにし、必要な場合は、ロード済みデータベースを現在のバージョンの Adaptive Server にアップグレードします。また、<code>for standby_access</code> オプションによってダンプされたトランザクション・ログのロード後に、データベースをオンラインにします。また、<code>online database</code> を使用してアーカイブ・データベースをオンラインにすることもできます。</p> <pre> online database <i>database_name</i> [for standby_access] </pre>
open	<p>処理用のカーソルをオープンします。</p> <pre> open <i>cursor_name</i> </pre>
order by 句	<p>クエリ結果を、指定されたカラムのソート順で返します。</p> <pre> [Start of select statement] [order by {[table_name. view_name.] column_name select_list_number expression} [asc desc] ,. {[table_name. view_name.] column_name select_list_number expression} [asc desc]]...] [End of select statement] </pre>
prepare transaction	<p>サーバがトランザクションをコミットする準備ができているかどうかを確認するために、2 フェーズ・コミット・アプリケーションで DB-Library によって使用されます。</p> <pre> prepare tran[saction] </pre>
print	<p>ユーザ定義のメッセージをユーザの画面に表示します。</p> <pre> print {format_string @local_variable @@global_variable} [, arg_list] </pre>
quiesce database	<p>指定されたデータベースのリストへの更新処理を中断し、再開します。</p> <pre> quiesce database <i>tag_name</i> hold <i>database_list</i> [for external dump] [to <i>manifest_file</i> [with override]] </pre> <p>または</p> <pre> quiesce database <i>tag_name</i> release </pre>

raiserror	<p>ユーザ定義のエラー・メッセージをユーザの画面に表示し、エラー条件が発生したことを記録するシステム・フラグを設定します。</p> <pre>raiserror error_number [{format_string @local_variable}] [, arg_list] [with errordata restricted_select_list]</pre>
readtext	<p>指定のオフセット位置から開始して、指定のバイト数または文字数の <code>text</code> 値、<code>unitext</code> 値、<code>image</code> 値を読み込みます。</p> <pre>readtext [[database.]owner.]table_name.column_name text_pointer offset size [holdlock noholdlock] [readpast] [using {bytes chars characters}] [at isolation { [read uncommitted 0] [read committed 1] [repeatable read 2] [serializable 3] }]</pre>
reconfigure	<p>現在、<code>reconfigure</code> コマンドは無効です。既存のスクリプトを修正しないで実行できるようにするために、このコマンドが含まれています。</p> <pre>reconfigure</pre>
remove java	<p>Java クラスがデータベース内にインストールされている場合に、1 つまたは複数の Java-SQL クラス、パッケージ、JAR をデータベースから削除します。</p> <pre>remove java class class_name[, class_name]... package package_name[, package_name]... jar jar_name[, jar_name]...[retain classes]</pre>
reorg	<p>ページ上の未使用領域を再利用したり、ロー転送を取り除きます。またはテーブル内のローすべてを新しいページに書き込み直します (使用しているオプションによって動作が異なります)。</p> <pre>reorg compact table_name [partition partition_name] [with {resume, time = no_of_minutes, compress}] reorg forwarded_rows table_name [partition partition_name] [with {resume, time = no_of_minutes, compress}] reorg rebuild table_name [index_name [partition index_partition_name]] reorg reclaim_space table_name [index_name] [partition partition_name] [with {resume, time = no_of_minutes, compress}]</pre>
return	<p>バッチまたはプロシージャを無条件に終了し、オプションでリターン・ステータスを提供します。<code>return</code> に続く文は実行されません。</p> <pre>return [integer_expression] [plan "abstract_plan"]</pre>
revoke コマンド	<p>データベース・オブジェクトにアクセスするパーミッションを取り消す場合:</p> <pre>revoke [grant option for] {all [privileges] permission_list} on {table_name [(column_list)] view_name [(column_list)] stored_procedure_name} keyname} from {public name_list role_list} [cascade]</pre>

組み込み関数を選択するパーミッションを取り消す場合：

```
revoke select
  on [builtin] builtin
  to { name_list | role_list }
```

データベース・オブジェクトの作成、`set proxy` の実行、または `set session authorization` の実行を行うパーミッションを取り消す場合：

```
revoke {all [privileges] | command_list}
  from {public | name_list | role_list}
```

`set proxy` または `set tracing` を実行するパーミッションを取り消す場合：

```
[revoke set {proxy | tracing}
  from {public | name_list | role_list}
```

ユーザや別の役割から役割を取り消す場合：

```
revoke role {role_name [, role_list ...]} from
  {grantee [, grantee ...]}
```

一部の `dbcc` コマンドでのアクセスを取り消す場合：

```
revoke dbcc {dbcc_command [on {all | database}]
  [, dbcc_command [on {all | database}], ...]}
  from {user_list | role_list}
```

他のユーザ、グループ、役割から、暗号化キーを作成するパーミッションを取り消す場合：

```
revoke create encryption key from user | role | group
```

ロー・フィルタリング述部を取り消す場合：

```
revoke {all [privileges]
  | [all] permission_list}
  on table_name (column_list)
  [with { pred_name | {all | no} predicates}]
  from {public | name_list | role_list}
```

テーブルまたはテーブル内のカラム・リストの `decrypt` パーミッションを取り消す場合：

```
revoke decrypt on [owner.] tablename[(columnname [{,columnname}])]
  from user | group | role
```

`public` からデフォルトのパーミッションを取り消す場合：

```
revoke default permissions on system tables
```

`rollback`

ユーザ定義トランザクションを、トランザクション内の指定したセーブポイントまで、またはトランザクションの開始点までロールバックします。

```
rollback [tran | transaction | work]
  [transaction_name | savepoint_name]
```

`rollback trigger`

トリガによって実行された処理と、トリガを起動させたデータ変更処理をロールバックします。また、オプションで `raiserror` 文を実行します。

```
rollback trigger
  [with raiserror_statement]
```

`save transaction`

トランザクション内にセーブポイントを設定します。

```
save transaction savepoint_name
```


select

データベース・オブジェクトからローを取得します。

```
select ::=
  select [all | distinct]
  [top unsigned_integer]
  select_list
  [into_clause]
  [from_clause]
  [where_clause]
  [group_by_clause]
  [having_clause]
  [order_by_clause]
  [compute_clause]
  [read_only_clause]
  [isolation_clause]
  [browse_clause]
  [plan_clause]
  [for_xml_clause]
```

```
select_list ::=
```

select_list の詳細については、『リファレンス・マニュアル：コマンド』の「パラメータ」の項を参照してください。

```
into_clause ::=
```

```
into [[database.] owner.] table_name
  [(colname encrypt [with [database.[owner].]keyname] [,
  colname encrypt_clause ...])]
  | [compressed = compression_level | not compressed]
  [in row [(length)] | off row ]
  [external table at
  'server_name.[database].[owner].object_name'
  | external directory at 'pathname'
  | external file at 'pathname' [column delimiter 'string']]
  [on segment_name]
  dml_logging = (full | minimal)
  [partition_clause]
  [lock {datarows | datapages | allpages}]
  [with [, into_option[, into_option] ...]]
```

```
| into existing table table_name
```

```
partition_clause ::=
```

```
partition by range (column_name[, column_name]...)
  ([partition_name] values <= ({constant | MAX}
  [, {constant | MAX}] ...) [on segment_name]
  [compression_clause] [on segment_name]
  [, [partition_name] values <= ({constant | MAX}
  [, {constant | MAX}] ...) [on segment_name]]...)
  [compression_clause] [on segment_name]

| partition by hash (column_name[, column_name]...)
  { ([partition_name] [on segment_name]
  [compression_clause] [on segment_name]
  [, partition_name [on segment_name]]...)
  [compression_clause] [on segment_name]
  | number_of_partitions
  [on (segment_name[, segment_name] ...)]}

| partition by list (column_name)
  ([partition_name] values (constant[, constant] ...)
  [compression_clause] [on segment_name]
  [, [partition_name] values (constant[, constant] ...)
  [compression_clause] [on segment_name]
```

```

| partition by roundrobin
  { (partition_name [on segment_name]
    [, partition_name [on segment_name]]...)
    [compression_clause] [on segment_name]
  | number_of_partitions
    [on (segment_name [, segment_name]...)]}

into_option ::=
| max_rows_per_page = num_rows
| exp_row_size = num_bytes
| reservepagegap = num_pages
| identity_gap = gap
| compression = {none | page | row}
| lob_compression = off | compression_level]

from_clause ::=
from table_reference [, table_reference]...

table_reference ::=
table_view_name | ANSI_join

table_view_name ::=
[[database.]owner.]{table_name | view_name}
[as] [correlation_name]
[(index {index_name | table_name})]
[parallel [degree_of_parallelism]]
[fetch size][lru | mru]}
[holdlock | noholdlock]
[readpast]
[shared]

ANSI_join ::=
table_reference join_type join table_reference
join_conditions
join_type ::= inner | left [outer] | right [outer]
join_conditions ::= on search_conditions

compression_clause ::=
with compression = {none | page | row}

where_clause ::=
where search_conditions
for update [of column_list]

group_by_clause ::=
group by [all] aggregate_free_expression
[, aggregate_free_expression]...

having_clause ::=
having search_conditions

order_by_clause ::=
order by sort_clause [, sort_clause]...

sort_clause ::=
{[[database.]owner.]{table_name.|view_name.}column_name
| select_list_number
| expression }
[asc | desc]

compute_clause ::=
compute row_aggregate (column_name)
[, row_aggregate (column_name)]...
[by column_name [, column_name]...]

read_only_clause ::=
for {read only | update [of column_name_list]}

```

```

isolation_clause ::=
    at isolation
        {read uncommitted | 0}
        | {read committed | 1}
        | {repeatable read | 2}
        | {serializable | 3}

browse_clause ::=
    for browse

plan_clause ::=
    plan "abstract plan"

```

set

ユーザの作業セッション中の Adaptive Server クエリ処理オプションを設定します。一部のオプションは、トリガまたはストアド・プロシージャ内部で設定されます。

```

set advanced_aggregation on/off
set @variable = expression [, @variable = expression...]
set ansinull { on | off }
set ansi_permissions { on | off }
set arithabort [ arith_overflow | numeric_truncation ] { on | off }
set arithignore [arith_overflow] { on | off }
set bulk array size number
set bulk batch size number
set builtin_date_strings number
set {chained, close on endtran, nocount, noexec, parseonly,
    self_recursion, showplan, sort_resources} {on | off}
set char_convert {off | on [with {error | no_error}] |
    charset [with {error | no_error}]}
set cis_rpc_handling { on | off }
set [clientname client_name | clienthostname host_name
    | clientappname application_name]
set compression {on | off | default}
set cursor rows number for cursor_name
set {datefirst number, dateformat format, language language}
set delayed_commit {on | off | default}
set deferred_name_resolution { on | off }
set dml_logging {minimal | default}
set encryption passwd 'password_phrase'
    for {key | column} {keyname | column_name}
set export_options [on | off]
set fipsflagger { on | off }
set flushmessage { on | off }
set fmtonly {on | off}
set forceplan { on | off }
set identity_insert [database.[owner.]]table_name {on | off}
set identity_update table_name {on | off}
set index_union on | off
set literal_autoparam on | off
set lock {wait [numsecs] | nowait}

```

```

set metrics_capture on | off
set offsets {select, from, order, compute, table,
            procedure, statement, param, execute} {on | off}
set option show
set opttimeoutlimit
set parallel_degree number
set plan {dump | load} [group_name] {on | off}
set plan exists check { on | off }
set plan for show
set plan optgoal {allrows_mix | allrows_dss}
set plan opttimeoutlimit number
set plan replace { on | off }
set prefetch [on|off]
set print_minlogged_mode_override
set proc_output_params {on | off}
set proc_return_status {on | off}
set process_limit_action { abort | quiet | warning }
set proxy login_name
set quoted_identifier { on | off }
set repartition_degree number
set repthreshold number
set resource_granularity number
set role {"sa_role" | "sso_role" | "oper_role" |
         role_name [with passwd "password"]} {on | off}
set {rowcount number, textsize number}
set scan_parallel_degree number
set send_locator {on | off}
set session authorization login_name
set switch [serverwide] {on | off} trace_flag [,trace_flag.] [with option [, option]]
set show_exec_info ["on" | "off"]
set show_sqltext {on | off}
set show_transformed_sql, {on|off}
set statement_cache on | off
set statistics {io, subquerycache, time, plancost} {on | off}
set statistics simulate {on | off}
set strict_dtm_enforcement { on | off }
set string_truncation { on | off }
set system_view {instance | cluster | clear}
set textsize {number}
set tracefile [filename] [off] [for spid]
set transaction isolation level {
    [read uncommitted | 0] |
    [read committed | 1] |
    [repeatable read | 2 ] |
    [serializable | 3]}
set transactional_rpc { on | off }

```

setuser	データベース所有者が別のユーザになり代わることを可能にします。 <code>setuser ["user_name"]</code>
shutdown	コマンドの発行元 Adaptive Server、そのローカル Backup Server、またはリモート Backup Server を停止します。 <code>shutdown [srvname] [with {wait [= "hh:mm:ss"] nowait}]</code> クラスタの構文： <code>shutdown {cluster [instance_name]} [with {wait nowait}]</code>
transfer table	テーブルの増分転送を開始します。 <code>transfer table [[db.]owner.]table [to from] destination_file [for { ase bcp iq csv }] [with {column_separator=string}, {column_order=option}, {encryption=option}, {row_separator=string}, {resend=id}, {progress=sss}, {tracking_id=nnn} {sync = true false}], {fixed_length = true false} , null_byte = true false}]</code>
truncate lob	LOB を指定の長さにトランケートします。 <code>truncate lob locator_descriptor [(result_length)]</code>
truncate table	テーブルまたはパーティションからすべてのローを削除します。 <code>truncate table [[database.]owner.]table_name [partition partition_name]</code>
union 演算子	複数のクエリ結果を結合する単一の結果セットを返します。all キーワードを指定しないかぎり、重複するローは結果セットから削除されます。 <code>select [top unsigned_integer] select_list [into clause] [from clause] [where clause] [group by clause] [having clause] [union all] select [top unsigned_integer] select_list [from clause] [where clause] [group by clause] [having clause]]... [order by clause] [compute clause]</code>
unmount	データベースを停止し、Adaptive Server から削除します。 <code>unmount database dbname_list to manifest_file</code>
Update	データを追加するか、既存のデータを修正して、既存のローのデータを変更します。 <code>update [top unsigned_integer] [[database.]owner.]{table_name view_name} set [[{database.]owner.}{table_name. view_name.}] column_name1 = {expression1 NULL (select_statement)} variable_name1 = {expression1 NULL (select_statement)} [, column_name2 = {expression2 NULL (select_statement)}]... [, variable_name2 = {expression2 NULL (select_statement)}]... [from [[database.]owner.]{view_name [readpast]} table_name</code>

	<pre> [(index {index_name table_name} [prefetch size][lru mru])]] [readpast] [, [[database.]owner.]{view_name [readpast]} table_name [(index {index_name table_name} [prefetch size][lru mru])]]] [readpast] ...] [where search_conditions] [plan "abstract plan"] update [[database.]owner.]{table_name view_name} set [[database.]owner.]{table_name. view_name.} column_name1 = {expression1 NULL (select_statement)} variable_name1 = {expression1 NULL (select_statement)} [, column_name2 = {expression2 NULL (select_statement)}]... [, variable_name2 = {expression2 NULL (select_statement)}]... where current of cursor_name </pre>
update all statistics	<p>指定したテーブルの統計情報をすべて更新します。update all statistics は 1 つのデータ・パーティションに対して実行できます。</p> <pre> update all statistics table_name [partition data_partition_name] </pre>
update index statistics	<p>インデックスのすべてのカラムの統計を更新します。</p> <pre> update index statistics table_name [[partition data_partition_name] [index_name [partition index_partition_name]]] [using step values] [with consumers = consumers] [, sampling=N percent] </pre>
update statistics	<p>指定したインデックス、インデックス内のすべてのカラム、テーブル内のすべてのカラム、またはパーティション内のすべてのカラムのキー値の分布に関する情報を更新し、グローバル・ノンクラスタード・インデックスのデータ変更カウンタをリセットします。</p> <pre> update statistics table_name [[partition data_partition_name] [(column_list)] index_name [partition index_partition_name]] [using step values] [with consumers = consumers] [, sampling=N percent] </pre>
update table statistics	<p>update table statistics は、systabstats テーブルに格納されている、ロー数やクラスタ率などの統計値を更新します。update table statistics は、sysstatistics に格納されているカラムの統計値には影響しません。</p> <pre> update table statistics table_name [partition data_partition_name] [index_name [partition index_partition_name]] </pre>
use	<p>作業するデータベースを指定します。</p> <pre> use database_name </pre>
waitfor	<p>文ブロック、ストアド・プロシージャ、またはトランザクションを実行するための、特定の時間、時間間隔、またはイベントを指定します。</p> <pre> waitfor {delay time time time errorexit processexit mirrorexit} </pre>

where 句	<p>select、insert、update、または delete の各文で探索条件を設定します。</p> <pre> where [not] expression comparison_operator expression where {[not] expression comparison_operator expression} {...} where [not] expression [not] like "match_string" [escape "escape_character "] where [not] expression is [not] null where [not] expression [not] between expression and expression where [not] expression [not] in ({value_list subquery}) where [not] exists (subquery) where [not] expression comparison_operator {any all} (subquery) where [not] column_name join_operator column_name where [not] logical_expression where [not] expression {and or} [not] expression where column_name is [not] null </pre>
while	<p>文または文ブロックの繰り返し実行の条件を設定します。設定した条件が true である場合には、文は反復実行されます。</p> <pre> while logical_expression [plan "abstract plan"] statement </pre>
writetext	<p>既存の text カラム、unitext カラム、または image カラムで、最小限のログを取る対話型の更新を実行します。</p> <pre> writetext [[database.]owner.]table_name.column_name text_pointer [readpast] [with log] data </pre>

対話型 dbsql コマンド

以下は、Adaptive Server の対話型 dbsql コマンドの構文と概要です。詳細については、『リファレンス・マニュアル：コマンド』を参照してください。

clear	<p>Interactive SQL ウィンドウ枠をクリアします。</p> <pre> clear </pre>
configure	<p>Interactive SQL の [オプション] ダイアログを開きます。</p> <pre> configure </pre>
connect	<p>データベースへの接続を確立します。</p> <pre> connect [to engine_name] [database database_name] [as connection_name] [user] user_id identified by password engine_name, database_name, connection_name, user_id, password : {identifier string hostvar} connect using connect_string : {identifier string hostvar} </pre>
disconnect	<p>データベースへの現在の接続を切断します。</p> <pre> disconnect [{identifier string hostvar}] current all </pre>

exit	Interactive SQL を終了します。 <pre>{exit quit bye} [{number connection_variable}]</pre>
input	外部ファイルまたはキーボードからデータベース・テーブルにデータをインポートします。 <pre>input into [owner.]table_name [from filename prompt] [format { ascii dbase dbasel dbasel excel fixed foxpro lotus }] [escape character character] [escapes { on off}] [by order by name] [delimited by string] [column widths (integer , . . .)] [nostrip] [(column_name , . . .)] [encoding {identifier string}]</pre>
output	外部ファイルまたはキーボードからデータベース・テーブルにデータをインポートします。 <pre>output to filename [append] [verbose] [format {ascii dbase dbasel dbasel excel fixed foxpro lotus sql xml}] [escape character character] [escapes { on off}] [delimited by string] [quote string [all]] [column widths (integer , . . .)] [hexadecimal { on off asis }] [encoding {string identifier}]</pre>
parameters	Interactive SQL コマンド・ファイルにパラメータを指定します。 <pre>parameters parameter1, parameter2, . . .</pre>
read	Interactive SQL 文をファイルから読み込みます。 <pre>read [encoding {identifier string}] file_name [parameters]</pre>
set connection	現在のデータベース接続を別のサーバに変更します。 <pre>set connection {identifier string hostvar}</pre>
set option	Interactive SQL オプションの値を変更します。 <pre>set [temporary] option [{identifier string hostvar}. public.] {identifier string hostvar builtin_date_strings} = [option_value] set permanent set</pre>
start logging	実行された SQL 文のログ・ファイルへのロギングを開始します。 <pre>start logging file_name</pre>
stop logging	現在のセッションで実行された SQL 文のロギングを停止します。 <pre>stop logging</pre>
system	実行ファイルを Interactive SQL 内から起動します。 <pre>system '[path] file_name'</pre>

システム・プロシージャ

以下は、Adaptive Server のシステム・ストアド・プロシージャの構文と概要です。詳細については、『リファレンス・マニュアル：プロシージャ』を参照してください。

<code>sp_activeroles</code>	すべてのアクティブな役割を表示します。 <code>sp_activeroles [expand_down]</code>
<code>sp_add_qpgroup</code>	抽象プラン・グループを追加します。 <code>sp_add_qpgroup new_name</code>
<code>sp_add_resource_limit</code>	Adaptive Server ログインまたはアプリケーションがクエリ、クエリ・バッチ、トランザクションの実行に使用できるサーバ・リソース数の制限値を作成します。 <code>sp_add_resource_limit name, appname, rangename, limittype, limitvalue [, enforced [, action [, scope]]]</code>
<code>sp_add_time_range</code>	名前付き時間範囲を Adaptive Server に追加します。 <code>sp_add_time_range name, startday, endday, starttime, endtime</code>
<code>sp_addalias</code>	Adaptive Server のユーザをデータベース内で別のユーザとして認識されるようにします。 <code>sp_addalias loginame, name_in_db</code>
<code>sp_addauditrecord</code>	ユーザが、監査証跡にユーザ定義の監査レコード (コメント) を入力できるようにします。 <code>sp_addauditrecord [text [, db_name [, obj_name [, owner_name [, dbid [, objid]]]]]]</code>
<code>sp_addauditable</code>	監査機能のインストール後に、別のシステム監査テーブルを追加します。 <code>sp_addauditable devname</code>
<code>sp_addengine</code>	<code>sp_addengine</code> は、スレッド・モードでは動作しません。 <code>sp_addengine engine_number, engine_group [, instance_id]</code>
<code>sp_addexclass</code>	クライアント・アプリケーション、ログイン、ストアド・プロシージャにバインドできるユーザ定義の実行クラスを作成または更新します。 <code>sp_addexclass classname, priority, timeslice, engine_group [, instance_id]</code>
<code>sp_addextendedproc</code>	master データベース内に拡張ストアド・プロシージャ (ESP) を作成します。 <code>sp_addextendedproc esp_name, dll_name</code>
<code>sp_addexternlogin</code>	(コンポーネント統合サービスのみ) コンポーネント統合サービスを介してリモート・サーバとの通信に使用する代替ログイン・アカウントとパスワードを作成します。 <code>sp_addexternlogin server, loginame, externname [, externpasswd] [rolename]</code>
<code>sp_addgroup</code>	データベースにグループを追加します。グループを使用すると、権利の付与および取り消しをまとめて行うことができます。 <code>sp_addgroup grpname</code>

sp_addlanguage	代替言語における月と曜日の名前、およびその日付フォーマットを定義します。 sp_addlanguage <i>language, alias, months, shortmons, days, datefmt, datefirst</i>
sp_addmessage	ストアド・プロシージャでの print と raiserror の呼び出し、および sp_bindmsg で使用するために、sysusermessages にユーザ定義メッセージを追加します。 sp_addmessage <i>message_num, message_text</i> [, <i>language</i> [, <i>with_log</i> [, <i>replace</i>]]]
sp_addobjectdef	(コンポーネント統合サービスのみ) ローカル・テーブルと外部記憶装置の間のマッピングを指定します。 sp_addobjectdef <i>tablename, objectdef</i> [, <i>objecttype</i>]
sp_addremotelogin	master.dbo.sysremotelogins にエントリを追加して、新しいリモート・サーバ・ユーザを認可します。 sp_addremotelogin <i>remoteserver</i> [, <i>loginame</i> [, <i>remotename</i>]]
sp_addsegment	データベースにデータベース・デバイスのセグメントを定義します。 sp_addsegment <i>segname, dbname, devname</i>
sp_addserver	リモート・サーバまたはローカル・サーバの名前を定義します。host パラメータと port パラメータを使用する場合はリモート・プロシージャ・コール (RPC) 用のサーバを指定します。 sp_addserver <i>lname</i> [, <i>class</i> [, <i>pname</i>]] コンポーネント統合サービス (CIS) のみ sp_addserver ' <i>logical_server_name</i> ', ASEnterprise, ' <i>host:port.filter</i> '
sp_addthreshold	データベース・セグメントの領域の使用状況を監視するスレッショルドを作成します。セグメントの空き領域が指定されたレベルを下回ると、Adaptive Server は関連するストアド・プロシージャを実行します。 sp_addthreshold <i>dbname, segname, free_space, proc_name</i>
sp_addtype	ユーザ定義データ型を作成します。 sp_addtype <i>typename,</i> <i>phystype</i> [(<i>length</i>) (<i>precision</i> [, <i>scale</i>)] [, " <i>identity</i> " <i>nulltype</i>]
sp_addumpdevice	Adaptive Server にダンプ・デバイスを追加します。 sp_addumpdevice {" <i>tape</i> " " <i>disk</i> "}, <i>logicalname,</i> <i>physicalname</i> [, <i>tapesize</i>]
sp_adduser	新しいユーザを現在のデータベースに追加します。 sp_adduser <i>loginame</i> [, <i>name_in_db</i> [, <i>grpname</i>]]
sp_altermessage	Adaptive Server エラー・ログ内の特定のシステム定義メッセージまたはユーザ定義メッセージのロギングを、有効にしたり無効にしたりします。 sp_altermessage <i>message_id, parameter, parameter_value</i>
sp_audit	システム・セキュリティ担当者による監査オプションの設定を可能にします。 sp_audit <i>option, login_name, object_name</i> [, <i>setting</i>] または sp_audit 'restart'

<code>sp_autoconnect</code>	<p>(コンポーネント統合サービスのみ) 特定のユーザが使用するリモート・サーバへの接続パススルーを定義します。これによって、このユーザはログイン時に自動的にパススルー・モードを開始できます。</p> <pre>sp_autoconnect server, {true false} [, loginame]</pre>
<code>sp_autoformat</code>	<p><code>sp_autoformat</code> は、判読しやすい結果セット・データを作成するユーティリティ・ストアド・プロシージャです。可変長の文字データの幅を再フォーマットして、非空白文字のみを表示します。出力の後続空白はトランケートされます。</p> <pre>sp_autoformat fulltablename[, selectlist, whereclause, orderby]</pre>
<code>sp_bindcache</code>	<p>データベース、テーブル、インデックス、<code>text</code> オブジェクト、または <code>image</code> オブジェクトをデータベース・キャッシュにバインドします。</p> <pre>sp_bindcache cachename, dbname [, [ownername.]tablename [, indexname "text only"]]</pre>
<code>sp_bindefault</code>	<p>ユーザ定義のデフォルトをカラムまたはユーザ定義データ型にバインドします。</p> <pre>sp_bindefault defname, objname [, futureonly]</pre>
<code>sp_bindexeclss</code>	<p>クライアント・アプリケーション、ログイン、ストアド・プロシージャ、またはデフォルト実行クラスに実行クラスを関連付けます。</p> <pre>sp_bindexeclss "object_name", "object_type", "scope", "classname"</pre>
<code>sp_bindmsg</code>	<p>ユーザ・メッセージを参照整合性制約または検査制約にバインドします。</p> <pre>sp_bindmsg constname, msgid</pre>
<code>sp_bindrule</code>	<p>カラムまたはユーザ定義データ型にルールをバインドします。</p> <pre>sp_bindrule rulename, objname [, futureonly]</pre>
<code>sp_cacheconfig</code>	<p>データ・キャッシュの作成、設定、再設定、削除を行い、データ・キャッシュについての情報を提供します。</p> <pre>sp_cacheconfig [cachename [, "cache_size"[P K M G]] [, logonly mixed inmemory_storage][, strict relaxed] [, "cache_partition"=[1 2 4 8 16 32 64]] [, instance instance_name]</pre>
<code>sp_cachestrategy</code>	<p>テーブル、インデックス、<code>text</code> オブジェクト、または <code>image</code> オブジェクトに対するプリフェッチ (大容量 I/O) と MRU キャッシュの置換方式を有効または無効にします。</p> <pre>sp_cachestrategy dbname, [ownername.]tablename [, indexname "text only" "table only" [, {prefetch mru}, {"on" "off"}]]</pre>
<code>sp_changedbowner</code>	<p>ユーザ・データベースの所有者を変更します。</p> <pre>sp_changedbowner loginame[, true]</pre>
<code>sp_changegroup</code>	<p>ユーザのグループを変更します。</p> <pre>sp_changegroup grpname, username</pre>

sp_checknames	7ビットの ASCII 文字セット以外の文字が、現在のデータベースの名前に使われていないかを検査します。 <code>sp_checknames [help silent]</code>
sp_checkreswords	識別子として使われている Transact-SQL の予約語を検出して表示します。サーバ名、デバイス名、データベース名、セグメント名、ユーザ定義データ型、オブジェクト名、カラム名、ユーザ名、ログイン名、リモート・ログイン名を確認します。 <code>sp_checkreswords [user_name_param]</code>
sp_checksourc	コンパイル済みオブジェクトのソース・テキストがあるかどうかと、計算カラムのソース・テキストがあるかどうかをチェックします。コンパイル済みオブジェクトはユーザ定義の述部名場合があります。述部に外部名が含まれていない場合は、内部名になります。 <code>sp_checksourc [objname [, tablename [, username]]]</code>
sp_chgattribute	<code>max_rows_per_page</code> 、 <code>fillfactor</code> 、 <code>reservepagegap</code> 、 <code>exp_row_size</code> の各値を変更して、テーブルまたはインデックスの今後の領域を割り付けます。また、テーブルに <code>concurrency_opt_threshold</code> を設定します。オプティミスティック・インデックス・ロック用のユーザ・インタフェースを提供します。 <code>sp_chgattribute objname, {"max_rows_per_page" "fillfactor" "reservepagegap" "exp_row_size" "concurrency_opt_threshold" "optimistic_index_lock" "identity_burn_max" "plldegree"}, value, optvalue</code> <code>sp_chgattribute objname, {"identity_gap", set_number "dealloc_first_xtpg", value}</code>
sp_cleanpwdchecks	<code>sp_cleanpwdchecks</code> はカスタム・ストアド・プロシージャであり、ユーザ定義のテーブルでログインおよびパスワード関連の属性を削除する日時と方法を定義できます。 <code>sp_cleanpwdchecks, login_name</code>
sp_clearpsex	<code>sp_setpsex</code> によって設定された Adaptive Server セッションの実行属性をクリアします。 <code>sp_clearpsex spid, exeattr</code>
sp_clearstats	すべてのサーバ・ユーザまたは指定ユーザの新しいアカウント期間を開始します。 <code>sp_reportstats</code> を実行して、前回の期間の統計を表示します。 <code>sp_clearstats [loginame]</code>
sp_client_addr	クライアント・アプリケーションが付加されている、Adaptive Server の各タスクの IP (インターネット・プロトコル) アドレスを表示します。 <code>spid</code> とクライアント・ホスト名も表示されます。 <code>sp_client addr [spid]</code>
sp_clusterlockusage	クラスタ環境内 - クラスタ内のフリー・ロック、使用中のロック、保持されているロックについてレポートします。 <code>sp_clusterlockusage</code>

sp_cluster

(クラスタ環境のみ) クラスタに関する複数のプロシーダを実行します。

接続を別の論理クラスタまたはインスタンスにマイグレートします。

```
sp_cluster connection, migrate, lc_name, instance_name, "spid_list"
```

以前の接続マイグレーションが待機中かどうかを調べ、待機中ならそのマイグレーションをキャンセルします。

```
sp_cluster connection, ['migrate_status' | 'migrate_cancel' ][, 'spid_list']
```

未処理のまま残っているアクションを変更します。アクションのキャンセルやタイミングの変更など。

```
sp_cluster logical, "action", lc_name, {  
  cancel, action_handle |  
  modify_time, action_handle, wait_option[, timeout] |  
  release, action_handle }
```

論理クラスタに1つのリソースか1つまたは複数のルートを追加します。

```
sp_cluster logical, "add", lc_name, {  
  route, route_type, key_list |  
  instance, instance_list |  
  failover, instance_list }
```

ルートを1つの論理クラスタから別のクラスタに移動します。

```
sp_cluster logical, "alter", lc_name, route, route_type, key_list
```

新しい論理クラスタを作成します。

```
sp_cluster logical, "create", lc_name
```

論理クラスタを、1つまたは複数のインスタンスで停止、または論理クラスタ全体を停止して、インスタンスまたは論理クラスタを非アクティブな状態にします。

```
sp_cluster logical, "deactivate", lc_name, {  
  "cluster" |  
  "instance", instance_list }  
[, wait_option[, timeout[, @handle output ]]]
```

論理クラスタを削除する。または論理クラスタから1つまたは複数のリソースを削除します。

```
sp_cluster logical, "drop", lc_name,  
{cluster | instance, instance_list |  
  failover, instance_list |  
  route, route_type, key_list }
```

元のベース・インスタンスを復活させて、手動フェールオーバーをリバースします。

```
sp_cluster logical, "failback", lc_name, {  
  cluster[, wait_option[, timeout[, @handle output ]]] |  
  instance, from_instance_list, to_instance_list[, wait_option[,  
    timeout[, @handle output ]]] }
```

ベース・インスタンスからフェールオーバー・インスタンスへの手動フェールオーバーを開始します。

```
sp_cluster logical, "failover", lc_name, {cluster  
  [, to_instance_list[, wait_option[, timeout[, @handle output ]]] |  
  instance, from_instance_list, to_instance_list[, wait_option[,  
    timeout[, @handle output ]]] }
```

接続グループを手動で集めて別の論理クラスタにマイグレートします。

```
sp_cluster logical, 'gather', lc_name
```

`sp_cluster logical` の完全な構文を表示します。

```
sp_cluster logical, "help"
```

論理クラスタを 1 つまたは複数のインスタンス上で停止します。または論理クラスタ全体を停止します。

```
sp_cluster logical, "offline", lc_name,
    {cluster | instance, instance_list }
    [, wait_option [, timeout [, @handle output ]]]
```

1 つまたは複数のインスタンス上でデフォルトの論理クラスタを開始します。

```
sp_cluster logical, "online", { lc_name [, instance_list] }
```

論理クラスタのルール (open 論理クラスタ、フェールオーバー・モード、システム・ビュー、起動モード、負荷プロファイル) を設定します。

```
sp_cluster logical, "set", lc_name, { open
    | failover, failover_mode
    | system_view, view_mode
    | startup, { automatic | manual }
    | load_profile, profile_name }
    login_distribution, { affinity | "round-robin" }
```

論理クラスタに関する情報を表示します。

```
sp_cluster logical, "show"
    [, lc_name [, {action [, state] | route [, type [, key]]}] ]]
```

論理クラスタの負荷プロファイルを設定し管理します。

```
sp_cluster profile, [ "show" [, profile_name ]
    | "create", profile_name
    | "drop", profile_name
    | "set", profile_name [, weight [, wt_metric [, wt_value ] ] ]
    | threshold [, thr_metric [, thr_value ] ] ]]
```

論理クラスタの負荷プロファイルを設定し管理します。

```
sp_cluster profile, [ "show" [, profile_name ] | "create", profile_name | "drop",
    profile_name | "set", profile_name [, weight [, wt_metric [, wt_value ] ] | threshold [,
    thr_metric [, thr_value ] ] ]]
```

`sp_cmp_all_qplans`

2 つの抽象プラン・グループにあるすべての抽象プランを比較します。

```
sp_cmp_all_qplans group1, group2 [, mode]
```

`sp_cmp_qplans`

2 つの抽象プランを比較します。

```
sp_cmp_qplans id1, id2
```

`sp_commonkey`

2 つのテーブルまたはビューの間の共通キー (頻繁にジョインされるカラム) を定義します。

```
sp_commonkey tabaname, tabbname, col1a, col1b
    [, col2a, col2b, ..., col8a, col8b]
```

`sp_companion`

高可用性システムのセカンダリ・コンパニオンとして Adaptive Server を設定し、コンパニオン・サーバをフェールオーバー・モードから別のモードへ移行させるなどのクラスタ・オペレーションを実行します。`sp_companion` は、セカンダリ・コンパニオンから実行されます。

```

sp_companion
  {server_name
  {, configure
    [, {with_proxydb | NULL}]
    [, srvlogin]
    [, server_password]
    [, cluster_login]
    [, cluspassword]}
  | drop
  | suspend
  | resume
  | prepare_failback
  | do_advisory)
  {, all
  | help
  | group_attribute_name
  | base_attribute_name}

```

- sp_compatmode** フル互換モード **compatibility mode** を使用できるかどうか確認します。
- sp_compatmode**
- sp_configure** グループ別の設定パラメータ、その現在の値、デフォルト値、一番最後に設定された値、この設定が使用するメモリ量を表示します。表示レベルがユーザの表示レベルと同等またはそれより低いパラメータだけを表示します。
- ```

sp_configure [configname [, configvalue] | group_name |
non_unique_parameter_fragment] 'drop instance'
[, instance_name] [display_nondefault_settings]

sp_configure "configuration file", 0, {"write" | "read" | "verify" | "restore"}
"file_name"

```
- sp\_copy\_all\_qplans** ある抽象プラン・グループのすべてのプランを別のグループにコピーします。
- sp\_copy\_all\_qplans src\_group, dest\_group**
- sp\_copy\_qplan** 抽象プランを抽象プラン・グループにコピーします。
- sp\_copy\_qplan src\_id, dest\_group**
- sp\_countmetadata** Adaptive Server にあるインデックス、オブジェクト、またはデータベースの数を表示します。
- sp\_countmetadata "configname" [, dbname]**
- sp\_cursorinfo** 特定のカーソルの情報、または使用しているセッションでアクティブなすべての実行カーソルの情報をレポートします。
- sp\_cursorinfo [{cursor\_level | null}] [, cursor\_name]**
- sp\_dbextend** 以下のことができます。
- データベース / セグメントのペアおよびデバイスに、自動データベース拡張プロシージャをインストールする。
  - 個々のセグメントやデバイスにサイト固有のポリシーを定義する。
  - 大量のロードを処理する前にそのオペレーションを確認するため、データベース拡張構成の実行をシミュレートする。

引数はすべて、次の文字列引数です。

```

sp_dbextend 'help', command
sp_dbextend [['set', ['threshold', dbname, segmentname, freespace |
 'database', dbname, segmentname { [[growby] [maxsize] }]
 'device', devicename { [[growby] [maxsize] }] |
 'clear', 'threshold', dbname, segmentname
sp_dbextend 'clear', 'database' [, dbname [, segmentname]]
sp_dbextend 'clear', 'device' [, devicename]
sp_dbextend 'modify', 'database', dbname, segmentname,
 { 'growby' | 'maxsize' }, newvalue
sp_dbextend 'modify', 'device', devicename, { 'growby' | 'maxsize' },
 newvalue
sp_dbextend { 'list' | 'listfull' } [, 'database' [, dbname [, segmentname
 [, order_by_clause]]]]
sp_dbextend { 'list' | 'listfull' } [, 'device' [, devicename [, order_by_clause]]]
sp_dbextend { 'list' | 'listfull' }, ['threshold' [, @dbname
 [, @segmentname]]]
sp_dbextend 'check', 'database' [, dbname [, segmentname]]
sp_dbextend { 'simulate' | 'execute' }, dbname, segmentname [, iterations]
sp_dbextend 'trace', { 'on' | 'off' }
sp_dbextend 'reload [defaults]'
sp_dbextend { 'enable' | 'disable' }, 'database' [, dbname [, segmentname]]
sp_dbextend 'who' [, 'spid' | 'block' | 'all']

```

**sp\_dboption** データベース・オプションを表示または変更し、非同期ログ・サービス機能を有効にします。

```
sp_dboption [dbname, optname, optvalue [, dockptf]
```

**sp\_dbrecovery\_order** ユーザ・データベースがリカバリされる順序を指定し、データベースまたはすべてのデータベースのユーザが定義したりカバリ順をリストします。

```
sp_dbrecovery_order [database_name [, rec_order [, force [, relax | strict]]]]
```

**sp\_dbremap** Adaptive Server に、**alter database** が行った変更を認識させます。Adaptive Server のメッセージで指示された場合のみ、このプロシージャを実行してください。

```
sp_dbremap dbname
```

**sp\_defaultloc** (コンポーネント統合サービスのみ) ローカル・データベース内での、オブジェクトのデフォルトの記憶ロケーションを定義します。

```
sp_defaultloc dbname, defaultloc, defaulttype
```

**sp\_deletesmobj** IBM Tivoli Storage Manager (TSM) から指定されたバックアップ・オブジェクトを削除します。

```
sp_deletesmob "syb_tsm", "server_name" { "database_name", "object_type",
 "dump_type", "until_time", "bs_name" }
```

**sp\_depends** データベース・オブジェクトの依存性の情報を表示します。これは、指定したテーブルまたはビューに依存するデータベース内のビュー、トリガ、ユーザ定義関数、プロシージャを表示したり、指定したビュー、トリガ、プロシージャが依存するデータベース内のテーブルとビューを表示します。

```
sp_depends objname [, column_name]
```



---

|                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sp_deviceattr          | <p>(UNIX プラットフォームのみ) 既存のデータベース・デバイス・ファイルのデバイス・パラメータ設定を変更します。</p> <p style="padding-left: 20px;">sp_deviceattr <i>logicalname, optname, optvalue</i></p>                                                                                                                                                     |
| sp_diskdefault         | <p>データベース・デバイスを指定しない場合や、<b>create database</b> または <b>alter database</b> コマンドで <b>default</b> を指定する場合に、データベースの記憶領域用にデータベース・デバイスが使用できるかどうかを指定します。</p> <p style="padding-left: 20px;">sp_diskdefault <i>logicalname, {defaulton   defaultoff}</i></p>                                                         |
| sp_displayaudit        | <p>監査オプションのステータスを表示します。</p> <p style="padding-left: 20px;">sp_displayaudit ["procedure"   "object"   "login"   "database"   "global"   "default_object"   "default_procedure" [, "name"]]</p>                                                                                                               |
| sp_displaylevel        | <p>sp_configure の出力に、Adaptive Server のどの設定パラメータを表示するか設定します。</p> <p style="padding-left: 20px;">sp_displaylevel [<i>loginame</i> [, <i>leve</i>]]</p>                                                                                                                                                        |
| sp_displaylogin        | <p>ログイン・アカウント情報を表示します。ワイルドカード (%) を使用することで、一致するログイン情報を取得することもできます。また、ディスクに格納されているログイン・パスワードの暗号化のバージョンを表示します。</p> <p style="padding-left: 20px;">sp_displaylogin ["<i>user_id</i>"   ["<i>loginame</i>   <i>wildcard</i>"]]</p>                                                                              |
| sp_displayroles        | <p>他の役割に付与されたすべての役割、ログインまたはログイン・プロファイル、役割の階層ツリー全体 (表形式)、指定された役割に対して設定されている他のログイン・セキュリティ関連のパラメータ (役割がロックされた日付、ロックの理由、および役割をロックしたログイン・サーバ・ユーザ ID (suid) を含む) を表示します。パスワードで保護されている役割の場合、役割のパスワードの暗号化バージョンも表示されます。</p> <p style="padding-left: 20px;">sp_displayroles [<i>grantee_name</i> [, <i>mode</i>]]</p> |
| sp_downgrade           | <p>(master データベースのみ) 以前の 15.0.x リリースへのダウングレードの準備ができていかどうかを検証します。Adaptive Server 15.0.2 によって変更されたシステム・カタログの変更もダウングレードされます。</p> <p style="padding-left: 20px;">sp_downgrade @cmd = {'prepare'   'downgrade'   'help'},<br/>@toversion = 'n'[, @verbose = 0   1][, @override = 0   1]</p>                      |
| sp_dropalias           | <p>sp_addalias によって設定されたエイリアス・ユーザ名 ID を削除します。</p> <p style="padding-left: 20px;">sp_dropalias <i>loginame</i> [, <i>force</i>]</p>                                                                                                                                                                          |
| sp_drop_all_qplans     | <p>抽象プラン・グループ内のすべての抽象プランを削除します。</p> <p style="padding-left: 20px;">sp_drop_all_qplans <i>name</i></p>                                                                                                                                                                                                       |
| sp_drop_qpgroup        | <p>抽象プラン・グループを削除します。</p> <p style="padding-left: 20px;">sp_drop_qpgroup <i>group</i></p>                                                                                                                                                                                                                    |
| sp_drop_qplan          | <p>抽象プランを削除します。</p> <p style="padding-left: 20px;">sp_drop_qplan <i>id</i></p>                                                                                                                                                                                                                              |
| sp_drop_resource_limit | <p>Adaptive Server から 1 つ以上のリソースの制限を削除します。</p> <p style="padding-left: 20px;">sp_drop_resource_limit { <i>name, appname</i> }<br/>[, <i>rangenname, limittype, enforced, action, scope</i>]</p>                                                                                                             |

|                       |                                                                                                                                                          |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sp_drop_time_range    | Adaptive Server からユーザ定義の時間範囲を削除します。<br>sp_drop_time_range <i>name</i>                                                                                    |
| sp_dropdevice         | Adaptive Server のデータベース・デバイスまたはダンプ・デバイスを削除します。<br>sp_dropdevice <i>logicalname</i>                                                                       |
| sp_dropengine         | sp_dropengine は、スレッド・モードでは動作しません。<br>sp_dropengine <i>engine_number</i> [ <i>engine_group</i> ] [ <i>instance_id</i> ]                                   |
| sp_dropexeclass       | ユーザ定義の実行クラスを削除します。<br>sp_dropexeclass <i>classname</i>                                                                                                   |
| sp_dropextendedproc   | ESP (拡張ストアド・プロシージャ) を削除します。<br>sp_dropextendedproc <i>esp_name</i>                                                                                       |
| sp_dropexternlogin    | (コンポーネント統合サービスのみ) sp_addexternlogin によってあらかじめ定義されているリモート・ログインの定義を削除します。<br>sp_dropexternlogin <i>server</i> [, <i>loginame</i> [, <i>rolename</i> ]]     |
| sp_dropglockpromote   | テーブルまたはデータベースからロック・プロモーション値 (ロックの拡大値) を削除します。<br>sp_dropglockpromote {"database"   "table"}, <i>objname</i>                                              |
| sp_dropgroup          | データベースからグループを削除します。<br>sp_dropgroup <i>grpname</i>                                                                                                       |
| sp_dropkey            | sp_primarykey、sp_foreignkey、または sp_commonkey を使用して定義されていたキーを syskeys テーブルから削除します。<br>sp_dropkey <i>keytype</i> , <i>tablename</i> [, <i>deptabname</i> ] |
| sp_droplanguage       | サーバから代替言語を削除し、代替言語のローを master.dbo.syslanguages から消去します。<br>sp_droplanguage <i>language</i> [, <i>dropmessages</i> ]                                      |
| sp_dropmessage        | ユーザ定義メッセージを sysusermessages から削除します。<br>sp_dropmessage <i>message_num</i> [, <i>language</i> ]                                                           |
| sp_dropobjectdef      | (コンポーネント統合サービスのみ) ローカル・オブジェクトに関する外部の記憶マッピングを削除します。<br>sp_dropobjectdef <i>tablename</i>                                                                  |
| sp_dropremotelogin    | リモート・ユーザ・ログインを削除します。<br>sp_dropremotelogin <i>remoteserver</i> [, <i>loginame</i> [, <i>remotename</i> ]]                                                |
| sp_droprowlockpromote | データベースまたはテーブルから、ロー・ロック・プロモーション・スレッシュホールド値を削除します。<br>sp_droprowlockpromote {"database"   "table"}, <i>objname</i>                                         |
| sp_dropsegment        | データベースからセグメントを削除するか、特定のデータベース・デバイスからセグメントのマップを解除します。<br>sp_dropsegment <i>segname</i> , <i>dbname</i> [, <i>device</i> ]                                 |

---

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sp_dropserver     | 登録されているサーバのリストからサーバを削除するか、リモート・ログインと外部ログインを同一の操作で削除します。<br><code>sp_dropserver server [, dropplogins]</code>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| sp_droptreshold   | セグメントから空き領域スレッシュホールドを削除します。<br><code>sp_droptreshold dbname, segname, free_space</code>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| sp_droptype       | ユーザ定義データ型を削除します。<br><code>sp_droptype typename</code>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| sp_dropuser       | 現在のデータベースからユーザを削除します。<br><code>sp_dropuser name_in_db</code>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| sp_dumpoptimize   | データベースのダンプ・オペレーション中に Backup Server によってダンプされるデータの量を指定します。<br><code>sp_dumpoptimize [ 'archive_space = {maximum   minimum   default } ]</code><br><code>sp_dumpoptimize [ 'reserved_threshold = {nnn   default } ]</code><br><code>sp_dumpoptimize [ 'allocation_threshold = {nnn   default } ]</code>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| sp_encryption     | 暗号化の情報をレポートします。<br><code>sp_encryption help   helpkey</code><br><code>sp_encryption help   helpkey [, key_name   wildcard]</code><br><code>[, all_dbs   key_copy   display_cols]</code><br><code>sp_encryption help   'helpkey',</code><br><code>{'master' 'dual master'} [, 'display_keys'   'all_dbs']</code><br><code>sp_encryption 'help'[, 'servicekeyname' [, 'display_objs']]</code><br><code>sp_encryption 'helpextpasswd'</code><br><code>sp_encryption helpcol [, table_name   column_name ]</code><br><code>sp_encryption helpuser [, user_name   wildcard ][, key_copy]</code><br><code>sp_encryption 'mkey_startup_file'[, {new_path'   'default_location'   'null'}</code><br><code>[, {sync_with_mem   sync_with_qrm}]]</code><br><code>sp_encryption 'downgrade_kek_size' [, 'true' 'false']</code><br><code>sp_encryption system_encr_passwd, 'newpasswd' [, 'oldpasswd']</code> |
| sp_engine         | エンジンをオンラインまたはオフラインにできるようにします。エンジンをオンラインにするには、スレッド・モードで <code>alter thread pool</code> を使用します。<br><code>sp_engine {"online"   [offline   can_offline]} [, engine_id]   ["shutdown", engine_id]</code>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| sp_estspace       | テーブルとそのインデックスに必要な領域と、インデックスの作成に必要な時間を見積もります。<br><code>sp_estspace table_name, no_of_rows, fill_factor,</code><br><code>cols_to_max, textbin_len, iosec, page_size</code>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| sp_export_qpgroup | 指定したユーザのすべてのプランと抽象プラン・グループをユーザ・テーブルにエクスポートします。<br><code>sp_export_qpgroup usr, group, tab</code>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| sp_extendsegment  | セグメントの範囲を別のデータベース・デバイスに拡張します。<br><code>sp_extendsegment segname, dbname, devname</code>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sp_extengine          | EJB サーバを起動したり停止したりします。また、EJB サーバのステータス情報も表示します。<br><code>sp_extengine 'ejb_server', '{ start   stop   status }'</code>                                                                                                                                                                                                                              |
| sp_extrapwdchecks     | パスワード複雑性チェックのユーザ定義ロジックを指定できるカスタム・ストア・プロシージャです。セキュリティのニーズに応じて、 <code>sp_extrapwdchecks</code> を設定できます。 <code>master</code> データベースに <code>sp_extrapwdchecks</code> をインストールします。<br><code>sp_extrapwdchecks caller_password, new_password, login_name</code>                                                                                            |
| sp_familylock         | 並列に文を実行するファミリー (コーディネーティング・プロセスとそのワーカー・プロセス) が保持しているすべてのロックについての情報をレポートします。<br><code>sp_familylock [fpid1 [, fpid2]]</code>                                                                                                                                                                                                                         |
| sp_find_qplan         | クエリ・テキストまたはプラン・テキストから指定されたパターンによって、抽象プランを検索します。<br><code>sp_find_qplan pattern [, group ]</code>                                                                                                                                                                                                                                                    |
| sp_fixindex           | <code>sp_fixindex</code> は、インデックスが破損している場合、1つのインデックスではなく、システム上のインデックスのセットを復元します。 <code>sp_fixindex</code> は、ターゲット・テーブルに配置インデックスまたはクラスタード・インデックスが含まれている場合、データ・レイヤを再構築します (システム・テーブルの配置インデックスまたはクラスタード・インデックスを処理している間、未使用領域を再利用します)。<br><code>sp_fixindex database_name, table_name [, index_id   null] [, index_name   null] [, force_option]</code> |
| sp_flushstats         | メモリ内記憶領域の統計を <code>systabstats</code> システム・テーブルと <code>sysstatistics</code> システム・テーブルにフラッシュします。<br><code>sp_flushstats [objname]</code>                                                                                                                                                                                                             |
| sp_forceonline_db     | 以前リカバリを実行したときに疑わしいページとして <code>suspect</code> マークが付けられた、データベース内に格納されているすべてのページにアクセスできるようにします。<br><code>sp_forceonline_db dbname, {"sa_on"   "sa_off"   "all_users"}</code>                                                                                                                                                                          |
| sp_forceonline_object | 以前リカバリを実行したときに疑わしいインデックスとして、 <code>suspect</code> マークが付けられたインデックスにアクセスできるようにします。<br><code>sp_forceonline_object dbname, objname, indid, {"sa_on"   "sa_off"   "all_users"} [, no_print]</code>                                                                                                                                                      |
| sp_forceonline_page   | リカバリによって、以前に疑わしいページとして <code>suspect</code> のマークが付けられたページにアクセスできるようにします。<br><code>sp_forceonline_page dbname, pgid, {"sa_on"   "sa_off"   "all_users"}</code>                                                                                                                                                                                       |
| sp_foreignkey         | 現在のデータベース内にあるテーブルまたはビューの外部キーを定義します。<br><code>sp_foreignkey tablename, pktabname, col1 [, col2] ... [, col8]</code>                                                                                                                                                                                                                                  |

---

|                        |                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sp_freelldll           | <p>ESP (拡張ストアド・プロシージャ) の実行をサポートするために XP Server メモリ内に事前にロードされている DLL (ダイナミック・リンク・ライブラリ) をアンロードします。</p> <p style="padding-left: 40px;">sp_freelldll <i>dll_name</i></p>                                                                                                  |
| sp_getmessage          | <p>print と raiserror 文で使用するために、sysmessages と sysusermessages から、格納されているメッセージ文字列を検索します。</p> <p style="padding-left: 40px;">sp_getmessage <i>message_num</i>, result output [, <i>language</i>]</p>                                                                      |
| sp_grantlogin          | <p>(Windows のみ) 統合セキュリティ・モードまたは混合モード (名前付きパイプ使用) がアクティブなとき、Windows のユーザとグループに、Adaptive Server の役割または default パーミッションを割り当てます。</p> <p style="padding-left: 40px;">sp_grantlogin {<i>login_name</i>   <i>group_name</i>}<br/>["<i>role_list</i>"   default]</p>           |
| sp_ha_admin            | <p>高可用性システムでの Sybase のフェールオーバー機能を使用して、Adaptive Server の管理作業を実行します。sp_ha_admin は、UNIX プラットフォームでは <i>installhavss</i> スクリプトによってインストールされます。Windows NT の場合は、<i>insthasv</i> スクリプトによってインストールされます。</p> <p style="padding-left: 40px;">sp_ha_admin [cleansessions   help]</p> |
| sp_help                | <p>データベース・オブジェクト (sysobjects にリストされている任意のオブジェクト) に関する情報、システム定義データ型またはユーザ定義データ型に関する情報、ユーザ定義関数、および計算カラムと関数ベースのインデックスについてレポートします。カラムに optimistic_index_lock が表示されます。</p> <p style="padding-left: 40px;">sp_help [<i>objname</i>]</p>                                      |
| sp_help_resource_limit | <p>リソース制限についてレポートします。</p> <p style="padding-left: 40px;">sp_help_resource_limit [<i>name</i> [, <i>appname</i> [, <i>limittime</i> [, <i>limitday</i> [, <i>scope</i> [, <i>action</i> [, <i>verbose</i>]]]]]]]</p>                                                    |
| sp_help_qpgroup        | <p>抽象プラン・グループの情報をレポートします。</p> <p style="padding-left: 40px;">sp_help_qpgroup [ <i>group</i> [, <i>mode</i> ]]</p>                                                                                                                                                      |
| sp_help_qplan          | <p>抽象プランについての情報をレポートします。</p> <p style="padding-left: 40px;">sp_help_qplan <i>id</i> [, <i>mode</i> ]</p>                                                                                                                                                               |
| sp_helpapptrace        | <p>Adaptive Server がトレースしているセッションを調べます。sp_helpapptrace は、Adaptive Server がトレースしているすべてのセッションのサーバ・プロセス ID (spid)、spid をトレースしているセッションの spid、およびトレース・ファイルの名前を返します。</p> <p style="padding-left: 40px;">sp_helpapptrace</p>                                                  |
| sp_helppartition       | <p>テーブルまたはインデックスのパーティション関連の情報をリストします。</p> <p style="padding-left: 40px;">sp_helppartition [ <i>tablename</i> [, { null   <i>indexname</i>   'all' } [, <i>partitionname</i> ]]</p>                                                                                     |
| sp_helpcache           | <p>データ・キャッシュにバインドされたオブジェクトについての情報、または指定されたキャッシュ・サイズに必要なオーバーヘッド量を表示します。</p> <p style="padding-left: 40px;">sp_helpcache {<i>cache_name</i>   "<i>cache_size</i>[P   K   M   G]" ,<br/>'instance <i>instance_name</i>'}</p>                                              |

|                       |                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sp_helpcomputedcolumn | 指定したテーブルの計算カラムに関する情報をレポートします。<br>sp_helpcomputedcolumn { <i>tablename</i> }                                                                                                                                           |
| sp_helpconfig         | 設定パラメータに関するヘルプ情報をレポートします。<br>sp_helpconfig " <i>configname</i> ", " <i>size</i> "                                                                                                                                     |
| sp_helpconstraint     | 指定したテーブルで使用される整合性制約に関する情報をレポートします。<br>sp_helpconstraint [ <i>objname</i> ], <i>detail</i>                                                                                                                             |
| sp_helpdb             | 特定のデータベースまたはすべてのデータベースについての情報をレポートします。<br>sp_helpdb [ <i>dbname</i> [, <i>order</i> ]]                                                                                                                                |
| sp_helpdevice         | 特定のデバイスまたはすべての Adaptive Server のデータベース・デバイスとダンプ・デバイスについての情報をレポートします。<br>sp_helpdevice [ <i>devname</i> ]                                                                                                              |
| sp_helpextendedproc   | 現在のデータベース内の ESP (拡張ストアド・プロシージャ) と、それに対応した DLL ファイルを表示します。<br>sp_helpextendedproc [ <i>esp_name</i> ]                                                                                                                  |
| sp_helpexternlogin    | (コンポーネント統合サービスのみ) 外部ログイン名についての情報をレポートします。<br>sp_helpexternlogin [ <i>server</i> ], [ <i>loginame</i> ], [ <i>rolename</i> ]]                                                                                          |
| sp_helpgroup          | 特定のグループまたは現在のデータベース内のすべてのグループに関する情報をレポートします。<br>sp_helpgroup [ <i>grpname</i> ]                                                                                                                                       |
| sp_helpindex          | テーブル上に作成されたインデックスについての情報をレポートします。計算カラム・インデックスと関数ベース・インデックスについての情報をレポートします。<br>sp_helpindex <i>objname</i>                                                                                                             |
| sp_helpjava           | データベースにインストールされている Java クラスと関連する JAR についての情報を表示します。<br>sp_helpjava [" <i>class</i> ", [ <i>java_class_name</i> ], " <i>detail</i> "   " <i>depends</i> "]   " <i>jar</i> ", [ <i>jar_name</i> ], " <i>depends</i> "]] |
| sp_helpjoins          | 2つのテーブルまたはビューから、互いをジョインする場合に効果的に使用できる可能性のあるカラムをリストします。<br>sp_helpjoins <i>lefttab</i> , <i>righttab</i>                                                                                                               |
| sp_helpkey            | 特定のテーブルまたはビューのプライマリ・キー、外部キー、共通キーに関する情報をレポートします。または現在のデータベース内にあるすべてのキーに関する情報をレポートします。<br>sp_helpkey [ <i>tablename</i> ]                                                                                               |
| sp_helplanguage       | 特定の代替言語またはすべての言語についての情報をレポートします。<br>sp_helplanguage [ <i>language</i> ]                                                                                                                                               |

---

|                    |                                                                                                                                                                 |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sp_helplog         | トランザクション・ログの最初のページが入っているデバイスの名前をレポートします。<br>sp_helplog                                                                                                          |
| sp_helpobjectdef   | (コンポーネント統合サービスのみ) リモート・オブジェクト定義の所有者、オブジェクト、タイプについての情報をレポートします。<br>sp_helpobjectdef [objname]                                                                    |
| sp_helpremotelogin | 特定のリモート・サーバのログイン、またはすべてのリモート・サーバのログインについての情報をレポートします。<br>sp_helpremotelogin [remoteserver [, remotename]]                                                       |
| sp_helpprotect     | データベース・オブジェクト、ユーザ、グループ、または役割のパーミッションについてレポートします。<br>sp_helpprotect [name], username[, "grant"   "none"   "granted"   "enabled"   role_name[, permission_name]]] |
| sp_helpsegment     | 特定のセグメントまたは現在のデータベース内のすべてのセグメントについての情報をレポートします。<br>sp_helpsegment [segname]                                                                                     |
| sp_helpserver      | 特定のリモート・サーバ、またはすべてのリモート・サーバについての情報をレポートします。<br>sp_helpserver [server]                                                                                           |
| sp_helpsort        | Adaptive Server のデフォルトのソート順と文字セットを表示します。<br>sp_helpsort                                                                                                         |
| sp_helptext        | コンパイル済みオブジェクトのソース・テキストと、ユーザ定義関数、計算カラム、関数ベース・インデックス定義などのテキストを表示します。<br>sp_helptext objname[, grouping_num][, numlines[, printopts]]                              |
| sp_helpthread      | 現在のスレッド・プール設定を表示します。<br>sp_helpthread [pool_name]                                                                                                               |
| sp_helpthreshold   | 現在のデータベース内のすべてのスレッシュールド、または特定のセグメントのすべてのスレッシュールドに対応するセグメント、空き領域値、ステータス、ストアド・プロシージャをレポートします。<br>sp_helpthreshold [segname]                                       |
| sp_helpuser        | 現在のデータベース内の特定のユーザ、グループ、エイリアスに関する情報や、すべてのユーザに関する情報をレポートします。ユーザにより所有されているオブジェクトとユーザ定義データ型も示しています。<br>sp_helpuser [name_in_db [, display_object]]                  |
| sp_hidetext        | 指定したコンパイル済みオブジェクトのソース・テキストと、計算カラムおよび関数ベース・インデックス・キーのテキストを隠します。また、sp_hidetext は、ユーザ定義関数のテキストを暗号化します。<br>sp_hidetext [objname[, tabname[, username]]]             |

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sp_import_qpgroup | 抽象プランをユーザ・テーブルから抽象プラン・グループにインポートします。<br><pre>sp_import_qpgroup <i>tab</i>, <i>usr</i>, <i>group</i></pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| sp_indsuspect     | ソート順変更後のリカバリ時に、suspect (疑わしい) としてマーク付けされたインデックスがないか、ユーザ・テーブルを検査します。<br><pre>sp_indsuspect [<i>tab_name</i>]</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| sp_jreconfig      | Java PCA/JVM を管理します。引数やディレクティブを有効または無効にしたり、設定値を変更したり、設定値をレポートしたりします。<br><pre>sp_jreconfig {   add <i>array_arg</i>, <i>new_string</i>     array_clear <i>array_arg</i>     array_enable <i>array_arg</i>     array_disable <i>array_arg</i>     delete <i>array_arg</i>, <i>string_value</i>     disable { <i>directive</i>   <i>argument</i>   <i>array_arg</i>, <i>string_value</i> }     enable { <i>directive</i>   <i>argument</i>   <i>array_arg</i>, <i>string_value</i> }     list { <i>list_type</i> [, formatted ]   units   units, <i>units_type</i> [, formatted ] }     reload_config     report { <i>directive</i> [, formatted ]   <i>directive</i>, args [, formatted ]            <i>argument</i> [, formatted ] }     update { <i>argument</i>, <i>old_value</i>, <i>new_value</i> } }</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| sp_ldapadmin      | LDAP URL 検索文字列の作成またはリスト、LDAP URL 検索文字列またはログインの確認、アクセス・アカウントとチューニング可能な LDAPUA 関連パラメータの指定を行います。<br><pre>sp_ldapadmin <i>command</i> [, <i>option1</i> [, <i>option2</i>]]</pre> <p>有効な <i>command</i> [, <i>option1</i> [, <i>option2</i>]] オプションは、次のとおりです。</p> <pre>'set_primary_url', 'url' 'set_secondary_url', 'url' 'set_dn_lookup_url', 'url' 'set_secondary_dn_lookup_url', 'url' 'set_access_acct', 'distinguished_name', 'password' 'set_secondary_access_acct', 'distinguished_name', 'password' 'set_failback_interval', time_in_minutes 'suspend', {'primary'   'secondary'} 'activate', {'primary'   'secondary'} 'list' 'list_urls' 'list_access_acct' 'check_url', 'url' 'reinit_descriptors' 'check_login', 'name' 'set_timeout', timeout_in_milli_seconds 'set_log_interval', log_interval_in_minutes 'set_num_retries', num_retries 'set_max_ldapua_native_threads', max_ldapua_native_threads 'set_max_ldapua_desc', max_ldapua_desc 'set_abandon_ldapua_when_full', {true false} 'starttls_on_primary', {true false} 'starttls_on_secondary', {true false} 'help'</pre> |



|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sp_listener           | <p>任意のポートでの Adaptive Server のリスナを、サーバ単位で動的に起動したり停止したりします。</p> <p>スレッド・モードでは、構文は次のとおりです。</p> <pre>sp_listener "command", "server_name   network", remaining</pre> <p>または</p> <pre>sp_listener "command", "[protocol:]machine:port:CN=common_name"</pre> <p>プロセス・モードでは、構文は次のとおりです。</p> <pre>sp_listener "command", "server_name   network", engine   remaining</pre> <p>または</p> <pre>sp_listener "command", "[protocol:]machine:port:CN=common_name", engine</pre> |
| sp_listsuspect_db     | <p>リカバリ時に検出された破壊が原因で現在オフラインになっているページがある、すべてのデータベースをリストします。</p> <pre>sp_listsuspect_db</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| sp_listsuspect_object | <p>リカバリ時に検出された破壊が原因で現在オフラインになっている (データベース内にある) すべてのインデックスをリストします。</p> <pre>sp_listsuspect_object [dbname]</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| sp_listsuspect_page   | <p>リカバリ時に検出された破壊が原因で現在オフラインになっている、データベース内のすべてのページをリストします。</p> <pre>sp_listsuspect_page [dbname]</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| sp_lmconfig           | <p>ライセンス管理関係情報を Adaptive Server に設定します。</p> <pre>sp_lmconfig {   ['edition' [, edition_type ]]   ['license type' [, license_type_name ]]   ['smtp host' [, smtp_host_name ]]   ['smtp port' [, smtp_port_number ]]   ['email sender' [, sender_email_address ]]   ['email recipients' [, email_recipients ]]   ['email severity' [, email_severity ]] }</pre>                                                                                                    |
| sp_lock               | <p>現在ロックを保持しているプロセスのオブジェクト名と ID をレポートします。</p> <pre>sp_lock [spid1[, spid2]]   [@verbose = int]</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| sp_locklogin          | <p>ユーザがログインできないように Adaptive Server アカウントをロックするか、またはロックされたすべてのアカウントのリストを表示します。</p> <pre>sp_locklogin login   NULL   wildcard_string , "lock"   "unlock", [except_login_name   except_role_name] [, number_of_inactive_days]</pre> <p>または</p> <pre>sp_locklogin</pre>                                                                                                                                                                                              |
| sp_logdevice          | <p>データと同じデバイス上にあるデータベースのトランザクション・ログを、別のデータベース・デバイスに移動させます。</p> <pre>sp_logdevice dbname, devname</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

|                             |                                                                                                                                                                                         |
|-----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sp_loginconfig              | (Windows NT のみ) 1 つまたはすべての統合セキュリティ・パラメータの値を表示します。<br>sp_loginconfig ["parameter_name"]                                                                                                  |
| sp_logininfo                | (Windows NT のみ) sp_grantlogin によって Windows NT のユーザとグループに付与されているすべての役割を表示します。<br>sp_logininfo ["login_name"   "group_name"]                                                              |
| sp_logiosize                | 現在のデータベースのトランザクション・ログに対して I/O を行っているときに、Adaptive Server が使用するログ I/O サイズを、異なるメモリ・プールに変更します。<br>sp_logiosize ["default"   "size"   "all"]                                                 |
| sp_logintrigger             | グローバル・ログイン・トリガを設定または表示します。このグローバル・ログイン・トリガの特性は、個人のログイン・スクリプトと同じです。これは、システム管理者やセキュリティ担当者を含め、ログインしようとしているすべてのユーザの個人のログイン・スクリプトよりも前に実行されます。<br>sp_logintrigger 'global login trigger name' |
| sp_maplogin                 | 外部ユーザを Adaptive Server のログインにマップします。<br>sp_maplogin (authentication_mech   null), (client_username   null), (action   login_name   null)                                                |
| sp_merge_dup_inline_default | 既存の重複インライン・デフォルト・オブジェクトを削除し、ユニークなインライン・デフォルトを共有可能なインライン・デフォルト・オブジェクトに変換します。<br>sp_merge_dup_inline_default [report_only = {yes   no} [, show_progress = {yes   no}]]                    |
| sp_metrics                  | QP 測定基準 (デフォルトの実行グループである、各データベースのグループ 1 で常に取得) と、クエリについての統計を、バックアップ、削除、フラッシュします。<br>sp_metrics ['backup' backup_group_ID   'drop', 'gid' [, 'id']   'flush'   'help', 'command']        |
| sp_modify_resource_limit    | リソース制限を変更します。この変更は、新しい制限値を指定するか、または制限値を超えた場合の動作を指定する (またはその両方を指定する) ことによつて行われます。<br>sp_modify_resource_limit {name, appname} rangename, limittype, limitvalue, enforced, action, scope  |
| sp_modify_time_range        | 名前付き時間範囲に対応する開始日、開始時刻、終了日、または終了時刻を変更します。<br>sp_modify_time_range name, startday, endday, starttime, endtime                                                                             |

---

|                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sp_modifystats     | <p>システム管理者や、このプロシージャを実行してターゲット・テーブルの統計を更新するパーミッションを付与されたすべてのユーザは、sysstatistics のカラムの密度値を変更できます。</p> <pre> sp_modifystats [database].[owner].table_name,     {"column_group"   "all"},     MODIFY_DENSITY,     {range   total},     {absolute   factor},     "value" </pre> <p>または</p> <pre> sp_modifystats [database].[owner].table_name, column_name,     REMOVE_SKEW_FROM_DENSITY </pre> |
| sp_modifythreshold | <p>別のスレッシュホールド・プロシージャ、空き領域レベル、またはセグメント名と対応させることによって、スレッシュホールドを変更します。</p> <pre> sp_modifythreshold dbname, segname, free_space     [, new_proc_name][, new_free_space][, new_segname] </pre>                                                                                                                                                                                                |
| sp_monitor         | <p>Adaptive Server についての統計情報を表示します。</p> <pre> sp_monitor [[connection   statement], [cpu   diskio   elapsed time]]     [event, [spid ]]     [procedure, [dbname, [procname][, summary   detail]]]     [enable] [disable]     [help],     [deadlock][procstack] </pre>                                                                                                                      |
| sp_monitorconfig   | <p>インデックス、オブジェクト、データベース、およびカーネル・リソース・メモリ・プール用のメタデータ記述子に関するキャッシュ使用率の統計を表示します。また、sp_monitorconfig は参照整合性クエリに使用される補助スキャン記述子の統計とトランザクション記述子および DTX パティシバント用の使用統計をレポートします。</p> <pre> sp_monitorconfig "configname"[, "result_tbl_name"][, "full"] </pre>                                                                                                                                        |
| sp_monitor_server  | <p>サーバ全体のモニタリング情報が保持されます。</p> <pre> sp_monitor_server [server_name] </pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| sp_object_stats    | <p>ロック競合、ロック待機時間、およびテーブルとインデックスのデッドロック統計を表示します。</p> <pre> sp_object_stats interval[, top_n[, dbname, objname[, rpt_option]]] </pre>                                                                                                                                                                                                                                                        |
| sp_opt_querystats  | <p>選択したクエリのパフォーマンス分析をリターンします。</p> <pre> sp_opt_querystats "query_text"   help [, "diagnostic_options"   null     [, database_name][, user_name]] </pre>                                                                                                                                                                                                                                    |
| sp_options         | <p>オプションの値を表示します。</p> <pre> sp_options [ [show   help     [, option_name   category_name   null     [, dflt   non_dflt   null [, spid] ]]] ] </pre>                                                                                                                                                                                                                                        |
| sp_passthru        | <p>コンポーネント統合サービスのみ - ユーザがリモート・サーバに SQL コマンド・バッファを渡せるようにします。</p> <pre> sp_passthru server, command, errcode, errmsg, rowcount     [, arg1, arg2, ... argn] </pre>                                                                                                                                                                                                                           |

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sp_passwordpolicy | <p>sso_role を持つユーザがログインとパスワード・ポリシーのオプションを設定するときには使用できるインタフェース。</p> <p>新しいパスワードの複雑性オプションを指定、削除、リスト表示する場合：</p> <pre>sp_passwordpolicy {"set"   "clear"   "list"}, policy_option, option_value</pre> <p>パスワード複雑性オプションを確認するには、次の構文を使用します。</p> <pre>sp_passwordpolicy 'validate password options'</pre> <p>ネットワーク・ログイン・パスワードを暗号化するための非対称キー・ペアを生成するには、次の構文を使用します。</p> <pre>sp_passwordpolicy "regenerate keypair"</pre> <p>パスワードを期限切れにするには、次の構文を使用します。</p> <pre>sp_passwordpolicy "expire role passwords", "[rolename   wildcard]" sp_passwordpolicy "expire login passwords", "[login_name   wildcard]" sp_passwordpolicy "expire stale login passwords", "datetime" sp_passwordpolicy "expire stale login passwords", "datetime"</pre> <p>すべてのコマンド、オプション、および値の簡単な説明を表示する場合：</p> <pre>sp_passwordpolicy "help"</pre> |
| sp_pciconfig      | <p>Java PCI Bridge を管理します。引数やディレクティブを有効または無効にしたり、設定値を変更したり、設定値をレポートしたりします。Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタの指示がないかぎり、sp_pciconfig を使用してその他の引数またはディレクティブを変更しないでください。</p> <pre>sp_pciconfig {     disable { directive   argument }       enable { directive   argument }       list { list_type [, formatted ]   units   units, units_type[, formatted ] }       report { directive[, formatted ]           directive, args[, formatted ]           argument[, formatted ] }       update { number_arg, old_value new_value }</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| sp_placeobject    | <p>テーブルまたはインデックスに対する今後の領域の割り当てを、特定のセグメントで行います。</p> <pre>sp_placeobject segname, objname</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| sp_plan_dbccdb    | <p>新しく作成する dbccdb と dbccalt データベースのサイズの推奨値、dbccdb と dbccalt の適切なデバイスのリスト、ターゲット・データベースのキャッシュ・サイズと適切なワーカー・プロセス数を提示します。</p> <pre>sp_plan_dbccdb [dbname]</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| sp_poolconfig     | <p>データ・キャッシュ内のメモリ・プールを作成、削除、サイズ変更し、情報を表示します。</p> <p>既存のキャッシュ内にメモリ・プールを作成したり、プール・サイズを変更する場合：</p> <pre>sp_poolconfig cache_name[, "mem_size [P   K   M   G]", "config_poolK" [, "affected_pool K"], instance_instance_name]</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

---

|                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                | <p>プールのウォッシュ・サイズを変更する場合：</p> <pre>sp_poolconfig cache_name, "affected_poolK", "wash=size[P K M G]"</pre> <p>プールの非同期プリフェッチ率を変更する場合：</p> <pre>sp_poolconfig cache_name, "affected_poolK", "local async prefetch limit=percent "</pre>                                                                           |
| sp_post_xpload | <p>エンディアン・タイプの異なるプラットフォーム間で load database を行ったときに使用され、インデックスをチェックして再構築します。</p> <pre>sp_post_xpload</pre>                                                                                                                                                                                                      |
| sp_primarykey  | <p>テーブルまたはビューのプライマリ・キーを定義します。</p> <pre>sp_primarykey tablename, col1 [ , col2, col3, ..., col8]</pre>                                                                                                                                                                                                         |
| sp_processmail | <p>(Windows NT のみ) xp_findnextmsg、xp_readmail、xp_sendmail、xp_deletemail の各システム ESP を使用して、Adaptive Server のメッセージ・インボックス内にあるメッセージの読み込み、処理、送信、削除を行います。</p> <pre>sp_processmail [subject] [ , originator [ , dbuser [ , dbname [ , filetype [ , separator]]]]</pre>                                               |
| sp_procxmode   | <p>ストアド・プロシージャと対応する実行モードを表示または変更します。</p> <pre>sp_procxmode [procname [ , tranmode]]</pre>                                                                                                                                                                                                                     |
| sp_querysmobj  | <p>(Tivoli Storage Manager のみ) Adaptive Server バックアップ・オブジェクトのリストについて Tivoli Storage Manager (TSM) に問い合わせます。sp_querysmobj は、サイトで TSM がライセンスされている場合にのみサポートされます。</p> <pre>sp_querysmobj "syb_tsm", "output_file", "server_name" { , "database_name", "object_name", "dump_type", "until_time", "bs_name" }</pre> |
| sp_recompile   | <p>指定したテーブルを使用するすべてのストアド・プロシージャとトリガが、次の実行時に再コンパイルされるように設定します。</p> <pre>sp_recompile objname</pre>                                                                                                                                                                                                             |
| sp_refit_admin | <p>(クラスタ環境の場合) disk refit プロセスの現在のステータスの表示、disk refit プロセスのステータスの再設定、インスタンスの disk refit プロセスのスキップなど、さまざまな disk refit 関連アクションを実行するインタフェースを提供します。</p> <pre>sp_refit_admin ['help']   'status'   ['reset'   'skiperfit' [ , instance_name]] [  'removedevice', device_name]</pre>                                |
| sp_remap       | <p>4.8 以降 10.0 の前までのリリースのストアド・プロシージャ、トリガ、ルール、デフォルト、ビューを再マップし、10.0 以降のリリースとの互換性を持たせません。アップグレード処理が再マップできなかった以前の既存オブジェクトについては、sp_remap を使用してください。</p> <pre>sp_remap objname</pre>                                                                                                                                |
| sp_remotoption | <p>リモート・ログイン・オプションを表示または変更します。</p> <pre>sp_remotoption [remoteserver[, loginame [ , remotename[, optname[, optvalue]]]]]</pre>                                                                                                                                                                                |

|                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sp_remotesql       | (コンポーネント統合サービスのみ) リモート・サーバへの接続を確立し、クライアントからのクエリ・バッファをリモート・サーバに渡し、結果をクライアントに伝えます。<br><code>sp_remotesql server, query [, query2, ..., query254]</code>                                                                                                                                                                                |
| sp_rename          | 現在のデータベース内のユーザ作成オブジェクトまたはユーザ定義データ型の名前を変更します。<br><code>sp_rename objname, newname [, "index"   "column"]</code>                                                                                                                                                                                                                       |
| sp_rename_qpgroup  | 抽象プラン・グループの名前を変更します。<br><code>sp_rename_qpgroup old_name, new_name</code>                                                                                                                                                                                                                                                            |
| sp_renamedb        | ユーザ・データベースの名前を変更します。<br><code>sp_renamedb dbname, newname</code>                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| sp_reportstats     | システム使用状況についての統計をレポートします。<br><code>sp_reportstats [loginame]</code>                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| sp_revokelogin     | (Windows NT のみ) 統合セキュリティ・モードまたは混合モード (名前付きパイプ使用) がアクティブなとき、Windows NT のユーザとグループから Adaptive Server の役割とデフォルトのパーミッションを取り消します。<br><code>sp_revokelogin {login_name   group_name}</code>                                                                                                                                                 |
| sp_role            | Adaptive Server ログイン・アカウントに対するシステム役割を付与または取り消します。<br><code>sp_role {"grant"   "revoke"}, rolename, loginame</code>                                                                                                                                                                                                                   |
| sp_securityprofile | ログイン・プロファイルに関連付けられた属性またはバインドをリストします。<br><code>sp_securityprofile 'attributes', 'login profile',<br/>{wildcard   login_profile_name   'default'}<br/>sp_securityprofile 'bindings', 'login profile'<br/>[, {wildcard   login_profile_name   'default'}<br/>[, 'login', {wildcard   login_name}]]<br/>sp_securityprofile 'help'</code> |
| sp_sendmsg         | UDP (User Datagram Protocol) ポートへメッセージを送信します。<br><code>sp_sendmsg ip_address, port_number, message</code>                                                                                                                                                                                                                            |
| sp_serveroption    | リモート・サーバ・オプションを表示または変更します。<br><code>sp_serveroption [server, optname, optvalue]</code>                                                                                                                                                                                                                                               |
| sp_set_qplan       | 対応するクエリを変更しないで、既存プランの抽象プランのテキストを変更します。<br><code>sp_set_qplan id, plan</code>                                                                                                                                                                                                                                                         |
| sp_setlangalias    | 代替言語のエイリアスの割り当てまたは変更を行います。<br><code>sp_setlangalias language, alias</code>                                                                                                                                                                                                                                                           |

---

|                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sp_setpglockpromote       | <p>データベース、テーブル、または Adaptive Server に対するロック・プロモーション・スレッシュホールドを設定または変更します。</p> <pre>sp_setpglockpromote {"database"   "table"}, objname, new_lwm,                     new_hwm, new_pct sp_setpglockpromote server, NULL, new_lwm, new_hwm, new_pct</pre>                                                    |
| sp_setpsexex              | <p>セッションがアクティブなときに、セッションのカスタム実行属性を設定します。</p> <pre>sp_setpsexex spid, exeattr, value</pre>                                                                                                                                                                                                                 |
| sp_setrowlockpromote      | <p>データロー・ロックされたテーブル、データベース内のすべてのデータロー・ロックされたテーブル、またはサーバ上のすべてのデータロー・ロックされたテーブルに使用される、ローロック・プロモーション・スレッシュホールドを設定または変更します。</p> <pre>sp_setrowlockpromote "server", NULL, new_lwm, new_hwm, new_pct sp_setrowlockpromote {"database"   "table"}, objname, new_lwm,                     new_hwm, new_pct</pre> |
| sp_setsuspect_granularity | <p>ユーザ・データベースのリカバリ・フォールト・アイソレーション・モードを表示または設定します。このモードは、リカバリによってデータの破損が検出された場合に、どう処置するかを決定します。</p> <pre>sp_setsuspect_granularity [dbname                         [, "database"   "page" [, "read_only"]]]</pre>                                                                                          |
| sp_setsuspect_threshold   | <p>データベース全体に疑わしいことを示す suspect マークを付ける前に、データベース内で Adaptive Server が許容できる疑わしいページの最大値を表示または設定します。</p> <pre>sp_setsuspect_threshold [dbname [, threshold]]</pre>                                                                                                                                              |
| sp_setup_table_transfer   | <p>このデータベース内に spt_TableTransfer テーブルを作成するために、増分転送のマークが付いたテーブルを含んでいる各データベースで1回ずつ実行します。</p> <pre>sp_setup_table_transfer</pre>                                                                                                                                                                              |
| sp_show_options           | <p>現在のセッションで設定されたすべてのサーバ・オプションを出力します。</p> <pre>sp_show_options</pre>                                                                                                                                                                                                                                      |
| sp_showcontrolinfo        | <p>スレッド・プールの割り当て、バインドされているクライアント・アプリケーション、ログイン、ストアド・プロシージャについての情報を表示します。</p> <pre>sp_showcontrolinfo [object_type, object_name, spid ]</pre>                                                                                                                                                              |
| sp_showexeclass           | <p>特定の実行クラスに対応する実行クラス属性とスレッド・プール名を表示します。</p> <pre>sp_showexeclass [execclassname]</pre>                                                                                                                                                                                                                   |
| sp_showoptstats           | <p>XML ドキュメント (ただし、システム・プロシージャ形式) の optdiag スタンドアロン・ユーティリティの機能と同様に、sp_showoptstats は、systabstats、sysstatistics などのシステム・テーブルからさまざまなデータ・オブジェクトの統計とヒストグラムを抽出して表示します。</p> <pre>sp_showoptstats [[database_name].[owner].]table_name], [column_name], [h]</pre>                                                |

`sp_showplan` 現在の SQL 文または同じバッチの前の文について、すべてのユーザ接続の `showplan` 出力を表示します。

```
sp_showplan spid, batch_id output,
 context_id output,
 stmt_num output
```

`batch_id`、`context_id`、`stmt_num` を指定しないで現在の SQL 文の `showplan` 出力を表示するには、次のように指定します。

```
sp_showplan spid, null, null, null
```

`sp_showpsexex` Adaptive Server で実行されているすべてのクライアント・セッションの実行クラス、現在の優先度、スレッド・プールの結び付きを表示します。

```
sp_showpsexex [spid]
```

`sp_spaceusage` テーブル、インデックス、トランザクション・ログの領域使用率に関するレポートを作成したり、データベースのテーブルおよびインデックスの断片化量の推定値を計算したりします。推定値は、データ・ローとインデックス・ローの平均の長さとしてテーブル内のローの数を使用して計算されます。領域使用率および断片化データをアーカイブしておき、将来、レポートや傾向分析に使用できます。`sp_spaceusage` プロシージャでは、`help`、`display`、`archive`、`report` など、Adaptive Server の現在の領域の使用率のレポートを作成するための多数のアクションがサポートされています。

“`help`” アクションの構文は次のとおりです。

```
sp_spaceusage 'help' [, 'all']
sp_spaceusage 'help' [, {'display' | 'display summary'
 | 'report' | 'report summary' | 'archive'}
 [, {'table' | 'index' | 'tranlog'}]]
```

“`display`” アクションの構文は次のとおりです。

```
sp_spaceusage 'display summary [using unit={KB | MB | GB | PAGES}]',
 {'table' | 'index'}, name
 [, where_clause [, order_by [, command]]]
sp_spaceusage 'display [using unit={KB | MB | GB | PAGES}]',
 {'table' | 'index'}, name
 [, select_list
 [, where_clause [, order_by [, command]]]]
sp_spaceusage 'display [using unit={KB | MB | GB | PAGES}]',
 'tranlog' [, name [, select_list [, where_clause [, order_by]]]]]
```

“`archive`” アクションの構文は次のとおりです。

```
sp_spaceusage 'archive [using_clause]',
 {'table' | 'index'}, name [, where_clause [, command]]
sp_spaceusage 'archive [using_clause]',
 'tranlog' [, name [, where_clause]]
```

“`report`” アクションの構文は次のとおりです。

```
sp_spaceusage 'report summary [using_clause]',
 {'table' | 'index'}, name
 [, where_clause [, order_by [, from_date [, to_date]]]]]
sp_spaceusage 'report [using_clause]',
 {'table' | 'index'}, name
 [, select_list [, where_clause [, order_by [, from_date [, to_date]]]]]]]
```



|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                   | <pre> sp_spaceusage 'report [ using_clause ]',     'tranlog' [, name     [,select_list[,where_clause [,order_by     [,from_date [,to_date]]]]]] using_clause = USING using_item [, using_item ...] using_item = { unit={ KB   MB   GB   PAGES }       dbname=database_name   prefix=string } </pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| sp_spaceused      | <p>ロー数、データ・ページ数、インデックスのサイズ、指定のテーブルが使用する領域、現在のデータベースが使用する領域の概算を表示します。</p> <pre> sp_spaceused [objname [,1]] </pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| sp_ssladmin       | <p>Adaptive Server に対するサーバ認証のリストを追加、削除、表示します。</p> <pre> sp_ssladmin {[addcert, certificate_path [, password]   NULL]}     [dropcert, certificate_path]     [lscert]     [help]}     [sciphers]     [setciphers,     {"FIPS"   "Strong"   "Weak"   "All"   quoted_list_of_ciphersuites}] </pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| sp_syntax         | <p>使用しているサーバ上の製品とそれに対応する <b>sp_syntax</b> スクリプトに応じて、Transact-SQL 文、システム・プロシージャ、ユーティリティ、Adaptive Server のその他のルーチンの構文を表示します。</p> <pre> sp_syntax word [, mod][, language] </pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| sp_sysmon         | <p>パフォーマンス情報を表示します。</p> <pre> sp_sysmon begin_sample sp_sysmon { end_sample   interval }[, section[, applmon] ]     [, 'cache wizard' [, top_N[, filter] ] ] </pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| sp_tab_suspectptn | <p>suspect ( 疑わしい ) パーティションを含んでいるテーブルをリストします。文字ベースのパーティション・キーを使用する範囲分割されたテーブルは、ソート順を変更すると suspect になる可能性があります、ハッシュ分割されたテーブルは、プラットフォーム間のダンプとロードを行うと suspect になる可能性があります。</p> <pre> sp_tab_suspectptn [table_name] </pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| sp_tempdb         | <p><b>sp_tempdb</b> を使用すると、次の処理が行えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• テンポラリ・データベース・グループを作成および管理する。</li> <li>• <b>default</b> または他のテンポラリ・データベース・グループ、あるいは特定のローカル・テンポラリ・データベースに、ユーザまたはアプリケーションをバインドする。</li> <li>• ローカル・テンポラリ・データベースおよびテンポラリ・データベース・グループへのバインドを管理する。</li> </ul> <pre> sp_tempdb [     [{ "create"   "drop" }, "groupname" ] ]     [{ "add"   "remove" }, "tempdbname", "groupname" ] ]     [{ "bind", "objtype", "objname", "bindtype", "bindobj"     [, "scope", "hardness" ] ] ]     [ "unbind", "objtype", "objname" [, "scope" ] "instance_name" ] ] ]     [ "unbindall db", "tempdbname" ] ]     [ show [, "all"   "gr"   "db"   "login"   "app" [, "name" ] ] ]     [ who, "dbname" ]     [ help ] ] </pre> |

|                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sp_tempdb_markdrop      | (クラスタ環境の場合) ローカル・システム・テンポラリ・データベースを削除ステータスにします。<br><br>sp_tempdb_markdrop <i>database_name</i> [, {'mark'   'unmark'}]                                                                                                                                                                                     |
| sp_thresholdaction      | ログ・セグメント上の空きページの数が増え、ラストチャンス・スレッシュホールドを下回る場合、このスレッシュホールドが別のプロシージャと対応していないかぎり、自動的に実行されます。Sybaseはこのプロシージャを提供していません。<br><br>スレッシュホールドを下回ると、Adaptive Server は次のパラメータをスレッシュホールド・プロシージャに渡します。<br><br>sp_thresholdaction @ <i>dbname</i> ,<br>@ <i>segment_name</i> ,<br>@ <i>space_left</i> ,<br>@ <i>status</i> |
| sp_tran_dumpable_status | データベースでトランザクションをダンプできない場合、<br>sp_tran_dumpable_status にダンプできない理由を表示します。<br><br>sp_tran_dumpable_status [ <i>database_name</i> ]                                                                                                                                                                            |
| sp_transactions         | アクティブなトランザクションについての情報をレポートします。<br><br>sp_transactions ["xid", <i>xid_value</i> ]  <br>["state", {'heuristic_commit'   'heuristic_abort'<br>  'prepared'   'indoubt'}] [, "xactname"]  <br>["gtrid", <i>gtrid_value</i> ]                                                                                   |
| sp_unbindcache          | データ・キャッシュから、データベース、テーブル、インデックス、text オブジェクト、または image オブジェクトのバインドを解除します。<br><br>sp_unbindcache <i>dbname</i> [, [ <i>owner</i> ]. <i>tablename</i><br>[, <i>indexname</i>   "text only"]]                                                                                                                   |
| sp_unbindcache_all      | キャッシュにバインドされているすべてのオブジェクトのバインドを解除します。<br><br>sp_unbindcache_all <i>cache_name</i>                                                                                                                                                                                                                          |
| sp_unbindefault         | 作成済みのデフォルト値を、カラムまたはユーザ定義データ型からバインド解除します。<br><br>sp_unbindefault <i>objname</i> [, futureonly]                                                                                                                                                                                                              |
| sp_unbindexclass        | 指定したスコープのクライアント・アプリケーション、ログイン、ストアド・プロシージャ、デフォルトの実行クラスにこれまで対応していた実行クラス属性を削除します。<br><br>sp_unbindexclass <i>object_name</i> , <i>object_type</i> , <i>scope</i>                                                                                                                                              |
| sp_unbindmsg            | 制約からユーザ定義メッセージのバインドを解除します。<br><br>sp_unbindmsg <i>constrname</i>                                                                                                                                                                                                                                           |
| sp_unbindrule           | カラムまたはユーザ定義データ型からルールオブジェクトのバインドを解除します。<br><br>sp_unbindrule <i>objname</i> [, futureonly [, "accessrule"   "all"]]                                                                                                                                                                                         |
| sp_version              | インストール・スクリプト ( <i>installmaster</i> , <i>installdbccdb</i> など) の最後の実行時のバージョン情報と、実行が正常に終了したかどうかを返します。<br><br>sp_version [ <i>script_file</i> , [all]]                                                                                                                                                       |

---

|                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sp_volchanged  | <p>ダンプまたはロード中に、要求されたボリューム処理をオペレータが実行したことを Backup Server に通知します。</p> <pre>sp_volchanged session_id, devname, action [, fname [, vname]]</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| sp_webservices | <p>Adaptive Server Web Services Engine で使用されるプロキシ・テーブルの作成と管理を行います。</p> <p>プロキシ・テーブルを作成する場合：</p> <pre>sp_webservices 'add', 'wsdl_uri' [, sds_name] [, 'method_name=proxy_table [,method_name=proxy_table ]* ' ]</pre> <p>sp_webservices の使用方法を表示する場合：</p> <pre>sp_webservices help [, 'option']</pre> <p>WSDL ファイルにマップされるプロキシ・テーブルをリストする場合：</p> <pre>sp_webservices 'list' [, 'wsdl_uri'] [, sds_name]</pre> <p>タイムアウト設定を変更する場合：</p> <pre>sp_webservices 'modify', 'wsdl_uri', 'timeout=time'</pre> <p>WSDL ファイルにマップされるプロキシ・テーブルを削除する場合：</p> <pre>sp_webservices 'remove', 'wsdl_uri' [, sds_name]</pre> <p><b>ユーザ定義 Web サービスのオプション</b></p> <p>ユーザ定義 Web サービスのデータベース・エイリアスを作成する場合：</p> <pre>sp_webservices 'addalias' alias_name , database_name</pre> <p>ユーザ定義 Web サービスを展開する場合：</p> <pre>sp_webservices 'deploy', ['all'   'service_name']</pre> <p>ユーザ定義 Web サービスのデータベース・エイリアスを削除する場合：</p> <pre>sp_webservices 'dropalias' alias_name</pre> <p>ユーザ定義 Web サービスの WSDL ファイルにマップされるプロキシ・テーブルをリストする場合：</p> <pre>sp_webservices 'listudws' [, 'service_name']</pre> <p>ユーザ定義 Web サービスのデータベース・エイリアスをリストする場合：</p> <pre>sp_webservices 'listalias'</pre> <p>ユーザ定義 Web サービスの展開を解除する場合：</p> <pre>sp_webservices 'undeploy', ['all'   'service_name']</pre> |
| sp_who         | <p>現在のすべての Adaptive Server ユーザとプロセス、または特定のユーザとプロセスの情報についてレポートします。Adaptive Server がタスクを実行するために使用するスレッド・プールを記述する thread_pool カラムを含みます。</p> <pre>sp_who [loginame   "spid"]</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

## カタログ・ストアド・プロシージャ

以下は、Adaptive Server のカタログ・ストアド・プロシージャの構文と概要です。詳細については、『リファレンス・マニュアル：プロシージャ』を参照してください。

|                      |                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sp_column_privileges | テーブルまたはビュー内の 1 つまたは複数のカラムのパーミッション情報を返します。<br><pre>sp_column_privileges table_name [, table_owner                              [, table_qualifier [, column_name]]]</pre>                                                       |
| sp_columns           | 1 つまたは複数のカラムに保管できるデータ型の情報を返します。<br><pre>sp_columns table_name [, table_owner ]            [, table_qualifier] [, column_name]</pre>                                                                                            |
| sp_databases         | Adaptive Server 内にあるデータベースのリストを返します。<br><pre>sp_databases</pre>                                                                                                                                                                |
| sp_datatype_info     | 特定の ODBC データ型またはすべての ODBC データ型の情報を返します。<br><pre>sp_datatype_info [data_type]</pre>                                                                                                                                             |
| sp_fkeys             | create table または alter table コマンドによって作成された、現在のデータベース内の外部キー制約の情報を返します。<br><pre>sp_fkeys pktable_name [, pktable_owner]           [, pktable_qualifier] [, fktable_name]           [, fktable_owner] [, fktable_qualifier]</pre> |
| sp_pkeys             | create table または alter table コマンドによって 1 つのテーブル用に作成された、プライマリ・キー制約の情報を返します。<br><pre>sp_pkeys table_name [, table_owner]           [, table_qualifier]</pre>                                                                      |
| sp_server_info       | Adaptive Server の属性名と現在の値のリストを返します。<br><pre>sp_server_info [attribute_id]</pre>                                                                                                                                                |
| sp_special_columns   | テーブルまたはビュー内のローをユニークに識別する最適カラム・セットを返します。また、トランザクションによってロー内の値が更新されると自動的に値が生成される timestamp カラムのリストを返します。<br><pre>sp_special_columns table_name [, table_owner]                   [, table_qualifier] [, col_type]</pre>           |
| sp_sproc_columns     | ストアド・プロシージャの入力パラメータとリターン・パラメータについての情報を返します。<br><pre>sp_sproc_columns procedure_name [, procedure_owner]                   [, procedure_qualifier] [, column_name]</pre>                                                        |
| sp_statistics        | 1 つのテーブルのインデックス・リストを返します。<br><pre>sp_statistics table_name [, table_owner]               [, table_qualifier] [, index_name] [, is_unique]</pre>                                                                                |
| sp_stored_procedures | 1 つまたは複数のストアド・プロシージャの情報を返します。<br><pre>sp_stored_procedures [sp_name [, sp_owner [, sp_qualifier]]]</pre>                                                                                                                       |

---

|                     |                                                                                                                                             |
|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sp_table_privileges | テーブルまたはビューのすべてのカラムの権限情報を返します。<br>sp_table_privileges <i>table_name</i> [, <i>table_owner</i> [, <i>table_qualifier</i> ]]                   |
| sp_tables           | from 句内に表示できるオブジェクトのリストを返します。<br>sp_tables [ <i>table_name</i> ] [, <i>table_owner</i> ] [, <i>table_qualifier</i> ] [, <i>table_type</i> ] |

## 拡張ストアド・プロシージャ

以下は、Adaptive Server の拡張ストアド・プロシージャの構文と概要です。詳細については、『リファレンス・マニュアル：プロシージャ』を参照してください。

|                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| xp_cmdshell    | Adaptive Server を実行するホスト・システム上で、ネイティブなオペレーティング・システムのコマンドを実行します。<br>xp_cmdshell <i>command</i> [, <i>no_output</i> ] [ <i>return_status</i>   <i>no_wait</i> ]                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| xp_deletemail  | (Windows NT のみ) Adaptive Server のメッセージ・インボックスからメッセージを削除します。<br>xp_deletemail [ <i>msg_id</i> ]                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| xp_enumgroups  | (Windows NT のみ) 指定の Windows NT ドメインのグループを表示します。<br>xp_enumgroups [ <i>domain_name</i> ]                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| xp_findnextmsg | (Windows NT のみ) Adaptive Server のメッセージ・インボックスから次のメッセージの識別子を取得します。<br>xp_findnextmsg @ <i>msg_id</i> = @ <i>msg_id</i> output [, <i>type</i> ]<br>[, unread_only = {true   false}]                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| xp_logevent    | (Windows NT のみ) Adaptive Server 内から Windows NT のイベント・ログにユーザ定義イベントをロギングします。<br>xp_logevent <i>error_number</i> , <i>message</i> [, <i>type</i> ]                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| xp_readmail    | (Windows NT のみ) Adaptive Server のメッセージ・インボックスからメッセージを読み込みます。<br>xp_readmail [ <i>msg_id</i> ]<br>[, <i>recipients</i> output]<br>[, <i>sender</i> output]<br>[, <i>date_received</i> output]<br>[, <i>subject</i> output]<br>[, <i>cc</i> output]<br>[, <i>message</i> output]<br>[, <i>attachments</i> output]<br>[, suppress_attach = {true   false}]<br>[, peek = {true   false}]<br>[, unread = {true   false}]<br>[, <i>msg_length</i> output]<br>[, <i>bytes_to_skip</i> [output]]<br>[, <i>type</i> [output]] |

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| xp_sendmail  | (Windows NT のみ) 指定した受信者にメッセージを送信します。メッセージはテキストまたは Transact-SQL クエリの結果のどちらかです。<br><pre> xp_sendmail recipient [, recipient] . . .     [, subject]     [, cc_recipient] . . .     [, bcc_recipient] . . .     [, {query   message}]     [, attachname]     [, attach_result = {true   false}]     [, echo_error = {true   false}]     [, include_file [, include_file] . . .]     [, no_column_header = {true   false}]     [, no_output = {true   false}]     [, width]     [, separator]     [, dbuser]     [, dbname]     [, type]     [, include_query = {true   false}] </pre> |
| xp_startmail | (Windows NT のみ) Adaptive Server のメール・セッションを開始します。<br><pre> xp_startmail [mail_user] [, mail_password] </pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| xp_stopmail  | (Windows NT のみ) Adaptive Server のメール・セッションを停止します。<br><pre> xp_stopmail </pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

## dbcc ストアド・プロシージャ

以下は、Adaptive Server の dbcc ストアド・プロシージャの構文と概要です。詳細については、『リファレンス・マニュアル:プロシージャ』を参照してください。

|                       |                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sp_dbcc_alterws       | 指定した作業領域のサイズを指定した値に変更して、作業領域を初期化します。<br><pre> sp_dbcc_alterws dbname, wsname, "wssize[K M]" </pre>                                                                                                                          |
| sp_dbcc_configreport  | 指定したデータベースについて、dbcc checkstorage オペレーションで使われる設定情報を提供するレポートを生成します。<br><pre> sp_dbcc_configreport [dbname] </pre>                                                                                                             |
| sp_dbcc_createws      | 指定したセグメントとデータベースについて、指定したタイプとサイズの作業領域を作成します。<br><pre> sp_dbcc_createws dbname, segname, [wsname], wstype, "wssize[K M]" </pre>                                                                                              |
| sp_dbcc_deletedb      | 指定したターゲット・データベースに関するすべての情報を dbccdb から削除します。<br><pre> sp_dbcc_deletedb [dbname   dbid] </pre>                                                                                                                                |
| sp_dbcc_deletehistory | 指定した日付と時刻より前にターゲット・データベースについて実行された dbcc checkstorage オペレーションの結果を削除します。作業領域は事前に割り当てられており、固定サイズであるため、sp_dbcc_deletehistory では、削除された履歴データに関連する領域は解放されません。<br><pre> sp_dbcc_deletehistory [cutoffdate [, dbname   dbid]] </pre> |

---

|                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <code>sp_dbcc_differentialreport</code> | <p>2 つの dbcc オペレーションの間で発生した I/O 統計とフォールトの変化を示すレポートを生成します。</p> <pre>sp_dbcc_differentialreport [dbname [, objectname]],     [db_op] [, "date1" [, "date2"]]</pre>                                                                                                                                                                                                                 |
| <code>sp_dbcc_evaluatedb</code>         | <p>ターゲット・データベースの設定情報を再計算して、現在の設定情報と比較します。</p> <pre>sp_dbcc_evaluatedb [dbname]</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <code>sp_dbcc_exclusions</code>         | <p><code>checkverify</code> と <code>sp_dbcc_faultreport</code> で使用される永続的な除外リストをユーザが作成、管理できるようにします。</p> <pre>sp_dbcc_exclusions dbname, op, type, exclusion_list</pre>                                                                                                                                                                                                            |
| <code>sp_dbcc_faultreport</code>        | <p>ターゲット・データベースの指定したオブジェクトについて、指定した日付に実行された <code>dbcc checkstorage</code> オペレーションのフォールト統計のレポートを生成し、テーブルおよびインデックスの順にリストします。</p> <pre>sp_dbcc_faultreport [report_type [, dbname [, objectname     [, date [, hard_only [, exclusion_model[, exclusion_faults     [, exclusion_tables [, exclusion_combo     [, display_recommendations [, opid [, fault_type_in]]]]]]]]]]]</pre> |
| <code>sp_dbcc_fullreport</code>         | <p>指定された <code>date</code> 日以前の <code>database..object_name</code> に対し、<code>sp_dbcc_summaryreport</code>、<code>sp_dbcc_configreport</code>、<code>sp_dbcc_statisticsreport</code>、<code>sp_dbcc_faultreport short</code> を実行します。</p> <pre>sp_dbcc_fullreport [dbname [, objectname [, date]]]</pre>                                                                              |
| <code>sp_dbcc_help_fault</code>         | <p>指定されたフォールト・タイプと推奨される修復方法の説明を表示します。</p> <pre>sp_dbcc_help_fault [fault_type]</pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <code>sp_dbcc_patch_finishtime</code>   | <p>アポートされた <code>checkverify</code> 操作と <code>checkstorage</code> 操作に関するレポートを生成します。</p> <pre>sp_dbcc_patch_finishtime dbname, opid [, optype [, seq [, finishtime]]]</pre>                                                                                                                                                                                                       |
| <code>sp_dbcc_recommendations</code>    | <p>指定されたオペレーション ID または日付に該当する <code>checkstorage</code> オペレーションによってレポートされたフォールトを分析し、ターゲット・データベース内の指定されたオブジェクトに関して推奨される対処法のリストを生成します。</p> <pre>sp_dbcc_recommendations dbname [, "date" [, opid [, "objectname"]]]</pre>                                                                                                                                                          |
| <code>sp_dbcc_runcheck</code>           | <p>指定したデータベースについて <code>dbcc checkstorage</code> を実行してから、<code>sp_dbcc_summaryreport</code> または指定するレポートを実行します。</p> <pre>sp_dbcc_runcheck dbname [, user_proc]</pre>                                                                                                                                                                                                              |
| <code>sp_dbcc_statisticsreport</code>   | <p>ターゲット・データベースにある指定したオブジェクトについて、アロケーション統計のレポートを生成します。</p> <pre>sp_dbcc_statisticsreport [dbname [, objectname [, date]]]</pre>                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <code>sp_dbcc_summaryreport</code>      | <p>指定したデータベースについてサマリ・レポートを生成します。</p> <pre>sp_dbcc_summaryreport [dbname [, date [, op_name [,     display_recommendations]]]]]</pre>                                                                                                                                                                                                                                             |
| <code>sp_dbcc_updateconfig</code>       | <p>ターゲット・データベースの設定情報を使用して、<code>dbccdb</code> にある <code>dbcc_config</code> テーブルを更新します。</p> <pre>sp_dbcc_updateconfig dbname, type, "str1" [, "str2"]</pre>                                                                                                                                                                                                                       |

## システム・テーブル

以下は、Adaptive Server のシステム・テーブルの概要です。詳細については、『リファレンス・マニュアル：テーブル』を参照してください。テーブル、カラム、テーブル間の関係を視覚的に確認するには、『システム・テーブル・ダイヤグラム』ポスターを参照してください。

|                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| syblicenseslog                 | (master データベースのみ) 24 時間間隔で Adaptive Server で使用されるライセンスの最大数の更新ごとに 1 つのローが含まれています。カラム：status、logtime、maxlicenses。                                                                                                                                                                                                                  |
| sysalternates                  | (すべてのデータベース) 現在使用しているデータベースのユーザにマップされた (またはエイリアスを割り当てた) Adaptive Server のユーザごとに 1 つのローが含まれています。カラム：suid、altsuid                                                                                                                                                                                                                  |
| sysaltusages                   | (スクラッチ・データベース) アーカイブ・データベースのページ番号を、データベース・ダンプとそのストライプ内、または変更済みページ・セクション内の実際のページにマップします。カラム：dbid、altsuid、lstart、start、size、vstart、vdevno、segmap                                                                                                                                                                                   |
| sysattributes                  | (すべてのデータベース) オブジェクトのプロパティを定義します。カラム：class、attribute、object_type、object_cinfo、object_cinfo2、object、object_info1、object_info2、object_info3、int_value、char_value、text_value、image_value、comments                                                                                                                                    |
| sysauditoptions                | (sybsecurity データベース) サーバワイドな監査オプションごとに 1 つのローを持ち、そのオプションの現在の設定を表します。カラム：num、val、minval、maxval、name、sval、comment                                                                                                                                                                                                                  |
| sysaudits_01 ~<br>sysaudits_08 | (sybsecurity データベース) 監査証跡が含まれています。カラム：event、eventmod、spid、eventtime、sequence、suid、dbid、objid、xactid、loginname、dbname、objname、objowner、extrainfo、nodeid、instanceid                                                                                                                                                                |
| syscacheinfo                   | (master データベース) データ・キャッシュおよびプールの設定に関する情報を提供します。カラム：cache_name、cache_status、cache_type、config_size、run_size、config_replacement、run_replacement、config_partitions、run_partitions、overhead、cacheid、instanceid、scope                                                                                                                 |
| syscachepoolinfo               | データ・キャッシュの設定情報を含む各データ・キャッシュ・プールのローを表示します。カラム：cache_name、cache_status、cache_type、cache_config_size、cache_run_size、cache_config_replacement、cache_run_replacement、cache_config_partitions、cache_run_partitions、cache_overhead、pool_io_size、pool_config_size、pool_run_size、pool_apf_percent、pool_wash_size、cacheid、instanceid、scope |
| syscharsets                    | (master データベースのみ) Adaptive Server が使用する文字セットとソート順ごとに 1 つのローが含まれています。カラム：type、id、csid、status、name、description、definition、sortfile                                                                                                                                                                                                 |



---

|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| syscolumns       | (すべてのデータベース) すべてのテーブルとビューのカラムごとに1つのロー、またはプロシージャのパラメータごとに1つのローが含まれています。カラム: id, number, colid, status, type, length, offset, usertype, cdefault, domain, name, printfmt, prec, scale, remote_type, remote_name, xstatus, xtype, xdbid, accessrule, status2, status3, computedcol, encrytype, lobcomp_lvl, enclen, encrykeyid, encrykeydb, encrdate, inrowlen                                                                           |
| syscomments      | (すべてのデータベース) 各ビュー、ルール、デフォルト、トリガ、テーブル制約、パーティション、プロシージャ、計算カラム、関数ベースのインデックス・キー、コンパイル済みオブジェクトのその他のフォームに対するエントリが含まれています。カラム: id, number, colid, texttype, language, text, colid2, status, partitionid                                                                                                                                                                                                                                      |
| sysconfigures    | (master データベースのみ) ユーザが設定できる設定パラメータごとに1つのローが含まれています。カラム: config, value, comment, status, name, parent, value2, value3, value4, instanceid                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| sysconstraints   | (すべてのデータベース) create table または alter table を使用して、新しい検査制約または参照制約を宣言すると、Adaptive Server によってローが sysconstraints テーブルに挿入されます。alter table を実行して制約を削除するまで、ローはそのまま残ります。カラム: colid, constrid, tableid, error, status, spare2                                                                                                                                                                                                                   |
| syscoordinations | (sysystemdb データベースのみ) 分散トランザクション(リモート・パーティシパント)に関与するリモート Adaptive Server とそれらのコーディネーション・ステータスについての情報が含まれています。カラム: participant, starttime, coordtype, owner, protocol, state, bootcount, dbid, logvers, spare, status, xactkey, gtrid, partdata, srvname, nodeid, instanceid                                                                                                                                                           |
| syscurconfigs    | (master データベースのみ) sysconfigures と同じように各設定パラメータのエントリが含まれていますが、その値はデフォルト値ではなく現在の値です。さらに、設定構造を説明する4つのエントリが含まれています。カラム: config, value, comment, status, value2, defvalue, minimum_value, maximum_value, memory_used, display_level, datatype, message_num, apf_percent, nodeid, instanceid, type                                                                                                                                          |
| sysdatabases     | (master データベースのみ) Adaptive Server のデータベースごとに1つのローが含まれています。Adaptive Server をインストールすると、sysdatabases には、master データベース、model データベース、sysystemprocs データベース、tempdb データベースのエントリが含まれます。監査をインストールした場合は、sybsecurity データベースのエントリも含まれます。カラム: name, dbid, suid, status, version, logptr, crdate, dumptrdate, status2, audflags, deftabaud, defvwaud, defpraud, def_remote_type, def_remote_loc, status3, status4, audflags2, instanceid, durability |
| sysdepends       | (すべてのデータベース) プロシージャ、ビュー、またはトリガによって参照されるプロシージャ、ビュー、またはテーブルごとに1つのローが含まれています。カラム: id, number, depid, depnumber, status, selall, resultobj, readobj, columns                                                                                                                                                                                                                                                                              |

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sysdevices   | (master データベースのみ) テープ・ダンプ・デバイス、ディスク・ダンプ・デバイス、データベース用ディスク、データベース用ディスク・パーティションごとに1つのローが含まれています。カラム: low, high, status, cntritype, name, phyname, mirrorname, vdevno, crdate, resizedate, status2, instanceid, uuid                                                                                                                                                                                                                                                 |
| syscryptkeys | デフォルト・キーなど、データベースで作成される各キーには、データベース固有のシステム・カタログ syscryptkeys にエントリがあります。カラム: id, ekalgorithm, type, status, eklen, value, uid, eksalt, ekpairid, pwdate, expdate, ekpwdwarn                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| sysengines   | (master データベースのみ) 現在オンラインになっている Adaptive Server エンジンごとに1つのローが含まれています。カラム: engine, osprocid, osprocname, status, affinityid, cur_kpid, last_kpid, idle_1, idle_2, idle_3, idle_4, starttime, nodeid, instanceid                                                                                                                                                                                                                                                   |
| sysgams      | (すべてのデータベース) データベースのグローバル・アロケーション・マップが格納されています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| sysindexes   | (すべてのデータベース) クラスタード・インデックスごとに1つのロー、ノンクラスタード・インデックスごとに1つのロー、クラスタード・インデックスのないテーブルごとに1つのロー、text カラムや image カラムのあるテーブルごとに1つのローが含まれています。カラム: name, id, indid, doampg, ioampg, oampgtrips, status3, status2, ipgtrips, first, root, distribution, usagecnt, segment, status, maxrowsperpage, minlen, maxlen, maxirow, keycnt, keys1, keys2, soid, csid, base_partition, fill_factor, res_page_gap, exp_rowsize, keys3, identitygap, crdate, partitiontype, conditionid |
| sysinstances | インスタンスの状態をレポートする偽のテーブルです。sysinstances は、クラスタ設定で定義されているインスタンスごとに1つのローを含んでいます。カラム: id, name, state, hostname, starttime, connections_active, engines_online                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| sysjars      | (すべてのデータベース) データベースに必要な各 Java アーカイブ・ファイルごとに1つのローが含まれています。カラム: jid, jstatus, jname, jbinary                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| syskeys      | (すべてのデータベース) プライマリ・キー、外部キー、または共通キーごとに1つのローが含まれています。カラム: id, type, depid, keycnt, size, key1 ~ key8, depkey1 ~ depkey8, spare1                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| syslanguages | (master データベースのみ) Adaptive Server の言語ごとに1つのローが含まれています。カラム: langid, dateformat, datefirst, upgrade, name, alias, months, shortmonths, days                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| syslisteners | (master データベースのみ) 現在の Adaptive Server と接続できるネットワーク・プロトコルごとに1つのローが含まれています。カラム: net_type, address_info, spare, nodeid, instanceid                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| syslocks     | (master データベースのみ) アクティブ・ロックに関する情報を格納し、ユーザがクエリを実行したときに動的に構築されます。カラム: id, dbid, page, type, spid, class, fid, context, row, loid, partitionid, nodeid, instanceid                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

---

|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sysloginroles    | (master データベースのみ) システム役割を持つサーバ・ログインのインスタンスごとに1つのローが含まれています。カラム: <code>suid</code> 、 <code>srid</code> 、 <code>status</code>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| syslogins        | (master データベースのみ) 有効な Adaptive Server ユーザ・アカウントごとに1つのローが含まれています。カラム: <code>suid</code> 、 <code>status</code> 、 <code>accddate</code> 、 <code>totcpu</code> 、 <code>totio</code> 、 <code>spacelimit</code> 、 <code>timelimit</code> 、 <code>resultlimit</code> 、 <code>dbname</code> 、 <code>name</code> 、 <code>password</code> 、 <code>language</code> 、 <code>pwdate</code> 、 <code>audflags</code> 、 <code>fullname</code> 、 <code>srvname</code> 、 <code>logincount</code> 、 <code>procid</code> 、 <code>lastlogindate</code> 、 <code>crdate</code> 、 <code>locksuid</code> 、 <code>lockreason</code> 、 <code>lockdate</code> 、 <code>crsuid</code> 、 <code>lpid</code>                                                                                                                                                                                                        |
| syslogs          | (すべてのデータベース) トランザクション・ログが含まれています。リカバリとロールフォワードを行うために Adaptive Server によって使用されます。ユーザが使用するためのテーブルではありません。カラム: <code>xactid</code> 、 <code>op</code>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| syslogshold      | (master データベースのみ) 各データベースの最も古いアクティブ・トランザクション (存在する場合) と、トランザクション・ログに対する Replication Server のトランケーション・ポイント (存在する場合) についての情報が含まれていますが、このテーブルは、通常のテーブルではありません。ユーザがクエリを実行するときに動的に構築されます。カラム: <code>dbid</code> 、 <code>reserved</code> 、 <code>spid</code> 、 <code>page</code> 、 <code>xactid</code> 、 <code>masterxactid</code> 、 <code>starttime</code> 、 <code>name</code> 、 <code>xloid</code>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| sysmessages      | (master データベースのみ) Adaptive Server が返すシステム・エラーまたは警告ごとに1つのローが含まれています。カラム: <code>error</code> 、 <code>severity</code> 、 <code>dlevel</code> 、 <code>description</code> 、 <code>langid</code> 、 <code>sqlstate</code>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| sysmonitors      | (master データベースのみ) モニタ・カウンタごとに1つのローが含まれています。カラム: <code>field_name</code> 、 <code>group_name</code> 、 <code>field_id</code> 、 <code>value</code> 、 <code>description</code> 、 <code>nodeid</code> 、 <code>instanceid</code>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| sysobjects       | (すべてのデータベース) テーブル、ビュー、ストアド・プロシージャ、拡張ストアド・プロシージャ、ログ、ルール、デフォルト、トリガ、検査制約、参照制約、計算カラム、関数ベースのインデックス・キー、テンポラリ・オブジェクト ( <code>tempdb</code> のみ)、コンパイル済みオブジェクトのその他のフォームごとに1つのローが含まれています。また、オブジェクトの <code>type</code> が N のときには、各パーティション条件 ID ごとに1つのローが含まれています。カラム: <code>name</code> 、 <code>id</code> 、 <code>uid</code> 、 <code>type</code> 、 <code>userstat</code> 、 <code>sysstat</code> 、 <code>indexdel</code> 、 <code>schemacnt</code> 、 <code>sysstat2</code> 、 <code>systat3</code> 、 <code>crdate</code> 、 <code>expdate</code> 、 <code>deltrig</code> 、 <code>instrig</code> 、 <code>updtrig</code> 、 <code>seltrig</code> 、 <code>ckfirst</code> 、 <code>cache</code> 、 <code>audflags</code> 、 <code>objspare</code> 、 <code>versionts</code> 、 <code>loginame</code> 、 <code>identburnmax</code> 、 <code>spacestate</code> 、 <code>erlchgts</code> 、 <code>lobcomp_lvl</code> |
| sysoptions       | (すべてのデータベース) <code>sp_options</code> が問い合わせる偽のテーブルです。カラム: <code>spid</code> 、 <code>name</code> 、 <code>category</code> 、 <code>currentsetting</code> 、 <code>defaultsetting</code> 、 <code>scope</code> 、 <code>number</code>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| syspartitionkeys | (すべてのデータベース) テーブルのハッシュ、範囲、リストによる分割のパーティション・キーごとに1つのローが含まれています。すべてのカラムが <code>null</code> ではありません。カラム: <code>indid</code> 、 <code>id</code> 、 <code>colid</code> 、 <code>position</code>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| syspartitions    | (すべてのデータベース) データ・パーティションごとに1つのロー、インデックス・パーティションごとに1つのローが含まれています。カラム: <code>name</code> 、 <code>indid</code> 、 <code>id</code> 、 <code>partitionid</code> 、 <code>segment</code> 、 <code>status</code> 、 <code>dataoampage</code> 、 <code>indoampage</code> 、 <code>firstpage</code> 、 <code>rootpage</code> 、 <code>data_partitionid</code> 、 <code>crdate</code> 、 <code>cdataptname</code> 、 <code>lobcomp_lvl</code> 、 <code>ptndcomper</code>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| syspoolinfo       | (master データベースのみ) データ・キャッシュおよびプールの設定に関する情報を提供します。カラム: cache_name、io_size、config_size、run_size、apf_percent、wash_size、cacheid、instanceid、scope                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| sysprocedures     | (すべてのデータベース) 各ビュー、デフォルト、ルール、トリガ、プロシージャ、宣言デフォルト、分割条件、検査制約、計算カラム、関数ベースのインデックス・キー、コンパイル済みオブジェクトのその他のフォームに対するエントリが含まれています。カラム: type、qp_setting、id、sequence、status、number、version                                                                                                                                                                                                                                                   |
| sysprocesses      | (master データベースのみ) Adaptive Server のプロセスについての情報が含まれていますが、このテーブルは、通常のテーブルではありません。カラム: spid、kpid、enginenum、status、suid、hostname、program_name、hostprocess、cmd、cpu、physical_io、memusage、blocked、dbid、uid、gid、tran_name、time_blocked、network_pktsz、fid、execclass、priority、affinity、id、stmtnum、linenum、origsuid、block_xloid、clientname、clienthostname、clientapplname、sys_id、ses_id、loggedindatetime、ipaddr、nodeid、instanceid、pad、lcid |
| sysprotects       | (すべてのデータベース) ユーザ、グループ、役割に付与または取り消されたパーミッションの情報が含まれています。カラム: id、uid、action、protecttype、columns、grantor、pred_id、protstatus                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| sysquerymetrics   | (すべてのデータベース) 永続的なデータからの個々のクエリに使用される集合履歴クエリ処理の測定基準を示します。カラム: uid、gid、hashkey、id、sequence、exec_min、exec_max、exec_avg、elap_min、elap_max、elap_avg、lio_min、lio_max、lio_avg、pio_min、pio_max、pio_avg、cnt、abort_cnt、qtext                                                                                                                                                                                                              |
| sysqueryplans     | (すべてのデータベース) 各概略クエリ・プランに対して複数のローが含まれています。データロー・ロックを使用します。カラム: uid、dbid、qpid、spid、hashkey2、key1、key2、key3、gid、hashkey、id、type、sequence、status、text                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| sysreferences     | (すべてのデータベース) テーブルまたはカラムに宣言された参照整合性制約ごとに 1 つのローが含まれています。カラム: indexid、constrid、tableid、reftabid、keycnt、status、frgnbdbid、pmrydbid、spare2、fokey1 ~ fokey16、refkey1 ~ refkey16、frgndbname、pmrydbname                                                                                                                                                                                                                                |
| sysremotelogins   | (master データベースのみ) Adaptive Server でリモート・プロシージャ・コールを実行できるリモート・ユーザごとに 1 つのローが含まれています。カラム: remoteserverid、remoteusername、suid、status                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| sysresourcelimits | (master データベースのみ) Adaptive Server で定義されるリソース制限ごとに 1 つのローが含まれています。カラム: name、appname、rangeid、limitid、enforced、action、limitvalue、scope、spare                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| sysroles          | (すべてのデータベース) サーバの役割 ID をローカルの役割 ID にマップします。カラム: id、lrid、type、status                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| syssecmechs       | (master データベースのみ) Adaptive Server で利用できる各セキュリティ・メカニズムでサポートされているセキュリティ・サービスに関する情報が含まれています。カラム: sec_mech_name、available_service                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

---

|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| syssegments      | (すべてのデータベース) セグメント (ディスクの一部分の集まり) ごとに1つのローが含まれています。カラム: segment, name, status                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| syssservers      | (master データベースのみ) この Adaptive Server がリモート・プロシージャ・コールを実行できるリモートの Adaptive Server, Backup Server, または Open Server ごとに1つのローが含まれています。カラム: srid, srvstatus, srvstatus2, srvstat2, srvname, srvnetname, srvclass, srvsecmech, srvcost, srvprincipal                                                                                                                                                                                                                                |
| sysssessions     | (master データベースのみ) フェールオーバ・プロパティを使用して Adaptive Server に接続するクライアントごとに1つのローが含まれています。カラム: sys_id, ses_id, state, spare, status, dbid, name, nodeid, instanceid, ses_data                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| syssslices       | (すべてのデータベース) スライスされたテーブルのスライス (ページ・チェーン) ごとに1つのローが含まれています。syslices は、Adaptive Server がプロセスをアップグレードする間だけ使用されます。カラム: state, id, partitionid, firstpage, controlpage, spare                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| sysssrroles      | (master データベースのみ) システム定義役割またはユーザ定義役割ごとに1つのローが含まれています。カラム: srid, name, password, pwdate, status, logincount, locksuid, lockreason, lockdate                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| sysstatistics    | (すべてのデータベース) ユーザ・テーブル上のインデックス・カラムとパーティションごとに1つ以上のローが含まれています。インデックスされていないカラムに対してローを含むこともあります。カラム: statid, id, sequence, moddate, formatid, usedcount, colidarray, c0 ~ c79, indid, ststatus, partitionid, spare2, spare3                                                                                                                                                                                                                                                       |
| systabstats      | (すべてのデータベース) クラスタード・インデックスごとに1つのロー、ノンクラスタード・インデックスごとに1つのロー、クラスタード・インデックスのないテーブルごとに1つのロー、パーティションごとに1つのローが含まれています。カラム: indid, id, activestatid, indexheight, leafcnt, pagecnt, rowcnt, forwrowcnt, delrowcnt, dpagecrnt, ipagecrnt, drowcrnt, oamapgcnt, extent0pgcnt, datarowsz, leafrowsz, status, plljoindegree, spare2, rslastoam, rslastpage, frlastoam, frlastpage, conopt_thld, plldegree, emptypgcnt, spare4, partitionid, spare5, statmoddate, unusedpgcnt, oampagecnt |
| systhresholds    | (すべてのデータベース) データベースに定義されたスレッシュホールドごとに1つのローが含まれています。カラム: segment, free_space, status, proc_name, suid, currauth                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| systemranges     | (master データベースのみ) リソース制限をアクティブにする期間を制御するために Adaptive Server が使用する名前付き時間範囲が格納されます。カラム: name, id, startday, endday, starttime, endtime                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| sysstransactions | (master データベースのみ) Adaptive Server のトランザクションについての情報が含まれていますが、このテーブルは、通常のテーブルではありません。カラム: xactkey, starttime, failover, type, coordinator, state, connection, status, status2, spid, masterdbid, loid, namelen, xactname, srvname, nodeid, instanceid                                                                                                                                                                                                                           |

|                 |                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sysotypes       | (すべてのデータベース) システム定義データ型およびユーザ定義データ型ごとに 1 つのローが含まれています。ドメイン (ルールで定義される) とデフォルトが存在する場合は、それらも含まれています。カラム: uid, usertype, variable, allownulls, type, length, tdefault, domain, name, printfmt, prec, scale, ident, hierarchy, xtypeid, xdbid, accessrule |
| sysusages       | (master データベースのみ) データベースに割り当てられたディスク割り当ての集まりごとに 1 つのローが含まれています。各データベースは、指定された数のデータベース (論理) ページ番号を持っています。カラム: dbid, segmap, lstart, size, vstart, pad, unreservedpgs, crdate, vdevno                                                                   |
| sysusermessages | (すべてのデータベース) Adaptive Server によって返されるユーザ定義メッセージごとに 1 つのローが含まれています。カラム: error, uid, description, langid, dlevel                                                                                                                                        |
| sysusers        | (すべてのデータベース) データベースに許可されたユーザごとに 1 つのロー、およびグループまたは役割ごとに 1 つのローが含まれています。カラム: suid, uid, gid, name, environ                                                                                                                                              |
| sysxtypes       | (すべてのデータベース) 拡張機能 Java-SQL データ型ごとに 1 つのローが含まれています。カラム: xtid, xtstatus, xtmetatype, xtcontainer, xtname, xtsource, xtbinaryinrow, xtbinaryoffrow                                                                                                       |

## DBCC テーブル

以下は、Adaptive Server の dbcc テーブルの概要です。詳細については、『リファレンス・マニュアル・テーブル』を参照してください。

|                    |                                                                                                                                         |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| dbcc_config        | 現在実行中の、または最後に完了した dbcc checkstorage オペレーションを記述します。カラム: dbid, type_code, value, stringvalue                                              |
| dbcc_counters      | dbcc checkstorage によって実行された分析の結果を格納します。カラム: dbid, id, indid, partitionid, devid, opid, type_code, value                                 |
| dbcc_exclusions    | checkverify による処理から除外されるフォールト、テーブル、フォールトとテーブルの組み合わせと、sp_dbcc_faultreport を介して報告されるフォールトを格納します。カラム: dbid, type, fault_type, table_name   |
| dbcc_fault_params  | dbcc_faults テーブルに入力されたフォールトに関する補足説明を提供します。カラム: dbid, opid, faultid, type_code, intvalue, realvalue, binaryvalue, stringvalue, datevalue |
| dbcc_faults        | dbcc checkstorage によって検出された各フォールトの説明を提供します。カラム: dbid, id, indid, partitionid, devid, opid, faultid, type_code, status                   |
| dbcc_operation_log | dbcc checkstorage オペレーションの使用を記録します。カラム: dbid, opid, optype, suid, start, finish, seq, id, maxseq                                        |

---

|                        |                                                                                                                                            |
|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| dbcc_operation_results | dbcc_operation_log テーブルに記録されたオペレーションに関する補足説明を提供します。カラム：dbid、opid、optype、type_code、intvalue、realvalue、binaryvalue、stringvalue、datevalue、seq |
| dbcc_types             | dbcc checkstorage によって使用されるデータ型の定義を提供します。                                                                                                  |

## モニタリング・テーブル

以下は、Adaptive Server のモニタリング・テーブルの概要です。詳細については、『リファレンス・マニュアル：テーブル』を参照してください。テーブル、カラム、テーブル間の関係を視覚的に確認するには、『モニタリング・テーブル・ダイヤグラム』ポスターを参照してください。

|                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| monCachedObject     | 現在データ・キャッシュにページが格納されているすべてのテーブル、パーティション、およびインデックスについての統計情報を格納します。カラム：CacheID、InstanceID、DBID、IndexID、PartitionID、CachedKB、CacheName、ObjectID、DBName、OwnerUserID、OwnerName、ObjectName、PartitionName、ObjectType、TotalSizeKB、ProcessesAccessing                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| monCachePool        | すべてのデータ・キャッシュに割り付けられたすべてのプールについての統計情報を保存します。カラム：CacheID、InstanceID、IOBufferSize、AllocatedKB、PhysicalReads、Stalls、PagesTouched、PagesRead、BuffersToMRU、BuffersToLRU、CacheName、LogicalReads、PhysicalWrites、APFReads、APFPercentage、WashSize                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| monCachedProcedures | プロシージャ・キャッシュに現在格納されているすべてのストアド・プロシージャ、トリガ、コンパイル済みプランについての統計情報を保存します。カラム：ObjectID、InstanceID、OwnerUID、DBID、PlanID、MemUsageKB、CompileDate、ObjectName、ObjectType、OwnerName、DBName、RequestCnt、TempdbRemapCnt、AvgTempdbRemapTime、ExecutionCount、CPUTime、ExecutionTime、PhysicalReads、LogicalReads、PhysicalWrites、PagesWritten                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| monCachedStatement  | ステートメント・キャッシュに関する詳細なモニタリング情報を保存します。これには、以前に文を実行したときに使用されたリソース、文の実行頻度、特定のプランに対して有効になっている設定、文の同時使用数などに関する情報が含まれます。カラム：SSQLID、HashKey、UserID、SUserID、DBID、DBName、CachedDate、LastUsedDate、CurrentUsageCount、StatementSize、MaxUsageCount、SessionSettings、ParallelDegree、QuotedIdentifier、TransactionIsolationLevel、TransactionMode、SAAuthorization、SystemCatalogUpdates、ExecutionMetrics、MetricsCount、MaxElapsedTime、MinElapsedTime、AvgElapsedTime、MaxLIO、MinLIO、AvgLIO、MaxPIO、MinPIO、AvgPIO、NumRecompilesPlanFlushes、NumRecompilesSchemaChanges、MaxPlanSize、MinPlanSize、LastRecompiledDate、UseCount、HasAutoParams、OptimizationGoal、OptimizerLevel |

|                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| monCIPC                | (クラスタ環境特有のテーブル) 現在のインスタンス、またはすべてのインスタンスを基準にした、クラスタ内での総メッセージングの合計の数字を示します。カラム: InstanceID、ReceiveCount、TransmitCount、Multicast、Synchronous、ReceiveSoftError、ReceiveHardError、TransmitsSoftError、TransmitHardError、Retransmits、Switches、FailedSwitches、RegularBuffersInUse、FreeRegularBuffers、MaxRegularBuffersInUse、LargeBuffersInUse、FreeLargeBuffers、MaxLargeBuffersInUse     |
| monCIPCEndpoints       | (クラスタ環境特有のテーブル) クラスタ・インスタンス内にある各サブシステムのトラフィック・データを含む詳細な一覧を示します。カラム: InstanceID、ReceiveCount、TransmitCount、ReceiveBytes、TransmitBytes、ReceiveQ、MaxReceiveQ、DoneQ、MaxDoneQ、MaxRecvQTime、AvgRecvQTime、EndPoint                                                                                                                                                                    |
| monCIPCLinks           | (クラスタ環境特有のテーブル) クラスタ内のインスタンス間のリンクの状態をモニタします。カラム: InstanceID、LocalInterface、RemoteInterface、PassiveState、PassiveStateAge、ActiveState、ActiveStateAge                                                                                                                                                                                                                             |
| monCIPCMesh            | (クラスタ環境特有のテーブル) インスタンスごとにその接続網、つまり現在のインスタンスから同じクラスタ内にある他のすべてのインスタンスへの接続の合計の数字を示します。カラム: InstanceID、FarInstanceID、Received、Dropped、Transmitted、Resent、Retry、ControlRx、ControlTx、SendQ、MaxSendQ、SentQ、MaxSentQ、MaxSendQTime、AvgSendQTime、Mesh、MinRTT、MaxRTT、AverageRTT                                                                                                           |
| monCLMObjectActivity   | (クラスタ環境特有のテーブル) クラスタ・ロック情報を収集します。カラム: InstanceID、DBID、Object_PartitionID、LockRequests、LocalMaster、Waited、Granted、RWConflictWaited、AvgRWConflictWaitTime、MaxRWConflictWaitTime、WWConflictWaited、AvgWWConflictWaitTime、MaxWWConflictWaitTime、ClusterMsgWaits、AvgClusterMsgWaitTime、MaxClusterMsgWaitTime、DowngradeReqRecv、DowngradeReqRecvWithNoBlocker、ClusterDeadlock、Locktype |
| monClusterCacheManager | (クラスタ環境特有のテーブル) 各インスタンスで実行されているクラスタ・キャッシュ・マネージャ・デーモンに関する診断情報を保存します。monClusterCacheManager は、クラスタ全体にわたる情報をインスタンス単位でレポートします。カラム: InstanceID、RequestsQueued、RequestsRequeued、RequestsServed、DiskWrites、SleepCount、DaemonName、TransfersInitiated、Downgrades、Releases、AvgServiceTime、MaxQSize                                                                                       |
| monCMSFailover         | (クラスタ環境特有のテーブル) クラスタのメンバシップ・サービス (CMS) によるエラーの検出、新しいクラスタ・ビューの取得、ハートビートの再同期、エラー・イベントの通知、およびエラー・イベントの完了が行われる時刻をそれぞれ追跡します。カラム: InstanceID、FailedInstanceID、FailDetectTime、InitViewTime、FinalViewTime、ResynchHBTime、NotifyFailTime、EventdoneTime                                                                                                                                   |



---

|                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| monDataCache         | Adaptive Server データ・キャッシュに関する統計情報を保存します。カラム：CacheID、InstanceID、RelaxedReplacement、BufferPools、CacheSearches、PhysicalReads、LogicalReads、PhysicalWrites、Stalls、CachePartitions、CacheName、Status、Type、CacheSize、ReplacementStrategy、APFReads、Overhead                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| monDBRecovery        | (クラスタ環境特有のテーブル) クラスタ内のすべてのインスタンスからのロー、およびリカバリに必要な各データベースのローが含まれています。カラム：DBID、InstanceID、MaxOpenXacts、MaxPFTSEntries、Buckets、LogBTotPages、LogBTotAPFWaited、LogBTotIO、AnlTotRec、AnlPhase1Recs、AnlPhase1RedoRecs、AnlPhase2Recs、AnlPhase2RedoRecs、AnlTotPages、AnlTotAPFWaited、AnlTotIO、RedoOps、RedoOpsNotRedonePFTS、RedoOpsRedonePFTS、RedoOpsRedoneTS、RedoOpsNotRedoneTS、RedoLogTotPages、RedoLogTotAPFWaited、RedoLogTotIO、RedoRecTotPage、RedoRecTotAPFWaited、RedoRecTotIO、UndoRecsUndone、UndoLogTotPages、UndoLogTotAPFWaited、UndoLogTotIO、UndoRecTotPages、UndoRecTotAPFWaited、UndoRedTotIO、DBName、FailedInstanceID、Command、RecType、LobBStartTime、LogBEndTime、AnlStartTime、AnlEndTime、RedoStartTime、RedoEndTime、UndoStartTime、UndoEndTime                                                                                          |
| monDBRecoveryLRTypes | (クラスタ環境特有のテーブル) リカバリ中に参照されたログ・レコードを追跡します。少なくとも1つのログ・レコードがリカバリによって参照された、各ログ・レコード・タイプのローが含まれます。カラム：DBID、InstanceID、NumRecs、LogRecType                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| monDeadLock          | デッドロックに関する情報を提供します。deadlock pipe max messages を使用すると、返されるメッセージの最大数を調整できます。カラム：DeadLockID、VictimKPID、InstanceID、ResolveTime、ObjectDBID、PageNumber、RowNumber、HeldFamilyId、HeldSPID、HeldKPID、HeldProcDBID、HeldProcedureID、HeldBatchID、HeldContextID、HeldLineNumber、WaitFamilyId、WaitSPID、WaitKPID、WaitTime、ObjectName、HeldUserName、HeldAppName、HeldTranName、HeldLockType、HeldCommand、WaitUserName、WaitLockType、HeldSourceCodeID、WaitSourceCodeID、HeldClientAppName、HeldClientName、HeldClientHostName、HeldHostName、HeldNumLocks、HeldProcDBName、HeldProcedureName、HeldStmtNumber、ObjectDBName、ObjectID、WaitAppName、WaitBatchID、WaitClientAppName、WaitClientHostName、WaitClientName、WaitCommand、WaitContextID、WaitHostName、WaitLineNumber、WaitProcDBID、WaitProcDBName、WaitProcedureID、WaitProcedureName、WaitStmtNumber、WaitTranName |
| monDeviceIO          | データベース・デバイス上のアクティビティに関連する統計情報を返します。カラム：InstanceID、Reads、APFReads、Writes、DevSemaphoreRequests、DevSemaphoreWaits、IOTime、LogicalName、PhysicalName                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

|                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| monDeviceSpaceUsage | データベース・デバイスが割り当てられたファイル・システムに関する情報を提供する。空き領域の情報は、ファイル・システム・デバイスについてのみ表示されます。カラム：InstanceID、VDevNo、LogicalName、PhysicalName、DeviceSizeMB、FileSystemName、FileSystemSizeMB、FileSystemFreeMB                                                                                                                                                                                              |
| monEngine           | Adaptive Server エンジンについての統計情報を提供します。カラム：EngineNumber、ThreadID、InstanceID、CurrentKPID、PreviousKPID、CPUTime、SystemCPUTime、UserCPUTime、IOCPUTime、IdleCPUTime、Yields、Connections、DiskIOChecks、DiskIOPolled、DiskIOCompleted、MaxOutstandingIOs、ProcessesAffinitied、ContextSwitches、HkgcMaxQSize、HkgcPendingItems、HkgcHWMItems、HkgcOverflows、Status、Starttime、StopTime、AffinitiedToCPU、OSPID |
| monErrorLog         | Adaptive Server エラー・ログの最新のエラー・メッセージを返します。カラム：SPID、InstanceID、KPID、FamilyID、EngineNumber、ErrorNumber、Severity、State、Time、ErrorMessage                                                                                                                                                                                                                                                  |
| monFailoverRecovery | (クラスタ環境特有のテーブル) クラスタ・ロック・マネージャ (CLM)、データベース・リカバリ、クラスタ・メンバシップ・サービス (CMS) の各モジュール用に、集計されたフェールオーバー・リカバリ診断情報が含まれています。カラム：InstanceID、ModuleName、FailedInstanceID、StartTime、EndTime                                                                                                                                                                                                         |
| monIOController     | I/O コントローラに関する情報を提供します。カラム：InstanceID、ControllerID、KTID、EngineNumber、BlockingPolls、NonBlockingPolls、EventPolls、NonBlockingEventPolls、FullPolls、Events、EventHWM、Pending、Completed、Reads、Writes、Deferred、Type                                                                                                                                                                           |
| monIOQueue          | デバイス I/O の統計を、各デバイス上の通常のデータベースとテンポラリ・データベースのデータ I/O とログ I/O として表示します。カラム：InstanceID、IOs、IOTime、LogicalName、IOType                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| monLicense          | Adaptive Server によって現在チェックアウトされているすべてのライセンスを表示したリストを返します。カラム：InstanceID、Quantity、Name、Edition、Type、Version、Status、LicenseExpiry、GraceExpiry、LicenseID、Filter、Attributes                                                                                                                                                                                                               |
| monLocks            | 付与されたロックと未処理のロック要求のリストを返します。カラム：SPID、InstanceID、KPID、DBID、ParentSPID、LockID、Context、DBName、ObjectID、LockState、LockType、LockLevel、WaitTime、PageNumber、RowNumber、BlockedBy、BlockedState、SourceCodeID                                                                                                                                                                                    |

---

|                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| monLockTimeout            | <p>ロック・タイムアウトに関する情報を提供します。カラム：InstanceID、LockWaitPeriod、LockTimeoutLevel、ObjectDBID、ObjectDBName、ObjectID、ObjectName、PageNumber、RowNumber、ExpiredAtTime、HeldSPID、HeldKPID、HeldUserName、HeldAppName、HeldHostName、HeldClientName、HeldClientAppName、HeldClientHostName、HeldTranName、HeldCommand、HeldFamilyID、HeldProcDBID、HeldProcDBName、HeldProcDBName、HeldProcedureName、HeldBatchID、HeldContextID、HeldLineNumber、HeldStmtNumber、HeldLockType、HeldNumLocks、HeldNumTimeoutsCausedByTran、HeldNumTimeoutsCausedByLock、HeldSourceCodeID、WaitSPID、WaitKPID、WaitUserName、WaitAppName、WaitHostName、WaitClientName、WaitClientAppName、WaitClientHostName、WaitTranName、WaitCommand、WaitFamilyID、WaitProcDBID、WaitProcDBName、WaitProcedureName、WaitBatchID、WaitContextID、WaitLineNumber、WaitStmtNumber、WaitLockType、WaitNumTimeoutsCausedByTran、WaitSourceCodeID、HeldProcedureID、WaitProcedureID</p> |
| monLogicalCluster         | <p>(クラスタ環境特有のテーブル) 現在システム上に設定されている論理クラスタに関する情報が表示されます。カラム：LCID、Attributes、ActiveConnections、BaseInstances、ActiveBaseInstances、FailoverInstances、ActiveFailoverInstances、Name、State、DownRoutingMode、FailoverMode、StartupMode、SystemView、Roles、LoadProfile、ActionnRelease、Gather</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| monLogicalClusterAction   | <p>(クラスタ環境特有のテーブル) 起動からこれらのアクションの解放まで、ローカル・クラスタに対するすべての管理アクションを示します。カラム：Handle、State、LCID、LogicalClusterName、Action、FromInstances、ToInstances、InstancesWaiting、WaitType、StartTime、Deadline、CompleteTime、ConnectionsRemaining、NonMigConnections、NonHACConnections</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| monLogicalClusterInstance | <p>(クラスタ環境特有のテーブル) インスタンスと論理クラスタ間の多対多の関係に関する情報が表示されます。カラム：LCID、LogicalClusterName、InstanceID、InstanceName、Type、FailoverGroup、State、ActiveConnections、NonMigConnections、NonHACConnections、LoadScore</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| monLogicalClusterRoute    | <p>(クラスタ環境特有のテーブル) 設定されているルートに関する情報(アプリケーション、ログイン、エイリアス・バインディング)が表示されます。カラム：LCID、LogicalClusterName、RouteType、RouteKey</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| monNetworkIO              | <p>Adaptive Server とクライアント接続間でのすべての通信のネットワーク I/O 統計を返します。カラム：InstanceID、PacketsSent、PacketsReceived、BytesSent、BytesReceived</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| monOpenDatabases          | <p>サーバのメタデータ・キャッシュ内に現在あるデータベースについてステータスおよび統計情報を提供します。カラム：DBID、InstanceID、BackupInProgress、LastBackupFailed、TransactionLogFull、AppendLogRequests、AppendLogWaits、DBName、BackupStartTime、SuspendedProcesses、QuiesceTag、LastCheckpointTime、LastTranLogDumpTime</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

|                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| monOpenObjectActivity    | 開いているすべてのテーブルおよびインデックスについての統計情報を提供します。カラム：DBID、ObjectID、IndexID、InstanceID、DBName、ObjectName、LogicalReads、PhysicalReads、APFReads、PagesRead、PhysicalWrites、PagesWritten、RowsInserted、RowsDeleted、RowsUpdated、Operations、LockRequests、LockWaits、OptSelectCount、LastOptSelectDate、UsedCount、LastUsedDate、HkgcRequests、HkgcPending、HkgcOverflows、PhysicalLocks、PhysicalLocksRetained、PhysicalLocksRetainWaited、PhysicalLocksDeadlocks、PhysicalLocksWaited、PhysicalLocksPageTransfer、TransferReqWaited、AvgPhysicalLocksWaitTime、AvgTransferReqWaitTime、TotalServiceRequests、PhysicalLocksDowngraded、PagesTransferred、ClusterPageWrites、AvgServiceTime、AvgTimeWaitedOnLocalUsers、AvgTransferSendWaitTime、AvgIOServiceTime、AvgDowngradeServiceTime、SharedLockWaitTime、ExclusiveLockWaitTime、UpdateLockWaitTime、ObjectCacheDate |
| monOpenPartitionActivity | サーバ上の各オープン・パーティションの使用に関する情報を提供します。カラム：DBID、ObjectID、IndexID、PartitionID、InstanceID、DBName、ObjectName、PartitionName、LogicalReads、PhysicalReads、APFReads、PagesRead、PhysicalWrites、PagesWritten、RowsInserted、RowsDeleted、RowsUpdated、OptSelectCount、LastOptSelectDate、UsedCount、LastUsedDate、HkgcRequests、HkgcPending、HkgcOverflows、PhysicalLocks、PhysicalLocksRetained、PhysicalLocksRetainWaited、PhysicalLocksDeadlocks、PhysicalLocksWaited、PhysicalLocksPageTransfer、TransferReqWaited、AvgPhysicalLockWaitTime、AvgTransferReqWaitTime、TotalServiceRequests、PhysicalLocksDowngraded、PagesTransferred、ClusterPageWrites、AvgServiceTime、AvgTimeWaitedOnLocalUsers、AvgTransferSendWaitTime、AvgIOServiceTime、AvgDowngradeServiceTime、ObjectCacheDate                                                                          |
| monPCIBridge             | Java PCI Bridge についての情報が含まれています。カラム：InstanceID、Status、ConfiguredSlots、ActiveSlots、ConfiguredPCIMemoryKB、UsedPCIMemoryKB                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| monPCIEngine             | PCI Bridge とそのプラグインのエンジン情報を表示します。カラム：InstanceID、Engine、Status、PLBStatus、NumberOfActiveThreads、PLBRequests、PLBwakeUpRequests                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| monPCISlots              | PCI Bridge 内の各スロットにバインドされているプラグインについての情報が含まれています。カラム：InstanceID、Slot、Status、Modulename、engine                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

---

|                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| monPCM                           | (クラスタ環境特有のテーブル) クラスタ内のピア調整モジュール (PCM) クライアント・アクティビティを追跡し、各 PCM クライアントのローを含みます。カラム : InstanceID、Sent、Fragments_sent、Fragments_received、Received、Reply、Unicast、Multicast、Sync、Async、MinBytes、AvgBytes、MaxBytes、MinDialog、AvgDialog、MaxDialog、Dialog、MinTimeSyncApi、AvgTimeSyncApi、MaxTimeSyncApi、MinTimeAsyncApi、AvgTimeAsyncApi、MaxTimeAsyncApi、MinTimeCIPCMsgAlloc、AvgTimeCIPCMsgAlloc、MaxTimeCIPCMsgAlloc、MinTimeCIPCMsgSendCB、AvgTimeCIPCMsgSendCB、MaxTimeCIPCMsgSendCB、MinTimeCIPCUnicastmsg、AvgTimeCIPCUnicastmsg、MaxTimeCIPCUnicastmsg、MinTimeCIPCMulticastmsg、AvgTimeCIPCMulticastmsg、MaxTimeCIPCMulticastmsg、MinTimeClientRecvCB、AvgTimeClientRecvCB、MaxTimeClientRecvCB、ModuleName |
| monProcedureCache                | Adaptive Server プロシージャ・キャッシュに関する統計情報を返します。カラム : Requests、Loads、Writes、Stalls、InstanceID                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| monProcedureCache<br>MemoryUsage | プロシージャ・キャッシュ・アロケータごとに 1 つのローが含まれています。カラム : InstanceID、AllocatorID、ModuleID、Active、HWM、ChunkHWM、AllocatorName、NumReuseCaused                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| monProcedureCache<br>ModuleUsage | プロシージャ・キャッシュからメモリを割り付けるモジュールごとに 1 つのローが含まれています。カラム : InstanceID、ModuleID、Active、HWM、NumPagesReused、ModuleName                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| monProcess                       | 現在実行中または待機中のプロセスについての詳細な統計情報を提供します。カラム : SPID、InstanceID、KPID、ServerUserID、BatchID、ContextID、LineNumber、SecondsConnected、DBID、EngineNumber、Priority、FamilyID、Login、Application、Command、NumChildren、SecondsWaiting、WaitEventID、BlockingSPID、BlockingXLOID、DBName、EngineGroupName、ExecutionClass、MasterTransactionID、HostName、ClientName、ClientHostName、ClientAppName                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| monProcessActivity               | プロセス・アクティビティについての詳細な統計情報を提供します。カラム : SPID、InstanceID、KPID、ServerUserID、CPUTime、WaitTime、PhysicalReads、LogicalReads、PagesRead、PhysicalWrites、PagesWritten、MemUsageKB、LocksHeld、TableAccesses、IndexAccesses、WorkTables、TempDbObjects、ULCBytesWritten、ULCFlushes、ULCFlushFull、ULCMaxUsage、ULCCurrentUsage、Transactions、Commits、Rollbacks、HostName、Application、ClientName、ClientHostName、ClientAppName                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| monProcessLookup                 | サーバ上の各プロセスに関する識別情報を提供します。カラム : SPID、InstanceID、KPID、Login、Application、ClientHost、ClientIP、ClientOSPID、ClientName、ClientHostName、ClientAppName                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| monProcessMigration              | (クラスタ環境特有のテーブル) 現在マイグレートしている接続に関する情報を表示します。カラム : SPID、KPID、LogicalCluster、Instance、MigrationLogicalCluster、MigrationInstance、Command                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

|                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| monProcessNetIO        | 各プロセスのネットワーク I/O アクティビティ情報を提供します。カラム：SPID、InstanceID、KPID、NetworkPacketSize、PacketSent、PacketsReceived、BytesSent、BytesRecieved、NetworkEngineNumber                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| monProcessObject       | プロセスが現在アクセスしているオブジェクトについての統計情報を提供します。カラム：SPID、InstanceID、KPID、DBID、ObjectID、PartitionID、IndexID、OwnerUserID、LogicalReads、PhysicalReads、PhysicalAPFReads、DBName、ObjectName、PartitionName、ObjectType、PartitionSize                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| monProcessProcedures   | プロセスによって実行されているすべてのプロシージャのリストを返します。カラム：SPID、InstanceID、KPID、DBID、OwnerUID、ObjectID、PlanID、MemUsageKB、CompileDate、ContextID、LineNumber、DBName、OwnerName、ObjectName、ObjectType、ExecutionCount、CPUTime、ExecutionTime、PhysicalReads、LogicalReads、PhysicalWrites、PagesWritten                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| monProcessSQLText      | プロセスが現在実行している SQL テキストを提供します。カラム：SPID、InstanceID、KPID、ServerUserID、BatchID、LineNumber、SequenceInLine、SQLText                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| monProcessStatement    | 現在実行中の文についての情報を提供します。カラム：SPID、InstanceID、KPID、DBID、ProcedureID、PlanID、BatchID、ContextID、LineNumber、CPUTime、WaitTime、MemUsageKB、PhysicalReads、LogicalReads、PagesModified、PacketsSent、PacketsReceived、NetworkPacketSize、PlansAltered、RowsAffected、DBName、StartTime                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| monProcessWaits        | サーバ上で現在のプロセスが待機しているすべての待機イベントのリストを提供します。カラム：SPID、InstanceID、KPID、ServerUserID、WaitEventID、Waits、WaitTime                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| monProcessWorkerThread | 現在設定されている各ワーカー・プロセスのアクティビティの統計情報を提供します。カラム：SPID、InstanceID、KPID、ThreadsActive、MaxParallelDegree、MaxScanParallelDegree、ParallelQueries、PlansAltered、FamilyID                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| monRepLogActivity      | Replication Agent で更新されたモニタ・カウンタから情報を収集します。カラム：DBID、SPID、InstanceID、LogRecordsScanned、LogRecordsProcessed、NumberOfScans、TotalTimeForLogScans、LongestTimeForLogScans、AvgTimeForLogScans、Updates、Inserts、Deletes、StoredProcedures、SQLStatements、DDL、Writetext、LobColumns、CLR、Checkpoints、BeginTransaction、CommitTransaction、AbortedTransaction、PreparedTransaction、DelayedCommit、MaintenanceUserTransaction、NumberOfLogExtentions、TotalTimeOfLogExtentions、LongestTimeOfLogExtentions、AvgTimeOfLogExtentions、MaxHashSchemaSize、NumberOfSchemasReused、NumberOfSchemaFwdLookup、TotalTimeOfSchemaFwdLookup、LongestTimeOfSchemaFwdLookup、AvgTimeOfSchemaFwdLookup、NumberOfSchemaBckwLookup、TotalTimeOfSchemaBckwLookup、LongestTimeOfSchemaBckwLookup、AvgTimeOfSchemaBckwLookup、NumberOfMempoolAllocates、NumberOfMempoolFrees、MempoolCurrentSize、MempoolHighUsage、DBName |

---

|                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| monRepScanners              | Rep Agent スキャナ・タスクが費やす時間に関する情報を提供します。カラム：DBID、SPID、InstanceID、EngineBinding、LogRecordsScanned、LogrecordsProcessed、NumberOfTruncPointRequested、NumberOfTruncPointMoved、DBName、Status、SleepStatus、StartMarker、EndMarker、CurrentMarker、OldestTransaction                                                                                                                           |
| monRepScanners<br>TotalTime | Rep Agent スキャナ・タスクが費やす時間に関する情報を提供します。カラム：DBID、SPID、InstanceID、LogRecProcessed、BytesPacked、TotalTime、MRPBootstrapTime、ScanTime、ProcessTime、SchemaLookupsTime、PackTime、QueueingTime、HashBindingSize、HashBindingEntries、HashBindingCollisions、YieldsOnFullQueue、WaitsOnSenderThread、WaitTimeOnSenderThread、LongestWaitOnSenderThread                                               |
| monRepSenders               | Rep Agent の送信者タスクに関する処理情報を提供します。カラム：DBID、SPID、InstanceID、EngineBinding、MessageQueueSize、MessagesInQueue、NumberOfScannerYields、NumberOfScannerSleeps、NumberOfBytesSent、LastRepServerError、NumberOfRetries、SleepsOnEmptyQueue、NumberOfQueueFlushes、SleepTimeOnEmptyQueue、LongestSleepTimeOnEmptyQueue、MaxQueueSize、DBName、Datasever、ReplicationServer、Username、Status、SleepStatus |
| monSQLRepActivity           | すべてのオープン・オブジェクトに対して正常に複製された SQL 文の統計情報を提供します。カラム：DBID、ObjectID、InstanceID、DBName、ObjectName、UpdateStmts、InsertSelectStmts、DeleteStmts、SelectIntoStmts、RowsThreshold                                                                                                                                                                                                             |
| monSQLRepMisses             | すべてのオープン・オブジェクトに対して正常に複製されなかった SQL 文の統計情報を提供します。カラム：DBID、ObjectID、InstanceID、DBName、ObjectName、Threshold、QueryLimitation、Configuration                                                                                                                                                                                                                                          |
| monState                    | Adaptive Server 全体のステータスについての情報を提供します。カラム：InstanceID、LockWaitThreshold、LockWaits、DaysRunning、CheckPoints、NumDeadlocks、Diagnostic Dumps、Connections、MaxRecovery、Transactions、StartDate、CountersCleared                                                                                                                                                                           |
| monStatementCache           | 文のキャッシュについての統計情報を提供します。カラム：InstanceID、TotalSizeKB、UsedSizeKB、NumStatements、NumSearches、HitCount、NumInserts、NumRemovals、NumRecompilesSchemaChanges、NumRecompilesPlanFlushes                                                                                                                                                                                                      |
| monSysLoad                  | (クラスタ環境特有のテーブル) エンジン単位の統計情報の傾向を提供します。カラム：InstanceID、EngineNumber、SteadyState、Avg_1min、Avg_5min、Avg_15min、Max_1min、Max_5min、Max_15min、Max_1min_Time、Max_5min_Time、Max_15min_Time、Statistic、Sample、Peak、Peak_time、StatisticID                                                                                                                                                     |
| monSysPlanText              | 最近実行されたクエリのクエリ・プラン履歴を提供します。カラム：PlanID、InstanceID、SPID、KPID、BatchID、ContextID、SequenceNumber、DBID、ProcedureID、DBName、PlanText                                                                                                                                                                                                                                                    |

|                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| monSysSQLText       | 前回実行された SQL テキスト、または現在実行中の SQL テキストを提供します。カラム：SPID、InstanceID、KPID、ServerUserID、BatchID、SequenceInBatch、SQLText                                                                                                                                                                                                                     |
| monSysStatement     | サーバ上で最近実行された文の履歴を提供します。カラム：SPID、InstanceID、KPID、DBID、ProcedureID、PlanID、BatchID、ContextID、LineNumber、CpuTime、WaitTime、MemUsageKB、PhysicalReads、LogicalReads、PagesModified、PacketsSent、PacketsReceived、NetworkPacketSize、PlansAltered、RowsAffected、ErrorStatus、HashKey、SsqlId、ProcNestLevel、StatementNumber、DBName、StartTime、EndTime |
| monSysWaits         | プロセスが待機しているイベントに関するサーバワイドの統計情報を提供します。カラム：InstanceID、WaitEventID、WaitTime、Waits                                                                                                                                                                                                                                                      |
| monSysWorkerThread  | ワーカー・スレッドの設定と実行に関するサーバワイドの統計情報を返します。カラム：InstanceID、ThreadsActive、TotalWorkerThreads、HighWater、ParallelQueries、PlansAltered、WorkerMemory、TotalWorkerMemory、WorkerMemoryHWM、MaxParallelDegree、MaxScanParallelDegree                                                                                                                   |
| monTableColumns     | 各モニタリング・テーブルのすべてのカラムについて説明します。カラム：TableID、ColumnID、TypeID、Precision、Scale、Length、Indicators、TableName、ColumnName、TypeName、Description、Label、Language                                                                                                                                                                                |
| monTableCompression | テーブルの圧縮履歴を含みます。カラム：InstanceID、DBID、TableID、PartitionID、TableName、CompRowInserted、CompRowUpdated、CompRowForward、CompRowScan、RowPageDecompressed、RowDecompressed、ColDecompressed、RowCompNoneed、PageCompNoneed、PagesCompressed、BytesSavedPageLevel                                                                                     |
| monTableParameters  | モニタリング・テーブルのクエリ・パフォーマンスを最適化するために使用する、モニタリング・テーブル内のすべてのカラムについての説明を提供します。カラム：TableID、ParameterID、TypeID、Precision、Scale、Length、TableName、ParameterName、TypeName、Description                                                                                                                                                           |
| monTables           | すべてのモニタリング・テーブルについての説明を提供します。カラム：TableID、Columns、Parameters、Indicators、Size、TableName、Description、Language                                                                                                                                                                                                                          |
| monTableTransfer    | MonTableTransfer は、Adaptive Server のアクティブなメモリに存在するテーブルの転送履歴情報を提供します。カラム：InstanceID、DBID、TableID、TableName、SequenceID、TrackingID、PercentDone、BeginTime、EndTime、EndCode、TransferFloor、TransferCeiling、RowsSent、BytesSent、Format                                                                                                       |
| monTask             | Adaptive Server のスレッド・モード専用で、各タスクについて 1 つローを含みます。カラム：InstanceID、KTID、ThreadPoolID、ThreadID、KPID、SPID、Name、ThreadPoolName                                                                                                                                                                                                            |



---

|                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| monTempdbActivity  | (クラスタ環境特有のテーブル) インスタンスが tempdb 設定モードで開始されたときの、オープンしているローカル・テンポラリ・データベースすべての統計情報を、グローバル・システムの tempdb も含めて提供します。カラム：DBID InstanceID、DBName、AppendLogRequest、AppendLogWaits、LogicalReads、PhysicalReads、APFReads、PagesRead、PhysicalWrites、PagesWritten、LockRequests、LockWaits、CatLockRequests、CatLockWaits、AssignedCnt、SharableTabCnt |
| monThread          | Adaptive Server のスレッド・モード専用。各スレッドについて1つローを含みます。カラム：InstanceID、ThreadID、KTID、OSThreadID、AltOSThreadID、ThreadPoolID、State、ThreadAffinity、ThreadPoolName、TaskRuns、TotalTicks、IdleTicks、SleepTicks、BusyTicks、UserTime、SystemTime、MinorFaults、MajorFaults、VoluntaryCtxtSwitches、NonVoluntaryCtxtSwitches                               |
| monThreadPool      | Adaptive Server のスレッド・モード専用。各スレッド・プールについて1つローを含みます。カラム：ThreadPoolID、Size、TargetSize、Tasks、ThreadPoolName、ThreadPoolDescription、Type、IdleTimeout                                                                                                                                                                                   |
| monWaitClassInfo   | すべての待機クラスのテキストによる説明を提供します (たとえば、ディスクの読み込み完了を待機する場合)。カラム：WaitClassID、Description                                                                                                                                                                                                                                                   |
| monWaitEventInfo   | Adaptive Server 内でプロセスが待機させられる可能性のあるあらゆる状況について、テキストによる説明を提供します。カラム：WaitEventID、WaitClassID、Description、Language                                                                                                                                                                                                                   |
| monWorkload        | (クラスタ環境特有のテーブル) 各インスタンスにおける各論理クラスタの負荷スコアをそのロード・プロファイルに従って表示します。カラム：LCID、InstanceID、LoadProfileID、LoadScore、ConnectionsScore、CpuScore、RunQueueScore、IoLoadScore、EngineScore、UserScore、LogicalClusterName、InstanceName、LoadProfileName                                                                                              |
| monWorkloadPreview | (クラスタ環境特有のテーブル) ロード・プロファイルがプロファイルを有効にしないでどれだけ負荷スコアに影響を及ぼすかの見積もりを提供します。カラム：InstanceID、LoadProfileID、LoadScore、ConnectionScore、CpuScore、RunQueueScore、IoLoadScore、EngineScore、UserScore、InstanceName、LoadProfileName                                                                                                                |
| monWorkloadProfile | (クラスタ環境特有のテーブル) 現在設定されている作業負荷プロファイルを表示します。カラム：ProfileID、ConnectionsWeight、CpuWeight、RunQueueWeight、IoLoadWeight、EngineWeight、UserWeight、LoginThreshold、DynamicThreshold、Hysteresis、Name、Type                                                                                                                                      |
| monWorkloadRaw     | (クラスタ環境特有のテーブル) 各インスタンスについてのロー作業負荷統計情報を提供します。このモニタリング・テーブルの問い合わせには、mon_role の役割は必要ありません。カラム：InstanceID、ConnectionsRaw、CpuRaw、RunQueueRaw、IoLoadRaw、EngineRaw、UserRaw、InstanceName                                                                                                                                                 |
| monWorkQueue       | ワーク・キューに関する情報を提供します。カラム：InstanceID、CurrentLength、MaxLength、TotalRequests、QueuedRequests、WaitTime、Name                                                                                                                                                                                                                             |

## sybpcidb テーブル

sybpcidb データベースには、Java PCI Bridge および PCA/JVM プラグインの設定情報が格納されます。このセクションでは、sybpcidb のテーブルをアルファベット順に説明します。

|                    |                                                                                                                                                                                                         |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| pca_jre_arguments  | PCA/JVM プラグインを設定するために使用される引数に関する情報が格納されています。カラム：jre_args_directive_index、jre_args_name、jre_args_units、jre_args_number_value、jre_args_string_value、jre_args_description、jre_args_enabled、jre_args_status |
| pca_jre_directives | PCA/JVM の設定に使用されるディレクティブに関する情報が格納されています。カラム：jre_directives_index、jre_directives_name、jre_directives_description、jre_directives_enabled、jre_directives_status                                            |
| pca_arguments      | PCI Bridge を設定するために使用される各引数を定義する情報が格納されています。カラム：pci_args_directive_index、pci_args_name、pci_args_units、pci_args_number_value、pci_args_string_value、pci_args_description、pci_args_enabled、pci_args_status |
| pca_directives     | PCI Bridge を設定するディレクティブが格納されています。カラム：pci_directives_index、pci_directives_name、pci_directives_description、pci_directives_enabled、pci_directives_status                                                   |
| pca_slotinfo       | スロットのディレクティブおよび引数のテーブル名など、各スロットに関する情報が含まれています。カラム：slot_number、slot_name、slot_pca_directives_table_name、slot_pca_arguments_table_name、slot_status                                                        |
| pca_slot_syscalls  | PCI Bridge により使用される実行時ディスパッチ・モデルの実行時システム呼び出し設定情報を含みます。カラム：syscall_slot_number、syscall_system_call、syscall_dispatch_name、syscall_enabled、syscall_status                                                  |

---

## ユーティリティ

以下は、Adaptive Server ユーティリティの構文と概要です。詳細については、『ユーティリティ・ガイド』を参照してください。

backupserver

実行形式の Backup Server プログラムです。

```
backupserver
[-C server_connections]
[-S b_servername]
[-I interfaces_file]
[-e error_log_file]
[-M sybmultbuf_binary]
[-N network_connections]
[-T trace_value]
[-L Sybase_language_name]
[-J Sybase_character_set_name]
[-c tape_config_file]
[-D n]
[-A pathname]
[-P active_service_threads]
[-V level_number]
[-p n]
[-m max_shared_memory]
```

- または : backupserver -v

bcp

ユーザが指定したフォーマットで、データベース・テーブルをオペレーティング・システム・ファイルに、または、そのオペレーティング・システム・ファイルからデータベース・テーブルにコピーします。

```
bcp [[database_name.]owner.]table_name [: [partition_id | slice_number] |
partition partition_name] {in | out} datafile
[-f formatfile]
[-e errfile]
[-d discardfileprefix]
[-F firstrow]
[-L lastrow]
[-b batchsize]
[-m maxerrors]
[-n]
[-c]
[-t field_terminator]
[-r row_terminator]
[-U username]
[-P password]
[-I interfaces_file]
[-S server]
[-a display_charset]
[-z language]
[-A packet_size]
[-J client_charset]
[-T text_or_image_size]
[-E]
[-g id_start_value]
[-N]
[-W]
[-X]
[-M LabelName LabelValue]
[-labeled]
[-K keytab_file]
[-R remote_server_principal]
[-C]
```

```

[-V [security_options]]
[-Z security_mechanism]
[-Q]
[-Y]
[-y sybase_directory]
[-x trusted.txt_file]
[--maxconn maximum_connections]
[--show-fi]
[--hide-vcc]
[--colpasswd [[[database_name].[owner].table_name].column_name
[password]]]
[--keypasswd [[database_name].[owner].key_name [password]]]
[--initstring 'Transact-SQL_command']

```

または

```
bcp -v
```

certauth

サーバ証明書要求を CA (認証機関) の署名付き証明書に変換します。

```

certauth
[-r]
[-C caCert_file]
[-Q request_filename]
[-K caKey_filename]
[-N serial_number]
[-O SignedCert_filename]
[-P caPassword]
[-s start_time]
[-T valid_time]

```

または : certauth -v

certpk12

PKCS #12 ファイルを証明書ファイルとプライベート・キーにエクスポートまたはインポートします。

```

certpk12
{-O Pkcs12_file | -I Pkcs12_file}
[-C Cert_file]
[-K Key_file]
[-P key_password]
[-E Pkcs12_password]

```

- または : certpk12 -v

certreq

サーバ証明書要求と対応するプライベート・キーを作成します。

```

certreq
[-F input_file]
[-R request_filename]
[-K PK_filename]
[-P password]

```

- または : certreq -v

charset

UNIXプラットフォームのみ - Adaptive Server に文字セットとソート順ファイルをロードします。\$SYBASE/\$SYBASE\_ASE/bin にあります。

```

charset
[-Ppassword]
[-Sserver]
[-linterface]
sort_order
[charset]

```

- または : charset -v

---

cobpre COBOL のプリコンパイラです。

cpre C のプリコンパイラです。

dataserver UNIX プラットフォームのみ – 実行形式の Adaptive Server プログラムです。

```
dataserver [-f] [-g] [-G] [-h] [-H] [-m] [-q] [-v] [-X]
[-a path_to_CAPs_directive_file]
[-b master_device_size [k | K | m | M | g | G | t | T]]
[-c config_file_for_server]
[-d device_name]
[-e path_to_error_log]
[-i interfaces_file_directory]
[-K keytab_file]
[-L config_file_name_for_connectivity]
[-M shared_memory_repository_directory]
[-N licinstan]
[-n sa_login_name]
[-p sa_login_name]
[-r mirror_disk_name]
[-s server_name]
[-T trace_flag]
[-u sa/sso_name]
[-w master | model database]
[-y [password]]
[-z page_size [k | K]]
```

Cluster Edition の構文 :

```
dataserver
-u, --admin-name=sa/sso_name
--buildquorum=[force]
-a, --caps-file=filename
-F, --cluster-input=filename
--cluster-takeover
-L, --conn-config-file=[filename]
--create-cluster-id [=quorum]
-D, --default-db-size=size_spec
-e, --error-log=[filename]
-G, --event-log-server=logserv_name
-f, --forcebuild
-H, --ha-server
-h, --help={0|1|2|3}[,display_width]
--instance=instance_name
-y, --key-password=[key_password]
-K, --keytab-file=filename
-N, --license-prop-file=filename
-z, --logical-page-size=page_size
-Z, --master-db-size=size_spec
-d, --master-dev=master_device_name
-b, --master-dev-size=[size_spec]
--master_key_password [=password]
-r, --master-mirror=filename
-m, --masterrecover
-g, --no-event-logging
-Q, --quorum-dev=quorum_dev
-q, --recover-quiet
-w, --rewrite-db=database_name
-p, --sa-name={SSO_login_account | sso_role | sa_role}
-k, --server-principal=s_principal
-M, --shared-mem-dir=directory_name
-X, --sybmon
-T, --trace=trace_flag
-v, --version
```

または

`dataserver -v`

`ddlgen`

Adaptive Server でサーバ・レベルおよびデータベース・レベルのオブジェクトの定義を生成する Java ベースのツールです。

`ddlgen`

```
-Ulogin
-Ppassword
-S[[ssl:]server | host_name : port_number]
[-I interfaces_file]
[-Tobject_type]
[-Nobject_name]
[-Ddbname]
[-Xextended_object_type]
[-Ooutput_file]
[-Error_file]
[-Lprogress_log_file]
[-Jclient_charset]
[-LC -N Logical_cluster_name]
-F [% | SGM | GRP | USR | R | D | UDD | U | V |
 P | XP | I | RI | KC | TR | PC]
```

または

`ddlgen -v`

`defncopy`

特定のビュー、ルール、デフォルト、トリガ、プロシージャの定義を、データベースからオペレーティング・システム・ファイルに、またはオペレーティング・システム・ファイルからデータベースにコピーします。

`defncopy`

```
[-X]
[-a display_charset]
[-I interfaces_file]
[-J [client_charset]]
[-K keytab_file]
[-P password]
[-R remote_server_principal]
[-S [server_name]]
[-U username]
[-V security_options]
[-Z security_mechanism]
[-z language]
{ in file_name database_name |
 out file_name database_name [owner.]object_name
 [[owner.]object_name...] }
```

- または：`defncopy -v`

`dscp`

UNIXプラットフォームのみ – UNIX プラットフォームのコマンド・ラインから、`interfaces` ファイルのサーバ・エントリを表示、編集できます。  
`$$SYBASE/$SYBASE_OCS/bin` にあります。

`dscp [-p ]`

- または：`dscp -v`

---

dsedit

UNIXプラットフォーム – dsedit ユーティリティでは、UNIXプラットフォームで X11/Motif ベースの GUI を使用して、interfaces ファイルのサーバ・エントリを表示、編集できます。Windows – dsedit.exe ユーティリティを使用して interfaces ファイルに保存されたネットワーク接続情報を作成、修正できます。

dsedit

- または：dsedit -v

extractjava

保持された JAR とそれに含まれるクラスを Adaptive Server からクライアント・ファイルにコピーします。

extractjava (Windows では extrjava)

```
-j jar_name
-f file_name
[-S server_name]
[-U user_name]
[-P password]
[-D database_name]
[-I interfaces_file]
[-a display_charset]
[-J client_charset]
[-z language]
[-t timeout]
[-v]
```

- または：extractjava -v

installjava

クライアント・ファイルから Adaptive Server に JAR をインストールします。

installjava

```
-f file_name
[-new | -update]
[-j jar_name]
[-S server_name]
[-U user_name]
[-P password]
[-D database_name]
[-I interfaces_file]
[-a display_charset]
[-J client_charset]
[-z language]
[-t timeout]
[-v]
```

- または：installjava -v

isql

Adaptive Server の対話型 SQL ユーティリティです。

isql [-b] [-e] [-F] [-p] [-n] [-v] [-W] [-X] [-Y] [-Q]

```
[-a display_charset]
[-A packet_size]
[-c cmdend]
[-D database]
[-E editor]
[-h header]
[-H hostname]
[-i inputfile]
[-I interfaces_file]
[-J client_charset]
[-K keytab_file]
[-l login_timeout]
[-m errorlevel]
```

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             | <pre> [-o <i>outputfile</i>] [-P <i>password</i>] [-R <i>remote_server_principal</i>] [-s <i>colseparator</i>] [-S <i>server_name</i>] [-t <i>timeout</i>] -U <i>username</i> [-V [<i>security_options</i>]] [-w <i>columnwidth</i>] [-z <i>locale_name</i>] [-Z <i>security_mechanism</i>] [--conceal] </pre>                                                                                                                                                         |
| langinstall | <p>Adaptive Server に新しい言語をインストールします。</p> <pre> langinstall [-S <i>server</i>] [-U <i>user</i>] [-P <i>password</i>] [-R <i>release_number</i>] [-I <i>path</i>] <i>language</i> <i>character_set</i> </pre> <ul style="list-style-type: none"> <li>• または : langinstall -v</li> </ul>                                                                                                                                                                                   |
| optdiag     | <p>オプションマイザ統計値を表示します。または、更新された統計値をシステム・テーブルにロードします。</p> <pre> optdiag [<i>binary</i>] [<i>simulate</i>] <i>statistics</i> { -i <i>input_file</i>   <i>database</i> [<i>owner</i> [<i>table</i> [<i>column</i> ] ] ] [-o <i>output_file</i> ] [-U <i>user_name</i>] [-P <i>password</i>] [-T <i>trace_value</i>] [-I <i>interfaces_file</i>] [-S <i>server</i>] [-v] [-h] [-s] [-z <i>language</i>] [-J <i>client_character_set</i>] [-a <i>display_charset</i>] </pre> |
| preupgrade  | <p>アップグレードできる状態かどうかを判断するために、インストールまたはデータベースでテストを実行し、検出された問題をレポートします。</p> <pre> preupgrade [-v] [-h] [-N] [-p [<i>skip_sybprocs</i>]] [-D <i>database_name</i>] [-I <i>interfaces_file</i>] [-P <i>password</i>] [-S <i>server_name</i>] [-U <i>user_name</i>] [-X <i>option</i> [<i>option</i>]...] </pre>                                                                                                                                                             |
| pwdcrypt    | <p><i>libtcl.cfg</i> ファイルに LDAP 暗号化パスワードを作成し、表示します。</p> <pre> pwdcrypt </pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |



---

qptune

紛失統計を修正し、最適なクエリ・プラン、最適化目標、またはその他の構成設定を特定し、それらをクエリまたはサーバのレベルで適用できるようにします。

```
qptune
[-U username]
[-P password]
[-S hostname:port/database]
[-A action]
[-M mode]
[-T appTime]
[-i inputFile]
[-o outputFile]
[-f fileList(,)]
[-c configFile]
[-l limit]
[-e evalField]
[-d <diff%(<diff_abs>)]
[-m missingCount]
[-n login]
[-J charset>]
[-N (noexec)]
[-g (applyOptgoal)]
[-v (verbose)]
[-s (sort)]
[-h (help)]
```

qrmutil

クラスター・エディションのみ – クォーラム・デバイスのバックアップ、リストア、再設定を可能にします。qrmutil は `$$SYBASE/$$SYBASE_ASE/bin` にあります。

```
--additional-run-parameters=parameter_list
--ase-config-extract=file_name
--ase-config-info
--ase-config-store=file_name
--ase-config-version=version_number
--buildquorum=[force]--cluster-take-over
--config-file=file_name
--diag={all | boot | toc | nodes | locks | config | cms}
--display={boot | nodes | heartbeat | master | cluster |
instance | config | state}
--drop-cluster=[force]
--drop-instance=instance_name
--errorlog=file_name
--extract-config=file_name
-h, --help
-F, --cluster-input=file_name
--fence-capable=device_path
--installation=installation_mode
-s, --instance=instance_name
--instance-node=node_name
--interfaces-dir=path_to_interfaces_file
--max-instances=number_of_instances
--master-dev=master_device
--membership-mode=membership_mode
--primary-address=interconnect_address
--primary-port=port_number
--primary-protocol=protocol
-Q, --quorum-dev=quorum_device
--register-node=node_name
--secondary-address=interconnect_address
--secondary-port=port_number
--secondary-protocol=protocol
--traceflags=traceflag_list
--unregister-node=node_name
```

- verify-node=*node\_name*  
-v, --version]
- showserver** *UNIX* プラットフォームのみ – ローカル・マシンで現在稼働している Adaptive Server と Backup Server を表示します。*UNIX* プラットフォームでのみ使用できます。
- showserver
- sqldbgr** sqldbgr は、ストアド・プロシージャとトリガをデバッグするコマンド・ライン・ユーティリティです。
- sqldbgr  
-U *username*  
-P *password*  
-S *host:port*
- sqlloc** *UNIX* プラットフォームのみ – X11/Motif ベースの GUI を使用して、Adaptive Server の言語、文字セット、ソート順のデフォルトをインストールしたり、変更したりします。
- sqlloc  
[-S *server*]  
[-U *user*]  
[-P *password*]  
[-s *sybase dir*]  
[-I *interfaces file*]  
[-r *resource file*]
- または：sqlloc -v
- sqllocres** *UNIX* プラットフォームのみ – リソース・ファイルを使用して、Adaptive Server の言語、文字セット、ソート順のデフォルトをインストールしたり、変更したりします。
- sqllocres  
[-S *server*]  
[-U *user*]  
[-P *password*]  
[-s *sybase dir*]  
[-I *interfaces file*]  
[-r *resource file*]
- または：sqllocres -v
- sqlsrvr** *Windows* プラットフォームのみ – 実行形式の Adaptive Server プログラムです。
- sqlserver [-f] [-g] [-G] [-h] [-H] [-m] [-P] [-q] [-v] [-X]  
[-a *path\_to\_CAPs\_directive\_file*]  
[-b *master\_device\_size*] [k | K | m | M | g | G | t | T]  
[-c *config\_file\_for\_server*]  
[-d *device\_name*]  
[-e *path\_to\_error\_log*]  
[-i *interfaces\_file\_directory*]  
[-K *keytab\_file*]  
[-L *config\_file\_name\_for\_connectivity*]  
[--master\_key\_password [=*password*]  
[-M *shared\_memory\_repository\_directory*]  
[-p *sa\_login\_name*]  
[-r *mirror\_disk\_name*]  
[-s *server\_name*]  
[-T *trace\_flag*]  
[-u *sa/ss0\_name*]

---

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | <pre> -w master   model database] -y [password] ] -z page_size [k   K ] </pre>                                                                                                                                                                                                                               |
| sqlupgrade    | <p>UNIXプラットフォームのみ – X11/Motif ベースの GUI を使用して、現在インストールされている Adaptive Server のバージョンを最新のリリースにアップグレードします。</p> <pre> sqlupgrade -s sybase_dir] -r resource_file] </pre> <ul style="list-style-type: none"> <li>• または : <code>sqlupgrade -v</code></li> </ul>                                                      |
| sqlupgraderes | <p>UNIXプラットフォームのみ – リソース・ファイルを使用して、現在インストールされている Adaptive Server のリリースを最新のリリースにアップグレードします。</p> <pre> sqlupgraderes -s sybase_dir] -r resource_file] </pre> <ul style="list-style-type: none"> <li>• または : <code>sqlupgraderes -v</code></li> </ul>                                                           |
| srvbuild      | <p>UNIXプラットフォームのみ – キー設定属性のデフォルトまたはユーザ定義の値を使用して、Adaptive Server、Backup Server、Monitor Server、または XP Server を新しく作成します。</p> <pre> srvbuild -s sybase_dir] -l interfaces_file] -r resource_file] </pre> <ul style="list-style-type: none"> <li>• または : <code>srvbuild -v</code></li> </ul>                      |
| srvbuildres   | <p>UNIXプラットフォームのみ – リソース・ファイルを使用して、キー設定属性のデフォルト値またはユーザ指定の値を使って Adaptive Server、Backup Server、Monitor Server、または XP Server を新しく作成します。</p> <pre> srvbuildres -s sybase_dir] -l interfaces_file] -r resource_file] </pre> <ul style="list-style-type: none"> <li>• または : <code>srvbuildres -v</code></li> </ul> |
| startserver   | <p>UNIXプラットフォームのみ – Adaptive Server または Backup Server を起動します。</p> <pre> startserver [[-f runserverfile] [-m]] ... </pre>                                                                                                                                                                                     |
| sybdiag       | <p>包括的な Adaptive Server 設定および環境データを収集する Java ベースのツールです。Sybase サポート・センタはこの情報を使用してサーバの問題を診断することにより、迅速なトラブルシューティングを行えるようにしています。</p> <pre> sybdiag -U username [-P password] -S [server_name   host:port] -l interfaces_file] -L log_file] -N num_threads] -O output_directory] -R resource_file] </pre>         |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             | <pre> [-T <i>feature_list</i>] [-h] [-m <i>message_level</i>] [-v] </pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| sybcluster  | <p>クラスタ環境のみ – Sybase 共有ディスク・クラスタを管理します。sybcluster では、クラスタ、またはクラスタ内の任意のインスタンスを作成、起動、停止、管理できます。</p> <pre> sybcluster [-C <i>cluster_name</i> ] [-d <i>discovery_list</i> ] [-F <i>agent_connection</i> ] [-h ] [-l <i>instance_name</i> ] [-i <i>input_file_path</i> ] [-L ] [-m <i>message_level</i> ] [-P [<i>password</i> ]] [-U <i>user_name</i> ] (デフォルト値は “uafadmin”) [-v ] </pre>                                                                                 |
| sybmigrate  | <p>Adaptive Server のページ・サイズを別のページ・サイズに変換し、プラットフォーム間でマイグレートします。</p> <pre> sybmigrate [-v] [-h] [-f] [-D 1   2   3   4 ] [-l <i>interfaces_file</i> ] [-r <i>input_resource_file</i> ] [-m setup   migrate   validate   report ] [-rn status   space_est   repl   diff   password ] [-l <i>log_file</i> ] [-t <i>output_template_resource_file</i> ] [-J <i>client_charset</i> ] [-z <i>language</i> ] [-T <i>trace_flags</i> ] [-Tase <i>trace_flags</i> ] [-f ] </pre> |
| sybtspasswd | <p>ユーザのパスワードを記録および変更し、TSM (Tivoli Storage Manager) 暗号化パスワード・ファイル <i>TSM.PWD</i> を TSM クライアント・マシンに作成します。このファイルのロケーションは、TSM 設定ファイルの <i>PASSWORDDIR</i> 設定パラメータによって指定されたディレクトリです。</p> <pre> sybtspasswd </pre>                                                                                                                                                                                                                                                            |
| xpserver    | <p>XP Server を手動で起動します。</p> <pre> xpserver -S <i>XP_Server</i> xpserver -S<i>XP_Server</i> [-l<i>interfaces_file</i>] [-p<i>priority</i>] [-s<i>stack_size</i>] [-u] [-v] [-x] </pre>                                                                                                                                                                                                                                                                                  |